

緑化に関する調査報告

(その51)

令和6年3月

東京都建設局

目 次

I. 技術調査・計画編

1. 多様な生物が生息する都立公園づくりの取組 進捗状況について

東京都西部公園緑地事務所 工事課緑化推進担当 阿部好淳、岡田岬

2. 大戸緑地希少生物調査／大戸緑地希少猛禽類調査

東京都西部公園緑地事務所 工事課野山北・六道山公園建設担当
岡加奈子

3. 自然公園におけるDX推進の取組

東京都環境局 自然環境部緑環境課 堀雅美

4. 道路植樹帯における新しい低木候補樹種の特性評価

公益財団法人東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター
緑化森林科 長嶋大貴

Ⅱ．管理運営編

1．令和4年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
田中利彦

2．令和5年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館 アメニス夢の島グループ
統括責任者 遠藤岳生

3．ナラ枯れによって都立公園の樹林はどのように変化したのか

～砧公園・光が丘公園～

公益財団法人東京都公園協会 公園事業部事業管理課
防災区部西エリア維持係
松元信乃

Ⅲ. 資料編（グリーン・ファイル）

1. 東京都の道路緑化状況

東京都建設局 公園緑地部計画課道路緑化計画担当

2. 令和4年度 都立公園等植栽本数一覧表

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種

4. 委託調査一覧（令和4年度）

5. 令和5年度 花の見ごろ情報年間リスト

6. 都立公園における都民協働団体一覧

7. 東京都都市公園制度制定150周年記念事業によるヤマボウシ植樹先一覧表

東京都建設局 公園緑地部計画課企画担当

8. バックナンバー目次（その1～その50）

多様な生物が生息する都立公園づくりの取組 進捗状況について

西部公園緑地事務所工事課緑化推進担当

阿部好淳、岡田岬

I. はじめに

1. 生物多様性の動向

世界経済フォーラム（WEF）の「グローバルリスク報告書」によると、今後10年間の深刻なグローバルリスクの4位に生物多様性の喪失や生態系の崩壊がランクインしており、生物多様性の保全が世界全体で求められている。東京都でも地域に根付いた緑や豊かな自然を守るために生物多様性を重視しており、建設局では「パークマネジメントマスタープラン（案）」において、令和6年度から15年度を計画期間とした都立公園の生物多様性向上プロジェクトを掲げている。本プロジェクトは平成26年から継続的に進めている「多様な生物が生息する都立公園づくり」を位置づけたものであるが、近年の動向も踏まえて期待が高まっている。本稿では今後の生物多様性事業の参考として、西部公園緑地事務所で管轄している多摩部の都立公園のうち、令和5年度に工事を終えた4公園の整備事例等を中心に報告する。

II. 多様な生物が生息する都立公園づくりについて

1. 目的

「多様な生物が生息する都立公園づくり」の取組は、都立公園における生物多様性の保全及びその普及啓発をボランティア活動等による都民協働も交え積極的に行おうとするものである。本土部における都立公園は、丘陵地、台地、低地まで豊かな自然を有する地域から都心の市街地にわたり広く分布し、絶滅危惧動植物を含む多くの生物の生息生育拠点となっている。また、多くの都民による公園利用を通じ、自然環境や生物多様性保全に関する普及啓発・環境学習の場や、環境保全活動等の都民協働によるボランティア活動など、公園の新たな利用価値として期待が高まっている。

2. 対象公園

パークマネジメントプラン等の既定計画と整合し、緑や水のネットワーク及び自然環境の状況、公園利用の現況、生物多様性保全等の取組状況、期待される事業効果、公園整備の進捗状況等の観点から、特に多様な生物が生息生育する都立公園づくりの対象に資する公園として環境整備対象31公園を選定している(表1)。

表1 環境整備対象31公園

区分	立地	環境整備対象公園	区分	立地	環境整備対象公園
多摩部 西部公園 緑地事務所	丘陵地	小山田緑地	区部 東部公園 緑地事務所	台地	石神井公園
		東大和公園			代々木公園
		長沼公園			和田堀公園
		八国山緑地			赤塚公園
		平山城址公園			砧公園
		狭山公園			光が丘公園
		小宮公園			林試の森公園
		野山北・六道山公園			大泉中央公園
		桜ヶ丘公園			善福寺公園
		滝山公園			水元公園
	台地	小山内裏公園	低地	葛西臨海公園	
		東村山中央公園		浮間公園	
		野川公園		鶴江恩賜公園	
		武蔵野公園		舎人公園	
		井の頭恩賜公園			
		小金井公園			
		浅間山公園			
小計	17	小計	14		

3. 進め方

本事業では対象公園の「保全利用計画」を作成し、「設計業務」を経て「環境整備工事」を行う。環境整備工事箇所はその後の動植物の状況を把握するために7年間の「モニタリング」を行い、成果を検証する（表2）。それぞれの内容について紹介する。

項目	事業の進め方と年次スケジュール			
	1～2年	1年	1～2年	7年
事業年数	保全利用計画	設計業務	環境整備工事	モニタリング ※最終年に検証

（1）保全利用計画・設計業務

保全利用計画は、当該公園においてどのような動植物が生息・生育しているかを把握するため、既存資料による情報収集をはじめ公園全域のモニタリングを実施する。合わせて指定管理者との協議や、市民団体等からの意見を反映させるための意見交換会（各公園の実情を踏まえて、学識経験者、関係する市民団体、地域住民、公園利用者等にご出席いただく）を3回程度行い、各公園の生物多様性に関わる目標やゾーニング、今後の環境整備や管理、モニタリングや普及啓発等を含めた「保全利用計画」として作成する。策定した計画をベースに環境整備工事の具体的な設計業務等を進める。

（2）環境整備工事

環境整備工事は、対象区域で実施する工事内容や施工計画について指定管理者と調整を行ったうえで進める。特に施工計画については、使用する機械、作業方法や工程について、協議・調整・確認を行ったうえで進める。

（3）モニタリング

環境整備工事完了後は、春・夏・秋・冬・早春の季節を通じて7カ年動植物のモニタリングを行う。事業の進捗状況やモニタリング情報を共有する場として、多様性事業連絡会（都、指定管理者、市民団体等で構成する連絡会）を立ち上げ情報共有を図る。なお、モニタリングの他に、環境整備工事対象区域における維持管理も含み、下草刈りや外来種の駆除等、多様性に資するきめ細かい順応的な維持管理を行い動植物の保全活動に努める。また、希少な動植物の確認されたフィールドについては、ガイドツアーや観察会等を開催し来園者へ普及啓発を図る。

Ⅲ. 多摩部（西部公園管轄）の進捗状況

多摩部では17公園が対象となっており、15公園で事業を進めている。現在、保全利用計画・設計業務を進めているのは7公園で、うち3公園（小金井公園、浅間山公園、野山北・六道山公園）は計画策定、4公園（小宮公園、野川公園、武蔵野公園、井の

表3 多摩部公園での進捗状況

事務所	立地	公園	進捗状況（令和5年度末現在）				
			保全利用計画	設計業務	環境整備工事	モニタリング	指定管理へ移行
西部公園管内	丘陵地	1 小山田緑地					
		2 東大和公園					
		3 長沼公園					
		4 八国山緑地					
		5 平山城址公園					
		6 狭山公園					
		7 小宮公園					
		8 野山北・六道山公園					
		9 桜ヶ丘公園					
		10 滝山公園					
		11 小山内裏公園					
	台地	1 東村山中央公園					
		2 野川公園					
		3 武蔵野公園					
		4 井の頭恩賜公園					
		5 小金井公園					
		6 浅間山公園					

頭恩賜公園)は計画策定を経て環境整備工事の設計業務や調整等の準備を進めている。環境整備工事が完了しているのは8公園で、うち4公園(狭山公園、小山内裏公園、東村山中央公園、平山城址公園)は今年度(令和5年度)工事を終えて令和6年度からモニタリングへ移行、残り4公園(長沼公園、小山田緑地、東大和公園、八国山緑地)は令和5年度でモニタリング期間が終了となる。本稿では環境整備工事を終えた4公園を事例として報告する。

1. 環境整備工事事例

(1) 狭山公園

①概要

狭山公園は多摩湖東側に面した狭山丘陵の公園である。豊かな樹林に、開放感のある広場や池を擁しており、全長10.5kmの狭山・境緑道、同じく11kmの多摩湖自転車歩道の起点ともなっている。保全・利用計画での目標を「狭山丘陵のエントランスとなる多様な生き物がすむ環境の創出」とし、そのうち保全整備工事を4つのエリアで実施し、パークセンター前には普及啓発看板を設置した。



図1 狭山公園整備エリア

②工事内容

環境整備にはそれぞれ目標があるが、主な内容は樹林地整備である。長年手付かずとなっていた樹林地において、中高木の皆伐や間伐等を行うとともに、林床のアズマネザサ等の伐開等を行った。

対象地のひとつである「太陽広場北側の丘」では、ハルゼミの生息地回復を目標に、アカマツやヤマツツジを残した間伐を行うとともに、近隣の東大和公園からボランティアを中心に管理・育成しているアカマツの実生苗を分けてもらい、50本を移植した。整備後の数年間は日差しが地表まで届くため、様々な草本や実生木を選別的に除去するなどの管理が必



写真1 太陽広場北側の丘 環境整備前後写真



写真2 パイオネス

要となるが、モニタリング事業と合わせて順応的な管理を進めていく。そのほかのエリアでは、若齢林の維持や、野鳥の生息環境の向上などを目標に環境整備を行っている。本工事での発生材の一部は、薪としての加工や、土砂流出防止等を兼ねた粗朶柵や生き物の利用も期待したバイオネスト（発生した剪定枝や幹などの植物発生材を組み合わせ、まるで鳥の巣のような形状となることから、こう呼ばれています）として利用している。

（２）小山内裏公園

①概要

小山内裏公園は多摩丘陵の主稜線上にある公園である。昔からの自然が残されており、丘陵地に挟まれた6つの谷戸からなっており、そのうち4つのサンクチュアリは、動植物の保護・保全のため、立ち入り禁止区域としている。保全・利用計画での目標を「6つの谷戸が織りなす多摩丘陵の核となる里山の保全活用」とし、そのうち津島谷戸と九半歩谷戸の2エリアを環境整備エリアとした。

②工事内容

津島谷戸はサンクチュアリとして閉鎖管理地となっており、水辺や里山に生息する多様な生き物が生息・生育している。谷戸部の湿地では以前クサレダマが生育していたが、周辺の樹木等の被圧もあり、現在は公園パークセンター前の野草見本園内で保全している個体のみとなっている。そこでクサレダマが生育できるような明るい湿生環境を再生するとともに、明るい水辺から薄暗い水辺に生息する生物の安定した生育環境の保全を目標に、高木伐採や、ササ刈

り、発生材を活用した粗朶柵の設置を行った。また閉鎖管理地内の生きもの情報を発信するため、津島谷戸の外周に情報を更新できる看板を設置した。今後はモニタリング事業と併せた情報発信に努めていく。



図2 小山内裏公園整備エリア



写真3 津島谷戸 環境整備前後写真



写真4 クサレダマ



写真5 タマノホシザクラ

続けて九反歩谷戸は、希少なタマノホシザクラの個体群の生息地となっているが、周辺樹木に被圧されている状況となっていた。これらを保護するとともに大径木化したコナラの更新を行い、里山に生息する多様な生き物の生息空間とするため、津島谷戸と同様に高木の間伐等の環境整備を行った。2つの谷戸における樹木伐採では、密度等も踏まえながら残すものとそうでないものを選択したが、ナラ枯被害が環境整備の前後に急速に拡大したため伐採本数が想定以上に増え、残った樹木が少なくなってしまった。今後は再生も踏まえて進めていくことが求められる。また当初予定では、2つの谷戸以外にも工事対象地としていた場所もあったが、工事期間中にオオタカの営巣が見られたため工事は中止としている。今後は環境整備を行った2つの谷戸のモニタリングや効果検証を行い、工事を中止した場所の再計画や、他の谷戸の効果的な環境整備や維持管理につなげていけるよう検討を進めていく。

(3) 東村山中央公園

①概要

東村山中央公園は通産省跡地に、緑を基調とした公園づくりを意識して整備された東村山市にある公園である。西武多摩湖線に沿って東西に広がり、真ん中の中央広場を西側のバードサンクチュアリと東側の樹林地が挟むつくりとなっている。

保全・利用計画での目標を「街の中に残された生物多様性を保全し、自然とふれあう場を提供する」とし、環境整備工事はバードサンクチュアリのあるエリアを中心に行った。

②工事内容

バードサンクチュアリは昭和63年の開園以降、閉鎖管理としており、周囲の安全管理以外はほぼ手をつけていなかったため樹木が高木化し鬱蒼とした環境となっていた。そこで利用している動植物に極力影響を与えないように、林内に野鳥が利用する空間を設けることや、外来種や実生木が繁茂しすぎないように除去することを当初の段階で計画した。しかしコナラ等の樹木



図3 東村山中央公園整備エリア



写真6 バードサンクチュアリ 環境整備前後写真



写真7 井戸設置状況

写真8 整備後の池と樹林地

を中心に外ナラ枯れ被害が拡大し、環境整備工事中にも更に拡大したため追加での伐採を余儀なくされた。最終的には当初の予定の数倍にも及ぶ100本近くの枯損木を伐採することとなった。鬱蒼とした環境から、想定以上に開けた空間へと一変したため、今後は雑木林として若木を中心に再生してことが求められる。またバードサンクチュアリ内には野鳥が利用する池があり、バードサンクチュアリ周辺の流れを循環する施設となっていたが、上水を水源としていたこともあり漏水問題により休止していた。そのため池は雨水がたまる場所となり、流れは水の流れない場所となっていた。そこで、漏水調査によって循環経路を再整備するとともに、安定した水源を確保するために井戸を掘ることで、野鳥等の生き物が池と流れを利用できる環境を復元した。工事後には早速水を求めて鳥類が集まり来園者を楽しませていた。そのほか、遊具広場の近くに小さな草地エリアを設けた。高茎草本も踏まえて、今後子どもたちが生きもの観察等をできるような普及啓発の場として活用していく。

(4) 平山城址公園

①概要

平山城址公園は、その昔、源氏方侍大将・平山季重が居住していたことにちなんで名づけられた多摩丘陵の一角の公園で、コナラやクヌギ等の雑木林を中心に、サクラが点在して、春には色を添えている。公園内で高低差が30mほどあり、湧水を集めた小さな猿渡の池がある。保全・利用計画での目標を「かつて人の手によって管理されていた美しい里山の環境を取り戻し、多摩丘陵の自然を身近に感じられるような公園とする」としており、環境整備工事を行うエリアは猿渡の池と、公園北口から猿渡に続くさくらの道とした。



図4 平山城址公園整備エリア



写真9 猿渡の池



写真10 観察デッキ

②工事内容

猿渡の池は公園内の湧水が集まる人工池であり、池底はコンクリートとなっている。主に小鳥の利用が見られていたが、樹冠が池全体を覆い暗くなっていたため、水生生物の生息は

少ない状況となっていた。そこで有識者やボランティアとの現場打合せを行い、生物多様性向上を高めていくため、池まわりの樹木の間伐等を行い、トンボ類が活用できる明るい水辺空間として整備した。池底には土や落ち葉等が堆積していたため除去し、池まわりには剪定枝を活用して土の流出防止のための粗朶柵を設置した。また池全体がロープ柵に覆われており、生き物の観察がしづらい環境となっていたため、観察環境を整えるために観察デッキを池の上部に新たに設置し、ロープ柵の見直しや普及啓発看板や掲示板の設置等を行った。本事業や今後の生き物情報は掲示板にて更新していく。

さくらの道では、イベントや団体利用における環境学習で活用いただけるよう野外卓や縁台の増設を行った。また周囲にナラ枯被害が広がっていたため、さくらの道まわりの雑木林の枯損木伐採を行ったところ、対象としたエリアのほぼすべてのコナラやクヌギがなくなってしまう状況となった。そこで、平成29年度に近隣の長沼公園で採取した実生から育てたコナラ苗22本の植栽を行った。今後実生苗の育成等も含めて、若い健全な雑木林として復元していくとともに、身近な環境学習の場として活用を図っていく。

2. 主な環境整備

各公園の整備工事において、雑木林は多摩部の都立公園の多くの場所で見られ、今回も全公園で共通して環境整備工事を行っている。雑木林での環境整備工事は今後も多くの場所で検討されることが見込まれるため、特に検討が必要と感じた点について共有したい。

(1) 更新方法

多くの都立公園の雑木林では、里山としての維持管理が行われなくなったことによる、コナラやクヌギ等の大径木化が見られる。生物多様性を確保していくためには更新を検討する必要がある、萌芽更新が手法のひとつに挙げられる。しかし本工事では定期的な管理が行われてこなかった雑木林を対象としていたため、大径木の伐採後は萌芽せずに枯れる状況が多く見受けられた。更新を効果的に進めるためには、実生苗の現地での保護や育成、域外での苗木の育成など、複数の更新方法を事前に用意しておく必要性を感じた。

(2) 発生材の活用

本工事では樹木伐採等により発生材が多く出ている。これらを園外搬出处分とすると費用が嵩み、環境負荷があるため、本工事ではなるべく活用できるように努めた。まずは園内での活用として、土砂の流出防止も兼ねた粗朶柵、生き物の生育場所にもなるバイオネストも含むエコスタック（生きものが集まるように葉や草、木の枝などを積んだものことです）とをできる限り活用した。園内で活用しきれないものは、丸太や薪として加工した。加工した発生材は乾燥するため、野山北リサイクルセンターへ搬出したが、発生材量が多かったため



写真 1 1 粗朶柵

活用できなかったものは園外搬出処分とせざるを得ない状況となった。今後有効活用を図るために更に検討していく必要がある。

（３）ナラ枯れ被害の影響

2019年から都立公園でも蔓延したナラ枯れ被害の影響を受け、本工事でも多くの枯損木を伐採し、中には皆伐に近い状況となった場所もある。本事業では幸いにも7年間のモニタリング事業期間に若齢林へ更新していくことができるが、対応できた雑木林はその一部である。今回環境整備工事を行ったエリアだけでなく、ナラ枯れによる枯損木が残り、今後の方針が必要となる場所は公園内にもまだ多く残っている。ナラ枯れ被害を受けて雑木林の若齢林へ更新していくのか、自然に任せて遷移していくのか、はたまた位置づけの見直しを行うのか、今後モニタリングの状況も踏まえて検討していく必要がある。



写真１２ ナラ枯伐採後（平山城址公園）

IV. おわりに

本稿では多様な生物が生息する都立公園づくり事業の事例報告をしてきたが、生き物に関する事業は予定通りにいかないことも多く、状況に応じた順応的な管理が継続的に求められることとなる。今回整備したエリアの中にも、工事後に早速オオタカの営巣があるなど、生き物は環境変化に敏感に反応すると改めて感じた。各公園の立地特性や環境特性に応じた丁寧な取組が求められることとなるが、生きものの生息環境を確保するための環境整備工事や維持管理には共通点も多く見られるため、情報を蓄積していくとともに、都立公園に関わらず同じような環境を有した公園や緑地等でも参考となる事例にしていくことが必要であると感じる。

また都立公園においては環境を確保していくだけでなく、その場所を見守り関わっていただける専門家やボランティア等の存在が大きいと感じる。公園における保護と利用とのバランスをとりながら公園の自然環境や生き物について積極的に発信し、多様な生き物が生息する緑豊かな公園を次世代につなげいけるよう、普及啓発に努めたい。

大戸緑地希少生物調査

西部公園緑地事務所

工事課 野山北・六道山公園建設担当

岡 加奈子

1. 調査概要

1.1 調査期間

自 令和3年10月13日 ～ 至 令和4年11月30日

1.2 調査範囲

東京都町田市相原町地内ほか(大戸緑地)

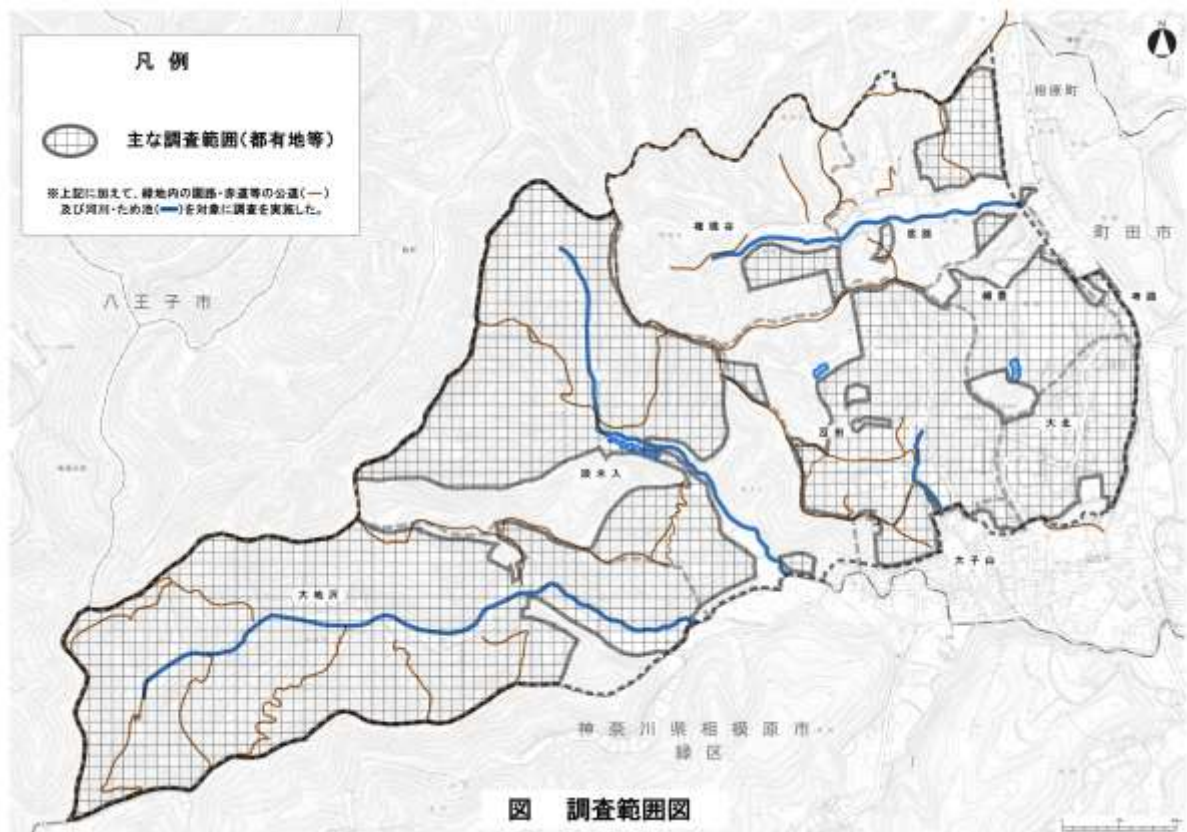


図 1-1 調査範囲図

1.3 調査の内容

大戸緑地の自然環境の保全と適切な公園整備や管理に資する情報を得るため、大戸緑地周辺に生息・生育する希少生物の生息・生育・繁殖状況についてモニタリングを行い、整備予定地について「自然環境保全計画(案)」を作成した。

(1) 植物調査

大戸緑地において植物相及び希少植物モニタリング調査を実施した。

「大戸緑地植生管理計画策定業務委託報告書」(平成 26 年)における希少植物一覧掲載種(70 種以上)及び既往調査において確認された希少植物を対象とした。

現地調査において希少植物及び特定外来生物(植物)を確認した場合は、確認地点及び生育状況を記録した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 4 回(春季、初夏、夏季、秋季)

【調査範囲】 大戸緑地全域

(2) 哺乳類、両生類、爬虫類調査

1) 生息状況調査

大戸緑地に生息する哺乳類、両生類、爬虫類の生息状況の把握を目的として、大戸緑地の全域を任意踏査した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 3 回(早春、春、夏季)、1 回あたり 2 日間以上で複数名にて実施

【調査範囲】 大戸緑地全域

2) 夜間調査

大戸緑地に生息する夜行性小動物(コウモリ類、ムササビ等)の生息状況の把握を目的として、夜間調査を実施した。

【調査期間】 4 月～7 月

【調査頻度】 3 回(1 回あたり 0.5 日程度)、1 回あたり 2 人で実施

【調査範囲】 大戸緑地全域

3) トラップ調査

大戸緑地に生息する小型哺乳類(アズマモグラ、ヒミズ、アカネズミ、ヒメネズミ等)の生息状況の把握を目的として、大戸緑地内にトラップを設置し捕獲調査を実施した。

【調査期間】 6 月

【調査頻度】 1 回(1 回あたり 2 人×3 日(2 晩設置))

【調査箇所】 3～4 箇所(1 箇所あたり 30 個程度)

【調査範囲】 大戸緑地全域

4) 無人撮影調査

大戸緑地に生息する小動物の生息状況の把握を目的として、大戸緑地内に 5 台程度の無人撮影機を設置し、公園内に生息する小動物の利用状況を把握した。

【調査期間】 2 月～10 月

【調査頻度】 3 回(生息状況調査と兼ねて実施)

【調査箇所】 5 箇所程度の設置

【調査範囲】 大戸緑地全域

(3) 鳥類調査

大戸緑地に生息する鳥類の生息状況を把握するために、スポットセンサス調査(10 分間)を実施した。また、地点間を移動する際などに確認した鳥類については、確認位置を記録し、公園全体の鳥類相の把握し、植生区分別の出現傾向について整理した。

【調査期間】 12 月～1 月、5 月～6 月

【調査頻度】 2 回(1 回あたり 1 日)越冬期、繁殖期

【調査箇所】 スポットセンサス地点数は 10 箇所(調査地点は植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

(4) 昆虫類及びクモ類調査

1) 任意採集

大戸緑地に生息する昆虫類の生息状況の把握を目的として調査を実施した。

調査方法としては、ビーティング法、スウィーピング法を用いて昆虫相の把握に努めた。クモ類については任意採集を実施し、生息状況の把握に努めた。

【調査期間】 4 月～10 月

【調査頻度】 4 回(春・初夏・夏・秋)

【調査範囲】 大戸緑地全域

2) バイトトラップ調査

地表歩行性の昆虫類の生息状況を把握することを目的として実施した。

【調査期間】 5 月～9 月

【調査頻度】 2 回(初夏・秋)

【調査箇所】 トラップ数は 6 箇所程度(調査地点は代表的な植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

3) ライトトラップ調査

夜間、灯火に飛来する性質を持つ昆虫類を対象として蛍光灯やブラックライト(紫外線灯)で昆虫類を誘引した。調査ではボックス式を用いた。

【調査期間】 5 月～9 月

【調査頻度】 2 回(初夏・秋)

【調査箇所】 トラップ数は 6 箇所程度(調査地点は代表的な植生区分別に設置する)

【調査範囲】 大戸緑地全域

5) ムカシヤンマ生息状況調査

指定管理者により生息が確認された希少種ムカシヤンマの生息状況を明らかにするため、モニタリング調査を実施した。調査は成虫が羽化している時期を見定めて任意踏査により個体数の把握に努めた。また、幼虫が生息している可能性のある場所についても任意に踏査し、可能な限り幼虫を確認するものとした。

【調査期間】 5月～7月

【調査頻度】 3回(各月1回)

【調査箇所】 1回あたり2人で実施

【調査範囲】 段木入広場の水路付近

(5) 陸産貝類調査

大戸緑地に生息する陸産貝類の生息状況を把握するために、任意採集調査を実施した。調査は、公園全体を踏査し確認位置を記録し、整理した。

【調査期間】 5月～10月

【調査頻度】 2回 夏季、秋季

【調査範囲】 大戸緑地全域

(6) 水生生物調査

大戸緑地に存在する河川とため池を対象として、生息している水生生物について定性調査を実施した。調査対象は魚類・底生生物とした。

【調査期間】 1月～10月

【調査頻度】 3回

【調査範囲】 対象河川(4ヶ所)、ため池(4ヶ所)

2. 調査結果

大戸緑地は町田市の西端に位置し、東京都と神奈川県の間をなす境川流域にあたる。丘陵地に接する山地であり、山地と丘陵地の要素をもつことが特徴である。地形は急峻で尾根部と谷底部にあるわずかな平坦地を除いては殆どが急傾斜地となっている。

植生は古くは薪炭林や植林として利用されてきたことから代償植生が広がっている。コナラを主体とした落葉広葉樹林が最も優占し、集落近くの山地斜面や尾根を中心に分布している。次いでスギ・ヒノキ植林が集落から離れた谷沿いや谷戸奥を中心に広く分布している。この他、尾根部にはスダジイやモミ等の常緑高木が点在もしくはまとまって分布している。林床植生はアオキが優占するアオキ型、ヒサカキやアラカシ、スダジイ、ヤブツバキ等の常緑樹が優占する常緑低木型(アオキ以外)、ヤブムラサキやムラサキシキブ、ヤマツツジ等の落葉樹が優占する落葉低木型、アズマネザサが優占するササ型などが分布している。また、谷底部の平野には草地や田畑、果樹園などが分布している。

このような環境下において、これまでに植物は 152 科 1081 種、哺乳類は 11 科 22 種、鳥類は 30 科 69 種、爬虫類は 5 科 9 種、両生類は 5 科 11 種、昆虫類・クモ類は 311 科 1774 種、陸産貝類は 9 科 22 種、魚類は 5 科 9 種、底生動物は 73 科 178 種確認されている。

表 2-1 確認総数

		総数	今回	備考(実施年)
植 物		1081種	785種	H22,H24～H27,H30,H31,R03・04
動 物	哺乳類	22種	17種	H22,H31,R03・04
	鳥 類	69種	53種	H22,H27～H31,R03・04
	爬虫類	9種	5種	H22,H31,R03・04
	両生類	11種	7種	H22,H30,H31,R03・04
	昆虫類・クモ類	1774種	1118種	H22,R03・04
	陸産貝類	22種	22種	R03・04
	魚 類	9種	8種	H22,R03・04
	底生動物	178種	178種	R03・04
合 計		3175種	2193種	—

注1: 鳥類調査の内、H27～H31実施分は猛禽類やミゾゴイ等の特定種のみを対象とした調査。

注2: 両生類調査の内、H30実施分はタゴガエルのみを対象とした調査。

注3: 表中には記していないが、H29に哺乳類、H30に魚類の任意記録あり。

2.1 植 物

(1) 確認状況

今年度調査では合計 785 種の植物が確認された。特定外来植物は過年度にアレチウリの記録があるが、今年度は確認されなかった。

1) コナラ林

広く分布するコナラ林には、モミヤスダシイも混生し、尾根筋ではオニシバリ、ササバギンラン、クロムヨウランなど、斜面下部ではカタクリの大群落も確認された。林床ではイヌシデ、ヤマザクラ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、コウヤボウキ、アズマネザサ、シュンラン等が確認された。

2) 沢沿いの針広混交林

オシャグジデンド、ルイヨウボタン、ユキザサ等は沢沿いでのみ確認された。過年度にはミヤコヤブソテツやハクウンラン等の貴重な植物も確認されている。この他、ゼンマイ、シケシダ、ミツバウツギ、ダイコンソウ、ミヤマカンスゲなど陰湿な樹陰に生育する種が確認された。

3) ため池周辺の樹林

ため池周辺では、重要種のオオオキヨズミシダを唯一確認したほか、オニカナワラビ、アスカイノデ、リョウメンシダ、ベニシダ等多くのシダ植物や、ランヨウアオイ、ホドイモ、ヒサカキ、アオキ、ジャノヒゲ、セントウソウ等の樹林性植物が確認された。

4) 沢沿いのスギ林

スギ林にはタマアジサイが繁茂しており、タマアジサイに寄生するキヨスミウツボも新規確認された。この他、ハクモウイノデ、ウシタキソウ、ミゾホオズキ等の陰湿な樹林に生育する種が確認されたほか、沢沿いではヤマネコノメソウ、ネコノメソウ、ニリンソウ等、道沿いの苔むしたコンクリートブロックでは、クモノスダ、タチタネツケバナ等が確認された。

5) 草地、水田、湿地等

ススキ草地ではオミナエシやセンブリ、チガヤ草地ではウマノスズクサ、沿道ではヤブザクラ、オカタツナミソウ等が確認された。この他、草地性のコハコベ、ヘビイチゴ、ヤハズエンドウ、オカトラノオ、ヨモギ等、多くの草本類が確認された。

水田にミズニラ、湿地にショウブ、ネコノメソウ、畦にニリンソウ等が確認されたほか、スギナ、セリ、ハイヌメリ、イボクサ等多くの湿生植物が確認された。

確認種リストは資料編に示す。

(2) 重要種

確認種の内、重要種は合計 80 種であった。表 2-2 に重要種リストを示す。

この内、R04 の新規重要種はアズマイチゲ、キヨスミウツボ、トチカガミ、ヒメニラの 4 種、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はミヤコヤブソテツなど 48 種、継続して確認された重要種はマツサカシダなど 76 種であった。

表 2-2 植物 重要種リスト (1/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準							備考
									3月	5月	7月	9月	文化財保護法	種の保存法	環境省	東京都2020 多摩	神奈川県2020 神奈川	東京都2010 多摩	神奈川県2006 神奈川	
ヒカゲノカズラ	トウゲシバ	○	○	○	○		○	○	●			●						NT		
イワヒバ	タチクラマゴケ							○	●	●						VU		VU		
ミズニラ	ミズニラ	○		○	○		○	○			●				NT	EN	VU	VU	EN	
ハナヤスリ	アカハナワラビ						○	○	●							VU		VU		
	ナガホノナツノハナワラビ						○									EN				
	ナツノハナワラビ	○		○	○		○	○		●	●	●				VU		VU		
	ヒロハハナヤスリ	○					○	○		●						EN		VU		
キジノオシダ	キジノオシダ							○	●							EN	NT	VU	NT	
ウラジロ	ウラジロ	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●				NT		VU		
コケシノブ	アオホラゴケ						○	○			●					VU		VU		
	コハイホラゴケ						○									EN		VU		
コバノイシカグマ	コバノイシカグマ							○		●						VU		CR		
ホングウシダ	ホラシノブ	○						○	●							EN		VU		
シノブ	シノブ						○	○		●		●				VU		VU		
イノモトソウ	マツサカシダ		○		○		○	○	●							EN		EN		
チャセンシダ	トキワトラノオ						○	○								VU		NT		
	クモノスシダ				○		○	○	●		●	●				EN		VU		
シシガシラ	コモチシダ	○	○		○		○	○	●							VU		VU		
オシダ	オオカナワラビ	○					○	○	●							EN		VU		
	ホソバナライシダ						○	○		●						NT		VU		
	オニカナワラビ		○	○	○		○	○	●	●	●	●				VU		EN		
	ナンゴクナライシダ						○	○	●			●				NT		VU		
	ミヤコヤブソテツ						○	○								CR		NT		
	イワヘゴ				○		○	○	●							VU		VU		
	サイゴクベニシダ		○		○		○	○								EN		VU		
	マルバベニシダ	○	○		○		○	○	●		●					EN		EN		
	サクライカグマ							○								EN		VU		
	キヨスミヒメワラビ	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●						VU		
	トウゴクシダ	○	○	○	○		○	○	●			●				NT		NT		
	ヒメイトチシダ						○	○	●							EN				
	ナガバノイタチシダ						○									VU		CR		
	アスカイノデ		○		○			○	●			●				VU		VU		
	オオキヨズミシダ							○	●							EN		VU		
ヒメシダ	コハシゴシダ							○								VU		VU		
メシダ	ホソバスイワラビ	○		○	○		○	○		●	●	●				VU		VU		
	セイトカシケシダ			○	○	○	○	○								NT		NT		
	ハクモウイノデ	○		○			○	○		●	●					NT				
ウラボシ	オシダグジデンダ						○	○	●							CR		DD		
イラクサ	ミズ	○														NT		NT		
キンボウゲ	ニリンソウ	○	○				○	○	●	●						NT				
	イチリンソウ	○	○				○	○	●							NT				
	アズマイチゲ (注4)								●							VU	NT	VU	NT	
メギ	ルイヨウボタン	○		○	○	○	○	○		●	●					EN	VU	VU	EX	
マツモ	マツモ						○	○								CR	EN	EX	EN	
ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	○		○	○		○	○		●						VU		VU		
	ランヨウアオイ	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●				EN		CR		
マタタビ	ウラジロマタタビ							○								VU		VU		
オトギリソウ	トモエソウ						○	○								EN		VU		
アブラナ	タチタネツケバナ	○					○		●	●						NT				
	イヌナズナ							○	●							VU				
ユキノシタ	チダケサシ	○		○	○		○	○			●							NT		
	ネコノメソウ	○	○	○	○	○	○	○	●							NT		NT		
	ヤマネコノメソウ		○			○	○	○	●									NT		

表 2-3 植物 重要種リスト (2/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準						備考
									3月	5月	7月	9月	文化財保護法	種の保存法	環境省	東京都 2020 多摩	神奈川県 2020 多摩	東京都 2010 多摩	
バラ	ヤブザクラ	○	○	○	○		○	○	●					EN	VU	EN	VU	VU	
	エビガライチゴ			○	○		○	○							VU		NT		
マメ	ホドイモ							○		●	●	●			VU		NT		
	ユクノキ	○		○	○		○	○			●				EN			EX	
	キハギ	○		○			○	○				●			NT				
カタバミ ミカン	カメウミヤマカタバミ	○	○	○	○		○	○	●		●				NT		NT		
	キハダ	○													VU				
	オオバノキハダ	○		○	○	○	○	○		●		●						CR	
ヒメハギ	ヒメハギ	○		○				○			●				VU				
ニシキギ	オオツルウメモドキ				○	○		○		●					VU		VU		
クロウメモドキ	クロウメモドキ							○			●	●	●		EN				
シナノキ	シナノキ	○		○	○		○	○		●					EN		VU		
シロツグ	オニシバリ	○	○	○			○	○	●	●		●			NT				
ミヅハコベ	ミヅハコベ			○				○	○						CR		CR		
アカバナ	ウシタキシソウ							○		●					VU	VU		EN	
イチヤクソウ	ウメガサソウ							○							NT		NT		
ツツジ	ナツハゼ	○		○	○		○	○		●	●					NT		VU	
リンドウ	リンドウ	○		○				○							VU				
	センブリ			○				○	○		●				EN		EN		
	ツルリンドウ		○	○				○	○		●	●			NT				
ガガイモ	タチガシウ	○		○			○								VU				
アカネ	イナモリソウ							○							VU	VU	VU	EN	
ムラサキ	ホタルカズラ	○	○	○	○		○	○	●	●					VU		VU		
	ヤマルリソウ	○	○	○			○	○	●	●	●				NT				
クマツヅラ	コムラサキ	○													EN				逸出の可能性あり
アワゴケ	ミズハコベ		○					○	○						EN		EN		
シソ	トボナギナタコウジュ			○											VU				
	ミゾコウジュ	○	○		○		○	○							NT	VU	NT		
	オカタツナミソウ	○		○	○	○	○	○		●	●	●			NT		VU		
	ミヤマナミキ	○						○							VU				
ナス	ヤマホオズキ				○		○	○			●	●			EN	CR	NT	CR	VU
	イガホオズキ	○		○		○	○	○			●	●			VU		NT		
ゴマノハグサ	ミゾホオズキ	○		○				○	○	●	●	●			NT				
	コシオガマ	○		○											VU				
	オオヒナノウスツボ							○							EN		EN		
キツネノマゴ	ハグロソウ	○													NT				
ハマウツボ	キヨスミウツボ										●				CR		VU		
スイカスラ	オオツクバネウツギ							○							VU				
オミナエシ	オミナエシ							○	○	●					EN		VU		
キキョウ	ソバナ			○	○		○	○							VU		VU		
キク	オケラ	○		○				○		●		●			NT				
	サワヒヨドリ							○								EN			
	タカオヒゴタイ			○	○		○	○			●				VU	VU	VU	VU	
トチカガミ	トチカガミ											●			NT	・	EX	・	EX
ヒルムシロ	イトモ							○	○	●	●	●			NT	CR	EN	VU	VU
イバラモ	サガミトリゲモ			○	○			○	○						VU	CR	NT		VU
ユリ	ヒメニラ								●						VU	EN	VU	EN	
	カタクリ	○	○					○	○	●					VU	VU	VU	EN	
	ユキザサ	○						○			●				VU	NT			
	ヤマジノホトギス	○													NT	EN	NT	CR	逸出の可能性あり
	アマナ	○	○				○	○	○	●					VU	NT	NT	VU	
ヒガンバナ	キツネノカミソリ	○	○	○	○	○	○	○							NT		NT		
イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ			○				○							CR		NT		
	アオコウガイゼキショウ	○		○	○			○							VU		NT		
イネ	ヌメリグサ	○			○		○								NT		NT		

表 2-4 植物 重要種リスト (3/3) ■: 網掛けは R04 確認

科名	種名	H22	H24	H25	H26	H27	H30	H31	R3-R4				選定基準							備考
									3月	5月	7月	9月	文化財保護法	種の保存法	環境省	東京都2020 南多摩	神奈川県2020 神奈川	東京都2010 南多摩	神奈川県2006 神奈川	
サトイモ カヤツリグサ	ショウブ	○	○	○	○		○	○				●				NT		NT		
	タマツリスゲ							○								VU		VU		
	テキリスゲ						○									NT				
	ヒメシラスゲ			○	○	○		○								EN		VU		
	タカネマスキサ			○	○	○	○	○								EN		VU		
	シカクイ	○		○	○			○								VU	NT	NT		
	クロテンツキ							○								VU		VU		
ラン	エビネ	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●			NT	NT	NT	VU	VU	一部植栽あり
	ギンラン	○		○	○			○		●						VU		VU		
	キンラン	○		○	○		○	○		●	●	●			VU	NT	NT	VU	VU	
	ササバギラン	○		○	○		○	○		●	●	●				NT		NT		
	マヤラン			○				○							VU					
	ツチアケビ 注4)	○			○						●					EN		VU		
	タシロラン	○													NT					
	アケボノシュスラン	○	○		○		○	○								EN	VU	CR	VU	
	ハクウンラン			○	○											CR	EN	CR	VU	
	ムヨウラン			○	○			○								VU	VU	VU		
	クロムヨウラン	○		○	○		○	○	●		●	●						VU	VU	
	コ克蘭	○	○	○	○		○	○	●	●	●	●				NT		NT		
	カヤラン	○	○				○	○	●		●	●				VU	NT	VU	VU	
64科	128種	64種	31種	58種	53種	13種	82種	107種	40	36	37	31	0種	0種	10種	109種	25種	92種	23種	
									80種											

注1) 科及び種の名称、配列等は『植物目録1987(環境庁編,1988)』に基本的に準拠したが、学名は最新のものに更新している。また、未掲載の外来種等が別途追加している。

注2) 植物の生育状況(自生を除く)を次のとおりに分類し、備考欄に記載した。

植栽種: 人為的に植栽された種類。なお、農作物については調査対象としなかった。

逸出種: 栽培植物が一時的に野生化した種類。

外来種: もともとその地域になかった生物が、人間によって外国などから持ち込まれたもの。ここでは幕末の開国以降に渡来した種。

注3) 種の特定に至らない植物のうち、同じ属に含まれる種類が他にあげられている場合は種類数合計には計上しなかった。

注4) H22年度のツチアケビ、R4年度のアズマイチゲは確認位置が調査対象地域外ではあるが、近接地であること、重要種であることからリストに含めた。

注5) ウバメガシ、サツキ、セッコクは植栽されたものであるため、重要種として扱わない。

注6) H30年度のオオムラサキはヒラドツツジの紫花の品種であるため、ヒラドツツジに含めた。

注7) H22年度のヤマジノホトギスは有識者より誤同定の可能性が高いと指摘があった。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県2020・・・『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』(神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編,令和4年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔注〕注目種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版ー』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県2006・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) トウゲシバ

地上生の常緑シダ。空中湿度に注意が必要な種である。

2) タチクラマゴケ

草地に生育する常緑シダ。山麓から路傍の向陽斜面や石垣等に生育する。

3) ミズニラ

多年生の沈水～湿生種。貧栄養の湖沼や溜池、湧水のある河川や水路、水田に生育する。

4) アカハナワラビ

冬緑性の小型シダ。向陽の山地林下に生育する。

5) ナツノハナワラビ

夏緑性のシダ。山地の疎林の林床などに生育する。

6) ヒロハハナヤスリ

4月頃から生長し夏には枯れる小型シダ。

7) キジノオシダ

地上生の常緑シダ。山地林下に生育する。

8) ウラジロ

常緑性の中型シダ。山麓や山地の向陽地に群生する。

9) アオホラゴケ

小型の常緑性シダ。低山林中の湿った岩上や苔むした樹幹等に着生する。

10) コバノイシカグマ

常緑性で地上生の中型シダ。山地林下に群生する。

11) ホラシノブ

常緑性で地上生の中型シダ。日の当たるやや乾燥した場所のやや湿った泥土に生育することが多い。

12) シノブ

夏緑性の着生シダ。山地の岩上や樹幹上に着生する。

13) マツサカシダ

地上生の常緑シダ。暖地の山麓斜面や林縁に生育する。

14) クモノスシダ

岩上生の常緑シダ。山地の岩上に生育する。

15) コモチシダ

地上生で常緑のやや大型のシダ。暖地の向陽の山麓や海岸近く、山林中にも生育する。

16) オオカナワラビ

地上生の常緑シダ。暖地の山地林床に生育する。

17) ホソバナライシダ

夏緑性の地上生シダ。山地林下に生育する。

18) ナンゴクナライシダ

夏緑性の地上生シダ。山地林下に生育する。

19) オニカナワラビ

地上生の常緑シダ。低山地のやや乾いた林中の崖下や林床に生育する。

20) キヨスミヒメワラビ

地上生の常緑シダ。暖地の山中で、やや陰湿な林下に生育する。

21) イワヘゴ

地上生の常緑シダ。暖地の山地の溪側などの陰地の林床に生育する。

22) トウゴクシダ

地上生の常緑シダ。低山地の林下や村落付近などに生育する。

23) マルバベニシダ

地上生の常緑シダ。暖地の低山地の林床などに生育する。

24) ヒメイタチシダ

地上生の常緑シダ。暖地の低地の林縁など比較的乾いたところに生育する。

25) アスカイノデ

地上生の常緑シダ。太平洋側の海岸近くの山林内によくみられるが、内陸にも生育する。

26) オオオキヨズミシダ

地上生の常緑シダ。山地林下斜面や岩場、特に川沿いの立地に生育する。

27) ホソバイヌワラビ

夏緑性の地上生シダ。やや湿った林床などに生育する。

28) ハクモウイノデ

夏緑性の地上生シダ。山地のやや明るい林中から陰湿な林床に生育する。

29) オシャグジデンド

冬緑性の着生シダ。深山の樹幹や岩上に着生する。

30) ニリンソウ

早春季に生育する多年草。温帯林の林床や林間の草地に群落をつくる。

31) イチリンソウ

早春季に生育する多年草。温帯林の日当たりの良い草地や林縁に生育する。

32) アズマイチゲ

早春季に生育する多年草。温帯林の林内や林縁に生育する。

33) ルイヨウボタン

多年草。温帯の落葉広葉樹林の林床に生育する。

34) ウマノスズクサ

つる性の多年草。川土手や畑、林縁などに生育する。

35) ランヨウアオイ

常緑性の多年草。山地の落葉樹林下に生育する。

36) タチタネツケバナ

越年草。河原や林縁など、やや乾いた明るい場所に生育する。

37) イヌナズナ

越年草。路傍や耕作地、河川敷や林縁などに生育する。

38) チダケサシ

根茎がある多年草。明るい林床、林縁、山麓の湿った草原に生育する。

39) ネコノメソウ

小型で軟弱な多年草。山麓の湿地や谷間、水田などにも生育する。

40) ヤマネコノメソウ

小型で軟弱な多年草。林床から林縁、低地の湿った石垣などにも生育する。

41) ヤブザクラ

落葉高木。低山や丘陵地に生育する。

42) ホドイモ

つる性の多年草。日当たりの良い林縁に生育する。

43) ユクノキ

落葉高木。山地の森林中にまれに生育する。

44) キハギ

高さ 2m以上になる低木。日当たりの良い丘陵地や低山地の、特に岩の多いに生育する。

45) カントウミヤマカタバミ

多年草。山地のスギ林やブナ林などに生育する。

46) オオバノキハダ

落葉高木。関東地方・中部地方の山地林内に生育する。

47) ヒメハギ

常緑の多年草。日当たりの良いやや乾いたところに生育する。

48) オオツルウメモドキ

落葉藤本。暖帯から温帯の山野の林縁に生育する。

49) クロウメモドキ

落葉低木または小高木。山地に生育する。

50) シナノキ

落葉高木。山地に生育する。

51) オニシバリ

高さ 1.5m 程の落葉小低木。落葉樹林内に生育する。

52) ウシタキソウ

多年草。湿り気のある山地林下に生育する。

53) ナツハゼ

高さ 3mになる落葉低木。林縁に生育する。

54) センブリ

高さ 5-20cm 程の一年草または越年草。日当たりの良い山野に生育する。

55) ツルリンドウ

つる性の多年草。山地の林下に生育する。

56) ホタルカズラ

多年草。乾いた疎林下の斜面や岩の多いし草地に生育する。

57) ヤマルリソウ

多年草。山の木陰や谷沿いの斜面に生育する。

58) オカタツナミソウ

多年草。低山地の林縁に生育する。

59) イガホオズキ

多年草。山地の林内に生育する。

60) ヤマホオズキ

多年草。山地のやや湿った林下にまれに生育する。

61) ミゾホオズキ

直立または匍匐する柔らかい多年草。山中の水湿地に生育する。

62) キヨスミウツボ

葉緑素を持たない寄生植物。山地の木陰に生育し、カシ類やアジサイ類の根に寄生する。

63) オミナエシ

高さ 1mにもなる多年草。日当たりの良い山の草地に生育する。

64) オケラ

高さ 1mにもなる多年草。低山や山地の乾いた草原、夏緑樹の疎林や林縁に生育する。

65) タカオヒゴタイ

高さ 60 cm程の多年草。低山から山地の夏緑林下に生育する。

66) イトモ

小型の多年生沈水植物。湖沼や溜池、水路などに生育する。

67) ヒメニラ

3~4月に生長し約3週間で地上部が枯れてしまう繊細な多年草。山野に生育する。

68) カタクリ

早春季に生育する多年草。山野に群生する。

69) ユキザサ

半地中性の多年草。山地林下に生育する。

70) アマナ

早春季に生育する多年草。原野に生育する。

71) トチカガミ

多年生の浮葉植物。平地の湖沼や溜池、水路などに群生する。

72) ショウブ

多年生の抽水植物。湖沼や溜池、水路、湿地などに生育する。

73) エビネ

地上生の多年草。暖温帯の樹林下に生育する。

74) ギンラン

地上生の多年草。冷温帯から暖温帯の樹林下に生育する。

75) キンラン

地上生の多年草。暖温帯の疎林下に生育する。

76) ササバギンラン

地上生の多年草。亜寒帯から暖温帯の樹林下に生育する。

77) ツチアケビ

地上生の多年草。菌従属栄養植物。冷温帯から暖温帯の樹林下に生育する。

78) クロムヨウラン

地上生の菌従属栄養植物。暖温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林下に生育する。

79) コ克蘭

地上生の多年草。暖温帯の常緑樹林下に生育する。

80) カヤラン

着生の多年草。暖温帯の木の枝や岩に着生する。

2.2 哺乳類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 17 種の哺乳類が確認された。表 2-5 に確認種リストを示す。

哺乳類では里山を代表するタヌキやアナグマ、山地性のイノシシやニホンジカの他、樹上性のニホンリスやムササビが確認された。これは周辺地域との緑地の連続性が保たれていることを示唆するものと考えられる。なお、イノシシについては各所で掘り返しの痕跡が確認されており、今後、希少植物への被害等が心配される。また、今年度初めて確認されたニホンジカについても摂食により、希少植物やウグイス等の営巣環境に影響を及ぼす可能性がある。

特定外来生物ではアライグマが確認され、段木入地区や大地沢地区等の自動撮影カメラで徘徊する様子がとらえられたほか、段木入地区や権現谷地区等では足跡が確認された。

表 2-5 哺乳類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	亜種	科名	種名	H22		H29		H31			R3-R4				選定基準							備考						
				春	夏	秋	冬	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	文化財 保護法	種の 保存法		環境省	東京都 2020 重要種	神奈川県 2020 重要種	東京都 2010 重要種		
1	ネコ	モグラ	ヒメズ							○			○															
2			アズマモグラ								○	○	●	●	●													
3			モグラ属の一種	○	○	○																						
4	コウモリ	コウモリ	ヒメコウモリ科の一種※	○		○								●														
5			コウモリ目の一種※							○																		
6	ウサギ	ウサギ	ニホンウサギ	○	○	○	○				○		●	●	●	●												
7	リス	リス	ニホンリス	○	○	○								●								VU	NT				重要種	
8			リス属の一種						○		○		●															
9			ムササビ		○				○	○			●	●	●	●						VU		*			重要種	
10	ネズミ	ネズミ	アカネズミ	○	○	○					○				●													
11			ヒメネズミ	○							○																	
12			ネズミ科の一種											●	●	●												
13	ネコ	アライグマ	アライグマ		○		○		○				●	●	●												特定外来生物	
14	イヌ	タヌキ	タヌキ	○	○	○	○	○	○				●	●	●													
15			キツネ	○					○															NT			重要種	
16	イタチ	イタチ	イタチ	○	○				○	○	○		●	●	●									NT			重要種	
17			イタチ科の一種						○				●	●	●													
18			ニホンアナグマ	○	○	○				○	○		●	●	●													
19			イタチ科の一種	○		○	○						●															
20		ハクビシン	ハクビシン			○	○						●	●	●													
21	ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○	○	○	○					●	●	●													
22	シカ	ニホンジカ	ニホンジカ										●	●														
季節別種数合計				12種	10種	10種		6種	8種	7種	9種	14種	14種	13種	3種					0種	0種	0種	2種	3種	1種			
年間合計				14種					15種				17種															

※コウモリ類：H22は45kHz、H31は20kHz、R3-R4は35kHzと45-55kHz。

【選定基準】

文化財保護法…『文化財保護法』(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生動植物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020年重要種…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注目種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010年重要種…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

重要種はニホンリス、ムササビ、イタチの3種であった。表 2-6 に重要種リストを示す。

3種ともに過年度から継続して確認されている。一方、過年度（H22～R01）に確認されたが、今年度確認されなかった重要種ではキツネがあげられる。

表 2-6 哺乳類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

学名	和名	種名	H22			H29	H31			R3-R4				選定基準						備考	
			春	夏	秋	夏	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩		
ネズミ	リス	ニホンリス ムササビ	○	○	○					●							VU	NT		重要種	
ネコ	イヌ	キツネ	○				○	○			●	●	●	●					NT	*	重要種
	イタチ	イタチ					○				●	●	●						NT		重要種
季節別種数合計			2種	2種	1種		3種	1種	0種		2種	3種	2種	1種	0種	0種	0種	2種	3種	1種	
年間合計			3種			0種	3種				3種				0種	0種	0種	2種	3種	1種	

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

[特天] 特別天然記念物 [天] 天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

[国内] 国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [要] 要注意種 [注] 注目種 [減] 減少種 [希] 希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧ⅠA類 [EN] 絶滅危惧ⅠB類

[VU] 絶滅危惧Ⅱ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ニホンリス

本州、四国、淡路島に分布。日本固有種。樹上で主に生息し、植物質を食べる。主に朝と夕に活動し、夜間は球状巣で休息。

2) ムササビ

夜間に樹幹を滑空し、さまざまな冬芽・葉・花・雄花・種子・果実を食べる。日中は樹洞・屋根裏・球状の巣で休息する。

3) イタチ

主な生息地は平野部。ネズミ、昆虫、魚などの小動物を主に食べる。

2.3 鳥 類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 53 種の鳥類が確認された。表 2-7 に確認種リストを示す。

鳥類ではノスリが営巣した他、サシバ、フクロウ等の生態系の上位種や、クロツグミ、オオルリなど山地性の種が確認された。また今回は確認されなかったが、過去にはミゾゴイの営巣も確認されており、山地から丘陵地を反映した結果と考えられる。なお、カワウ、カワセミ、リュウキュウサンショウクイ、アトリの 4 種が今年度新たに確認された。

特定外来生物ではガビチョウとソウシチョウの 2 種が各所で確認され、ガビチョウは冬季・夏季とも、ソウシチョウは冬季にのみ確認された。

スポットセンサスでは植生の異なる 10 箇所を対象に実施し、50m 圏内で 10 分間に出現した鳥類を記録した。全体として樹林、林縁、市街地等多様な環境に適応できるヒヨドリやメジロが優占する結果となったが、②コナラ・モミ林、⑥開放水面の林縁、⑨スギ・ヒノキ植林（林床：アオキ型）では樹林性のエナガやヤマガラの優占度が 10～20%程度と比較的高い結果が得られた。また、夏季調査時には夏鳥として飛来した樹林性のキビタキが多くの地点で確認された。その他、優占度は低いものの各環境を反映して④水田・畑地、伐採跡地では水辺を好むキセキレイや伐採跡地の草地で囀るホオジロ、⑥開放水面の林縁、⑨スギ・ヒノキ植林（林床：アオキ型）では山地の自然林で営巣するコサメビタキ、サンコウチョウ、クロツグミなどが確認された。地点ごとの具体的な結果については資料編に示した。

表 2-7 鳥類リスト ■：網掛けはR04 確認

No.	目名	科名	種名	選定基準										選り 区分	選定基準						備考							
				繁殖期	越冬期	1-3月	4-9月	11-3月	4-9月	4-9月	10-3月	4-9月	1月		6月	生息地 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 選定基準	東京都 2010 選定基準								
1	キジ	キジ	コジュケイ	○	○							●	●	留鳥														
2	カキ	カキ	カルガモ	○	○							●	●	留鳥														
3	ハト	ハト	キジバト	○	○				○			●	●	留鳥														
4			アオバト	○								●	●	留鳥				NT	注	NT								
5	カワウ	カワウ	カワウ									●	●	留鳥														
6	ミソサギ	ミソサギ	ミソサギ				○		○	○				留鳥		VU	EN	CR+EN	EN	重要種								
7	アオサギ	アオサギ	アオサギ	○										留鳥			VU			重要種								
8	カウチ	カウチ	カウチ	○										留鳥														
9	カウチ	カウチ	ホトトギス	○										留鳥			NT		NT	重要種								
10	タカ	ミサゴ	ミサゴ			○								留鳥			NT	EN	VU	EN								
11	タカ	ハチクマ	ハチクマ				○		○					留鳥			NT	EN	CR+EN	CR								
12		トビ	トビ	○		○		○				●	●	留鳥			NT		NT	重要種								
13		ツミ	ツミ	○		○	○	○	○					留鳥			NT	VU	VU	重要種								
14		ハイタカ	ハイタカ			○	○							留鳥			NT	VU	希	VU								
15		オオタカ	オオタカ	○	○	○	○	○	○		○			留鳥			NT	VU	VU	VU								
16		サシバ	サシバ				○						●	留鳥		VU	CR	CR+EN	CR	重要種								
17		ノスリ	ノスリ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	留鳥			VU	VU	VU	重要種								
18	フクロウ	フクロウ	コノハズク					○						留鳥			CR	CR+EN	CR	重要種								
19		フクロウ	フクロウ	○				○		○				留鳥			EN	NT	EN	重要種								
20		アオバスキ	アオバスキ	○					○	○				留鳥			CR	VU	EN	重要種								
21	カワセミ	カワセミ	カワセミ									●	●	留鳥			NT		NT	重要種								
22	カワセミ	カワセミ	ユガタ	○	○							●	●	留鳥														
23		アカガシ	アカガシ	○	○							●	●	留鳥			NT		NT	重要種								
24		アオガシ	アオガシ	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種 (R4)								
25	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ							○				留鳥			VU		VU	重要種								
26		ハヤブサ	ハヤブサ			○								留鳥		国内	VU	VU	CR+EN	VU								
27	スズメ	スズメ	ヤイロチョウ					○						留鳥		国内	EN		DD	重要種								
28			サンショウクイ	○								●	●	留鳥			VU	CR	VU	CR								
29			シロウキウツクシ									●	●	留鳥														
30			サンゴウチョウ	○								●	●	留鳥			VU	VU	VU	重要種								
31	モズ	モズ	モズ		○							●	●	留鳥			NT		NT	重要種								
32	カラス	カラス	カラス	○	○							●	●	留鳥														
33			ハシブトガラス	○	○							●	●	留鳥														
34			ハシブトガラス	○	○							●	●	留鳥														
35	フガラ	フガラ	フガラ	○	○									留鳥				VU		重要種								
36			ヤマガタ	○	○							●	●	留鳥														
37			ヒガラ	○	○							●	●	留鳥														
38			シジュウカラ	○	○							●	●	留鳥														
39	ツバメ	ツバメ	ツバメ	○								●	●	留鳥					減	重要種								
40			イワツバメ	○								●	●	留鳥			NT			重要種								
41	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○							●	●	留鳥														
42	ウグイス	ウグイス	ウグイス	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種 (R4)								
43			ヤブサメ	○					○			●	●	留鳥			VU	NT	VU	重要種								
44	エナガ	エナガ	エナガ	○	○							●	●	留鳥														
45	チメドリ	チメドリ	チメドリ	○	○							●	●	留鳥						特定外来生物								
46			シロシヤウ	○	○							●	●	留鳥						特定外来生物								
47	メジロ	メジロ	メジロ	○	○							●	●	留鳥														
48	ヒナギ	ヒナギ	ヒナギ	○	○							●	●	留鳥			NT		NT	重要種								
49	ヒナギ	ヒナギ	トラツグミ	○	○							●	●	留鳥			VU	減	VU	重要種								
50			クロツグミ	○								●	●	留鳥			NT	VU	NT	重要種								
51			シロヘラ	○	○							●	●	留鳥														
52			ツグミ	○	○							●	●	留鳥														
53			ルリビタキ	○	○							●	●	留鳥				VU		重要種								
54			ジョウビタキ	○	○							●	●	留鳥														
55			コサメビタキ	○								●	●	留鳥			VU	CR+EN	VU	重要種								
56			キビタキ	○								●	●	留鳥				減		重要種								
57			オオルリ	○								●	●	留鳥			NT	NT	NT	重要種								
58	スズメ	スズメ	スズメ	○	○							●	●	留鳥														
59	セキレイ	セキレイ	セキレイ	○	○							●	●	留鳥				減		重要種								
60			ハシセキレイ	○	○							●	●	留鳥														
61			セグロセキレイ	○	○							●	●	留鳥			NT	減	NT	重要種								
62	アトリ	アトリ	アトリ	○	○							●	●	留鳥														
63			カワラビ	○	○							●	●	留鳥				減		重要種								
64			イカル	○	○							●	●	留鳥					NT	重要種 (R4)								
65	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	○	○							●	●	留鳥			NT			重要種								
66			カシラダカ	○	○							●	●	留鳥			NT			重要種								
67			ミヤマホオジロ	○	○							●	●	留鳥														
68			アオジ	○	○							●	●	留鳥				VU		重要種								
69			クロジ	○	○							●	●	留鳥				NT	CR+EN	NT								
季節別種数合計				45種	39種	7種	6種	6種	8種	5種	2種	9種	35種	38種	0種						2種	9種	33種	31種	32種			
年間合計				56種											44種													

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第14号)

[特定] 特別天然記念物 [国] 天然記念物

種の保存法…「種の保存法」(昭和44年 法律第75号)

[国内] 国内希少野生動物種

環境省…「環境省レッドリスト2020」(環境省 令和2年3月27日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧Ⅱ類 [EN] 絶滅危惧Ⅲ類

[VU] 絶滅危惧Ⅳ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 絶滅のおそれのある地域限定的

東京都2020年度…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) - 東京都レッドリスト(本土部)2020年版 -」(東京都環境局自然環境部 令和2年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧Ⅱ類 [EN] 絶滅危惧Ⅲ類

[VU] 絶滅危惧Ⅳ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 重要種 [注] 注記種 [減] 減少種 [希] 希少種

東京都2010年度…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) - 東京都レッドリスト(本土部)2010年版 -」(東京都環境局自然環境部 平成22年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧Ⅰ類 [CR] 絶滅危惧Ⅱ類 [EN] 絶滅危惧Ⅲ類

[VU] 絶滅危惧Ⅳ類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 重要種

(2) 重要種

確認種の内、重要種は 29 種であった。表 2-8 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はカワセミ、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はミゾゴイなど 15 種、継続して確認された重要種はサシバなど 28 種であった。

表 2-8 鳥類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

目名	科名	種名	H22	H27	H28	H29	H30	H31	R3-R4		渡り 区分	選定基準						備考	
			繁殖期	越冬期	1-3月	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月	4-9月		1月	6月	天然記念物 指定	種の 保存法	環境省 選定	東京都 2020 選定		神奈川 選定
ハト	ハト	アオバト	○								●	留鳥			NT	注	NT	重要種	
ペリカン	サギ	ミゾゴイ			○		○	○		○		夏鳥			VU	EN	CR+EN	EN	重要種
		ゴイサギ	○									留鳥			VU				重要種
カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○								●	夏鳥			NT			NT	重要種
タカ	ミサゴ	ミサゴ		○								留鳥			NT	EN	VU	EN	重要種
	タカ	ハチクマ			○		○			○		夏鳥			NT	EN	CR+EN	CR	重要種
		トビ	○	○		○				○	●	留鳥			NT			NT	重要種
		ツミ	○		○	○	○			○		留鳥			NT	VU	VU	VU	重要種
		ハイタカ			○		○					冬鳥			NT	VU	希	VU	重要種
		オオタカ	○	○	○	○	○			○		留鳥			NT	VU	VU	VU	重要種
		サシバ			○							夏鳥			VU	CR	CR+EN	CR	重要種
		ノスリ	○	○	○	○	○	○	○	○	●	留鳥			VU	VU	VU	VU	重要種
フクロウ	フクロウ	コノハズク					○					夏鳥			CR	CR+EN	CR		重要種
		フクロウ	○			○		○		○	●	留鳥			EN		NT	EN	重要種
		アオハズク	○					○				夏鳥			CR	VU	EN		重要種
カワセミ	カワセミ	カワセミ									●	留鳥			NT			NT	重要種
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	○	○							●	留鳥			NT			NT	重要種
		アオゲラ	○	○							●	留鳥						NT	重要種 (IBFL)
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ							○			留鳥			VU			VU	重要種
		ハヤブサ		○								冬鳥		国内	VU	VU	CR+EN	VU	重要種
スズメ	ヤマトスズメ	ヤマトスズメ					○					夏鳥		国内	EN		DD		重要種
	サンショウクイ	サンショウクイ	○								●	留鳥			VU	CR	VU	CR	重要種
	サンコウチョウ	サンコウチョウ	○								●	留鳥			VU	VU	VU	VU	重要種
	モズ	モズ		○							●	留鳥			NT	減	NT		重要種
	コガラ	コガラ		○								留鳥				VU			重要種
	ツバメ	ツバメ	○								●	夏鳥					減		重要種
	イワツバメ	イワツバメ	○									夏鳥			NT				重要種
	ウグイス	ウグイス	○	○							●	留鳥						NT	重要種 (IBFL)
	ヤブサメ	ヤブサメ	○					○			●	留鳥			VU	NT	VU	VU	重要種
	ミンサザイ	ミンサザイ		○							●	留鳥			NT		NT		重要種
	ヒタキ	トラツグミ		○								留鳥			VU	減	VU	VU	重要種
		クロツグミ	○								●	夏鳥			NT	VU	NT		重要種
		ルリビタキ	○	○							●	冬鳥				VU			重要種
		コサメビタキ	○								●	夏鳥			VU	CR+EN	VU		重要種
		キビタキ	○								●	夏鳥				減			重要種
		オオルリ	○								●	留鳥			NT	NT	NT		重要種
	セキレイ	キセキレイ	○	○							●	留鳥				減			重要種
		セグロセキレイ		○							●	留鳥			NT	減	NT		重要種
	アトリ	カワラヒワ	○	○							●	留鳥				減			重要種
		イカル	○	○							●	留鳥						NT	重要種 (IBFL)
	ホオジロ	ホオジロ	○	○							●	留鳥			NT				重要種
		カシラダカ		○							●	冬鳥			NT				重要種
		アオジ		○							●	冬鳥				VU			重要種
		クロジ		○							●	冬鳥			NT	CR+EN	NT		重要種
季節別種数合計			26種 18種		7種 6種		7種 5種 2種		9種	15種 21種			0種 2種	9種	33種	31種	32種		
年間合計			34種		9種		6種			29種			44種						

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

[特天] 特別天然記念物 [天] 天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

[国内] 国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧 I 類 [CR] 絶滅危惧 I A 類 [EN] 絶滅危惧 I B 類

[VU] 絶滅危惧 II 類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [LP] 絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧 I 類 [CR] 絶滅危惧 I A 類 [EN] 絶滅危惧 I B 類

[VU] 絶滅危惧 II 類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

神奈川…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧 I 類 [CR] 絶滅危惧 I A 類 [EN] 絶滅危惧 I B 類

[VU] 絶滅危惧 II 類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [注] 注目種 [減] 減少種 [希] 希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

[EX] 絶滅 [EW] 野生絶滅 [CR+EN] 絶滅危惧 I 類 [CR] 絶滅危惧 I A 類 [EN] 絶滅危惧 I B 類

[VU] 絶滅危惧 II 類 [NT] 準絶滅危惧 [DD] 情報不足 [*] 留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アオバト

南日本では留鳥だが、北日本では主に夏鳥。

2) ホトトギス

夏鳥として飛来し、ウグイスに托卵する。

3) トビ

全国に留鳥として分布する。海岸、湖沼や河川などの水辺に生息し、樹上に営巣する。

4) サシバ

本州から九州にかけて夏鳥として飛来し、繁殖する。

5) ノスリ

全国に冬鳥として越冬し、東日本の山地・丘陵地で繁殖する。

6) フクロウ

九州以北に留鳥として分布する。主に里山や森林の樹洞、カラス・猛禽類等の古巣で営巣する。

7) カワセミ

本州以南で留鳥として分布する。

8) アカゲラ

全国に留鳥として分布し、山地・丘陵地の樹林で繁殖する。

9) アオゲラ

本州以南の山地から平野部に留鳥として分布し、樹林で繁殖する。

10) サンショウクイ

本州以南に夏鳥として飛来するが、東京都では渡りの時期に通過個体が見られるのみである。

11) サンコウチョウ

本州以南に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の樹林で繁殖する。

12) モズ

全国の山地から平地の疎林、農耕地、市街地などに留鳥として分布し、低木に椀状の巣をつくって営巣する。

13) ツバメ

全国に夏鳥として飛来し、平地や山間部の農耕地や市街地、河川敷などに生息する。

14) ウグイス

全国に留鳥または漂鳥として分布する。

15) ヤブサメ

屋久島以北に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の林床にササなどが繁茂する広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

16) ミソサザイ

全国に留鳥または漂鳥として分布する。

17) クロツグミ

九州以北に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の針広混交林等で繁殖する。

18) ルリビタキ

全国に分布し、本州では標高 1,500m 以上の高山帯から亜高山帯にかけての針葉樹林や針広混交林等で繁殖する。

19) コサメビタキ

九州以北に夏鳥として飛来し、主に標高 1,000m 以下の低山帯の樹上の水平な枝上に営巣する。

20) キビタキ

全国に夏鳥として飛来し、山地・丘陵地の落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

21) オオルリ

屋久島以北に夏鳥として飛来し、低山帯の沢や湿地近くの低木林や疎林で繁殖する。

22) キセキレイ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地の河川上流域、高標高の裸地など広く生息し、木の枝の上、石や人家の隙間などに営巣する。

23) セグロセキレイ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地から平野部の河川、湖沼、農耕地、住宅地に生息、繁殖している。

24) カワラヒワ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。疎林、農耕地、河川敷、灌木草原、住宅地などに生息し、枝上に碗状の巣をつくって営巣する。

25) イカル

本州から九州にかけて留鳥または漂鳥として分布する。山地・丘陵地等の自然林に生息し、落葉広葉樹や針広混交林の樹上で繁殖する。

26) ホオジロ

本州から九州にかけて留鳥として分布する。山地から平野部にかけての明るい林縁や草原、河原等に生息し、低木の枝上や地上に営巣する。

27) カシラダカ

全国に冬鳥として飛来し、明るい林縁、河原、農耕地等で越冬する。

28) アオジ

北海道や東北地方では平地から山地まで広く分布する。

29) クロジ

本州では留鳥または漂鳥として分布し、標高 1,000m を超える山地帯から高山帯の下層植生が発達する落葉広葉樹林や針広混交林で繁殖する。

2.4 爬虫類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 8 種の爬虫類が確認された。表 2-9 に確認種リストを示す。

爬虫類ではタカチホヘビとニホンヤモリが初めて確認された。タカチホヘビは夜行性で、かつ湿潤な土壌中やガレ場など半地中生活を送るため、一般に確認されにくいヘビである。その他、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ等が確認された。

表 2-9 爬虫類リスト ■：網掛けは R04 確認

表 2-5 爬虫類・両生類 ■：利用17は R4+ 推定																						
No.	目名	科名	種名	H22			H31			R3-R4					選定基準					備考		
				春	夏	秋	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	10月*	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県		東京都 2010 南多摩	
1	有目目	ヤモリ	ニホンヤモリ								●	●					*		*	重要種		
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○		○		○	●	●	●					VU	要	VU	重要種		
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○	○		○	●							NT		NT	重要種		
4		タカチホヘビ	タカチホヘビ										●				VU		VU	重要種		
5		ナミヘビ	シマヘビ					○		●							VU	要	NT	重要種		
6			アオダイショウ	○				○		●							NT	要	NT	重要種		
7			ジムグリ	○		○											VU		VU	重要種		
8			ヒバカリ			○		○				●					NT	NT	NT	重要種		
9			ヤマカガシ		○	○			○			●	●				EN	要	VU	重要種		
季節別種数合計				3種	3種	4種	2種	2種	4種	1種	5種	4種	1種	1種			0種	0種	0種	9種	5種	9種
年間合計					5種			6種				8種										

※10月は陸産員類調査時の確認種。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種すべてが重要種に該当した。表 2-10 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はニホンヤモリ、タカチホヘビの 2 種、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はジムグリの 1 種、継続して確認された重要種はヒガシニホントカゲなど 6 種であった。

表 2-10 爬虫類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H31			R3-R4					選定基準						備考
				春	夏	秋	4月	5月	6月	3月	4月	6月	7月	10月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川	東京都 2010 南多摩	
1	有鱗目	ヤモリ	ニホンヤモリ								●	●						*		*	重要種
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○		○		○	●	●	●						VU	要	VU	重要種
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ		○	○	○		○		●							NT		NT	重要種
4		オオカサガヘビ	タカチホヘビ											●				VU		VU	重要種
5		ナミヘビ	シマヘビ						○		●							VU	要	NT	重要種
6			アオダイショウ	○				○			●							NT	要	NT	重要種
7			ジムグリ	○		○												VU		VU	重要種
8			ヒバカリ			○	○											NT	NT	NT	重要種
9			ヤマカガシ		○	○			○			●	●					EN	要	VU	重要種
季節別種数合計				3種	3種	4種	2種	2種	4種	1種	5種	4種	1種	1種	0種	0種	0種	9種	5種	9種	
年間合計				6種			6種			8種											

※10月は陸産員類調査時の確認種。

【選定基準】

文化財保護法…『文化財保護法』(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省、令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部、令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部、平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ニホンヤモリ

民家をはじめとした建築物に主に生息。昆虫などの小型無脊椎動物を主に食べる。

2) ヒガシニホントカゲ

低地から高地まで生息。昆虫などの小型無脊椎動物を主に食べる。6月の梅雨に入ると産卵。メスは巣で卵の世話をする。7月下旬頃にふ化個体が現れる。

3) ニホンカナヘビ

主に昆虫、クモ類を食べ、陸生甲殻類なども食べる。とくに巣穴はなく、落ち葉や草むらあいで生活する。

4) タカチホヘビ

夜行性で、かつ湿潤な土壌中やガレ場など半地中生活を送るため、一般に確認されにくいヘビである。

5) シマヘビ

林内などより開けた太陽の当たる環境を好む。主に昼行性で動きは速い。トカゲやカエルを中心にさまざまな脊椎動物を食べる。

6) アオダイショウ

鳥獣を主食とし、幼体はカエルやトカゲも食べる。

7) ヒバカリ

森林から草地、水田から畑まで幅広い環境に生息し、カエル、ミミズを食べるほか、水にもよく入り小魚を食べる。

8) ヤマカガシ

平地から山地まで生息し、主に昼間に活動。主にカエルを捕食。頸部に頸腺毒、上顎後方にデュベルノイ腺毒をもつ。

2.5 両生類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 10 種の両生類が確認された。表 2-11 に確認種リストを示す。

両生類では流水域と止水域の両環境が存在することを反映して、沢筋ではタゴガエルやツチガエル、ため池等ではモリアオガエルやヤマアカガエル等が確認された。

また、アズマヒキガエル、タゴガエル、アカガエル属の一種(ニホンアカガエル又はヤマアカガエル)、モリアオガエルの産卵が確認された。

表 2-11 両生類リスト ■：網掛けは R04 確認

順		目名	科名	種名	H22			H30			H31			R3-R4			認定基準						備考
					春	夏	秋	4月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	6月	生息地 確認法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩		
1	有馬	イモリ	アカハライモリ	○		○	○			○	○			●	●			NT	EN	CR+EN	EN	重要種	
2	有馬	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○					○		○		●				VU	要			重要種	
3		アマガエル	ニホンアマガエル		○					○					●			VU		VU		重要種	
4		アカガエル	タゴガエル	○	○	○	○	○	○						●			VU		VU		重要種	
5			ニホンアカガエル											●				EN	VU	EN		重要種	
6			ヤマアカガエル	○	○	○	○				○	○		●	●	●		EN		EN		重要種	
7			アカガエル属の一種※1											●				EN/EN	VU/	EN/EN		重要種	
8			ツチガエル	○	○	○	○				○				●			CR	要	CR		重要種	
9		アオガエル	シュレーゲルアオガエル							○	○	○			●			VU	要	VU		重要種	
10			モリアオガエル		○										●			NT	要	NT		重要種	
11			無足目の一種※2							○					●								
季節別種数合計				5種	6種	4種	4種	1種	6種	3種	5種	3種	5種	6種				0種	0種	1種	10種	7種	6種
年間合計				7種			4種		8種				10種										

※1: 網掛けの確認(ニホンアカガエル、ヤマアカガエルのいずれかと考えられる)。※2: 幼生の確認

【認定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)】

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生動植物の種のリスト)」(環境省、令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020年南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～」(東京都環境局自然環境部、令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010年南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版」(東京都環境局自然環境部、平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種すべてが重要種に該当した。表 2-12 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はニホンアカガエル、過年度(H22～R01)に確認されたが今年度確認されなかった重要種は0種、継続して確認された重要種はモリアオガエルなど8種であった。なお、有識者よりタゴガエルやモリアオガエルは人為的に持ち込まれた個体が繁殖するケースが知られているので、DNA等を調べることも今後の課題であるのご助言いただいた。

表 2-12 両生類 重要種リスト ■：網掛けはR04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H30			H31			R3-R4			選定基準					備考		
				春	夏	秋	4月	3月	4月	5月	6月	3月	4月	6月	5月	6月	東京都 2020 版を基	種の 保存法	環境省	東京都 2020 版を基		神奈川県 2010 版を基	東京都 2010 版を基
1	科名	イモリ	アカハライモリ	○			○	○		○	○			●	●				NT	EN	CR+EN	EN	重要種
2	科名	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○									●						VU	要		重要種
3		アマガエル	ニホンアマガエル		○					○					●					VU		VU	重要種
4		アマガエル	タゴガエル	○	○	○	○	○		○				●						VU		VU	重要種
5			ニホンアカガエル											●						EN	VU	EN	重要種
6			ヤマアカガエル	○	○	○	○			○	○			●	●	●				EN		EN	重要種
7			アカガエル属の一種※1											●						EN/EN	VU/	EN/EN	重要種
8			ツチガエル	○	○	○	○								●					CR	要	CR	重要種
9		アマガエル	ジョレーガエルアマガエル						○	○	○				●					VU	要	VU	重要種
10			モリアオガエル		○										●					NT	要	NT	重要種
季節別種数合計				5種	6種	4種	4種	1種	5種	3種	5種	3種	5種	8種			0種	0種	1種	10種	7種	9種	
年間合計					7種		4種				7種		10種										

※1: 群馬の産出(ニホンアカガエル、ヤマアカガエルのいずれかと考えられる)。※2: 幼生の確認

【選定基準】

文化財保護法…『文化財保護法』(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省, 令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020版多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部, 令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドリストデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館, 平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010版多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部, 平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アカハライモリ

水田や池、小川などに生息。背が黒く、腹が赤い。主にミミズ、昆虫、カエルの幼生などの小動物を食べる。

2) アズマヒキガエル

海岸近くの低地から高山まで、幅広い環境に生息。危険を感じると背面から毒液を分泌する。

3) ニホンアマガエル

主に昆虫やクモ類を食べる。関東では 5～7 月に水田や湿地などの浅い止水面に数ずつの卵を産む。

4) タゴガエル

山地にふつうにみられ、小溪流の縁にある岩のすきまや地下にある伏流水中に産卵する。幼生は卵黄を消費するだけで変態できる。

5) ニホンアカガエル

平地ないしは丘陵地に生息。主に水田や湿地などの日当たりのよい浅い止水に産卵。

6) ヤマアカガエル

体色は褐色、赤褐色または暗褐色で変化に富む。池や水田、また道ばたの浅い水たまりなどでも産卵。

7) ツチガエル

背面は灰褐色で、いぼがたくさんあり、悪臭のする粘液を分泌。都市部の人工池から水田、河川、山間の溪流、湿原までの水辺の近くに生息。

8) シュレーゲルアオガエル

丘陵地や平野の水辺に生息。特に水田の周囲に多い。大型草本や樹木の上で暮らし、小昆虫類を捕食。途中に白い泡状の卵塊を産む。

9) モリアオガエル

山間部から平野部までの森林に生息。樹上で暮らし、小昆虫類を捕食。5～7月に池や沼、水田などで繁殖。樹木の枝先などに白い泡状の卵塊を産む。

2.6 昆虫類・クモ類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 1,178 種の昆虫類・クモ類が確認された。確認種リストは資料編に示す。

昆虫類では、ムカシヤンマが確認された。ムカシヤンマは年間を通じて湧水が滴り落ちる崖地や斜面の指標になり得るトンボであり、大戸緑地を特徴づける昆虫類の一つである。

この他、各環境を反映して広葉樹林ではアオオニグモ、ミンミンゼミ、アオオサムシ、ノコギリクワガタ、オオミズアオ等、スギ・ヒノキ植林ではアカスジキンカメムシ、ヤニサシガメ等、草地ではオオトリノフンダマシ、ハナグモ、ウスイロササキリ、マメコガネ、キタキチョウ、オオハナアブ等、裸地・畑地ではワスレナグモ、ハタケグモ、トノサマバッタ、ノミバッタ、ナミハンミョウ等、止水域やその周辺ではキバラコモリグモ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、ヤスマツアメンボ等、流水域やその周辺ではヨリメグモ、オジロサナエ、オニヤンマ、シマアメンボ等の昆虫類・クモ類が確認された。

(2) 重要種

確認種の内、重要種は 49 種であった。表 2-13 に重要種リストを示す。

R04 の新規重要種はワスレナグモ、ホソミイトトンボ、ムカシヤンマなど 32 種、過年度 (H22～R01) に確認されたが今年度確認されなかった重要種はコシボソヤンマ、オオムラサキ、オオトックリゴミムシなど 17 種、継続して確認された重要種はモノサシトンボ、ルリボシヤンマ、オオアメンボ、ミヤマクワガタなど 17 種であった。

表 2-13 昆虫類・クモ類 重要種リスト

目名	科名	種名	H22	R3-R4				文化財 保護法	種の 保存法	選定基準					備考
				4月	5月	7月	9月			東京都 2020	神奈川県	東京都 2010 南多摩			
クモ目	ジグモ科	ウスレナグモ		●		●				NT	南NT		NT		
	カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ		●						NT	南VU		VU		
	トタテグモ科	キノボリトタテグモ		●						NT	南NT		NT		
		キシノウエトタテグモ		●						NT	南NT		NT		
	コガネグモ科	チュウガタコガネグモ			●						南DD				
		トググモ				●	●						DD	IBレッドのみ	
トンボ目	アシダカグモ科	コアシダカグモ					●						NT	IBレッドのみ	
	アオイトトンボ科	アオイトトンボ					●				多VU本VU				
	イトトンボ科	ホソミイトトンボ		●	●		●					DD			
		キイトトンボ				●	●				多EN本EN	EN	NT		
		クロイトトンボ				●	●					要			
	モノサシトンボ科	モノサシトンボ	○			●	●				多VU本NT	NT	DD		
	カワトンボ科	ハグロトンボ	○				●					要			
	ヤンマ科	ルリボシヤンマ	○				●				多VU本VU		NT		
		コシボシヤンマ	○								多VU本EN	要	VU		
		ミルンヤンマ	○				●					要			
		サラザヤンマ			●						多VU本EN	EN	EN		
	サナエトンボ科	ヤマサナエ			●						多VU本VU	要	VU		
		コリナエ	○	●	●						多EN本CR	EN	CR		
	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ			●						多EN本EN	VU	EN		
	エゴトンボ科	タカネトンボ	○				●					要			
バッタ目	トンボ科	ハラビロトンボ	○								多NT本NT	要	NT		
		シオヤトンボ		●	●						多NT本NT	要			
		ナツアカネ	○									要			
		マコタテアカネ	○			●	●				多NT本NT	要			
		ミヤマアカネ	○				●				多NT本VU	NT			
	キリギリス科	ヒガシキリギリス	○			●						要			
	ケラ科	ケラ	○			●						要			
	コオロギ科	ヒメコオロギ					●						DD		
		クマズムシ	○										DD	IBレッドのみ	
	ヒバリモドキ科	ヤチスズ	○				●						DD	IBレッドのみ	
	バッタ科	ショウリョウバッタモドキ				●	●					要	VU		
	イナゴ科	ハネナガイナゴ				●						NT			
	カメムシ目	ツノカメムシ科	フトハサミツノカメムシ		●								DD		
アメンボ科		オオアメンボ	○	●	●	●	●				多NT本NT	NT			
ヘビトンボ科		ヤマトクロスヘビトンボ			●						多NT本NT				
セセリチョウ科		アオバセセリ	○									要			
		ミヤマセセリ		●							多NT本NT				
		ホソバセセリ	○								多NT本NT	VU	*		
		オオチャバネセセリ				●					多NT本NT	VU			
シジミチョウ科		コツバメ		●							多NT本NT				
タテハチョウ科		ミスジチョウ			●	●					多NT本NT				
		オオムラサキ	○						NT		多NT本NT	NT			
アゲハチョウ科		ミヤマカラスアゲハ		●		●					多NT本NT				
ヤマメニガ科		クスサン	○								多NT本NT				
ヤガ科		ゴボウトガリヨトウ	○								多NT本NT				
ハエ目	クサアブ科	ネグロクサアブ	○							DD	多DD本DD				
	ミズアブ科	ミズアブ	○								多NT本NT				
	ムシヒキアブ科	オオイシアブ		●	●								*	IBレッドのみ	
	ハナアブ科	ヒメハチモドキハナアブ			●							DD			
コクサムシ目	オサムシ科	アトモンコミズヤウコサムシ	○									NT			
		オグラヒラタゴサムシ	○									VU			
		オオトクリゴサムシ	○							NT		NT			
	ハンミョウ科	エリザハンミョウ	○			●							NT	IBレッドのみ	
		ナミハンミョウ		●	●	●	●				多NT本NT				
	ガムシ科	マメガムシ					●				多本CR		二※		
		ヒメガムシ	○								多本VU		DD		
	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	○				●					要	NT		
	タマムシ科	ヤマトタマムシ	○			●	●					要			
	ジョウカイボン科	キイロジョウカイ		●							多NT本NT	要			
	カミキリムシ科	タケトラカミキリ	○										NT	IBレッドのみ	
		ネジロカミキリ		●							多NT本NT		NT		
	ハムシ科	アワクビボソハムシ	○			●	●					NT			
	ゾウムシ科	フタホシカギアシゾウムシ			●							NT			
ハチ目	ヤドリキバチ科	トサヤドリキバチ	○							DD					
	アリ科	トゲアリ	○	●		●	●				VU				
9目	44科	66種	34種	17種	14種	19種	23種	0種	0種	9種	36種	36種	27種		

※マメガムシは東京都2010の南多摩では「データ無し」となっているが、本土部では「VU絶滅危惧Ⅱ類」となっている。

【選定基準】

文化財保護法…『文化財保護法』(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

東京都2010南多摩…『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成2

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ワスレナグモ

本州から九州にかけて分布する。本来は開けた草原に生息するが、市街地でも公園の芝生等で見られることがある。

2) カネコッタテグモ

本州に分布し、低山地から平地の樹林に生息する。地中に管状の穴を掘り、入口に両開きの扉をつける。

3) キノボリトタテグモ

本州から南西諸島にかけて分布する。山地から平地の樹林に生息し、市街地でも社寺林等で見られる。

4) キシノウエトタテグモ

本州から九州にかけて分布する。山地から平地の樹林に生息し、市街地でも社寺林や公園、人家の庭等でみられる。地中に比較的短い管状の巣をつくり、入口に扉をつける。

5) チュウガタコガネグモ

本州から九州にかけて分布する。山地から平地に生息し、草丈の低い草本間に造網する。

6) トゲグモ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の林縁の樹間に見られる。

7) コアシダカグモ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の樹林に生息する。昼間は物陰に隠れて夜間に獲物を狩る習性をもつ。

8) アオイトトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の水生植物の豊富な池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

9) ホソミイトトンボ

本州（栃木県以南）から九州にかけて分布し、丘陵地の池や湿地に見られる。分布北限となる関東地方での記録は散発的である。

10) キイトトンボ

本州に分布し、丘陵地から平地の水生植物の豊富な池沼や水溜まりのある湿地に生息し、河川敷の池で見られることもある。

11) クロイトトンボ

北海道から九州にかけて分布し、平野部の面積が広く開放的な池沼を好む。

12) モノサシトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の樹木に覆われた池沼に生息する。

13) ハグロトンボ

本州から九州にかけて分布する。丘陵地から平地の水生生物が繁茂する河川や水路など、広範な流水環境に生息する。

14) ルリボシヤンマ

北海道から四国にかけて分布し、水生植物の豊富な小規模な池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

15) ミルンヤンマ

北海道南部から九州にかけて分布する。やや山地性で、低山地から丘陵地の林に覆われた比較的小規模な河川や水路に生息する。

16) サラサヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地から平地の林に覆われた湿地、主として谷戸の湿地に生息する。

17) ヤマサナエ

本州から九州にかけて分布する。流れが緩やかな河川や水路などに生息し、特に谷戸の水路など小規模な砂泥底の流れを好む。

18) コサナエ

北海道から本州にかけて分布し、丘陵地から平地の樹木に覆われた池沼や水溜まりのある湿地に生息する。

19) ムカシヤンマ

本州、九州に分布し、多摩地域では低山地から丘陵地に局地的に分布する。年間通じて湧水が滴り落ちる崖地や斜面に生息し、コケ類が繁茂するような場所を好む。

20) タカネトンボ

北海道から九州にかけて分布し、低山地から丘陵地の樹木に覆われた池沼に生息する。小規模な滞水にも見られ、貯水槽などの人工的な水域でもしばしばみられる。

21) シオヤトンボ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の湿田や植生が豊富な草丈の低い湿地に生息する。

22) マユタテアカネ

北海道から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地のため池、湿田、湿地、河川敷の水溜まり等、広範な止水域に生息する。

23) ミヤマアカネ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の緩やかな砂泥底の細流に生息する。

24) ヒガシキリギリス

北海道をのぞく東日本に分布し、丘陵地から低地の草地に生息する。

25) ケラ

北海道から九州にかけて分布し、湿地や水田等に穴を掘り、地中に生息する。

26) ヒメコオロギ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の明るく開けた湿地やその周辺の湿性草地に生息する。

27) ヤチスズ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地から平地の湿地や水田に生息する。明るく開けた湿地、水田から、樹陰で常時暗い湿地まで、幅広い湿地環境に生息する。

28) ショウリョウバッタモドキ

本州から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地のイネ科高茎草地に生息する。小規模なチガヤ草地でも見られる場合がある。

29) ハネナガイナゴ

本州から九州にかけて分布し、水田やその周辺に生息し、イネ科植物を採餌する。

30) フトハサミツノカメムシ

本州から九州にかけて分布する。山地に生息し、サクラ等のバラ科植物に寄生する。

31) オオアメンボ

本州から九州にかけて分布し、低山地から平地の緩やかな流れや池沼に生息する。

32) ヤマトクロスジヘビトンボ

本州から南西諸島にかけて分布し、低山地から平地の湧水のある河川沿いの雑木林や沢沿いの草地に生息する。

33) ミヤマセセリ

本州から九州にかけて分布する。山地から低地の落葉広葉樹林や開けた雑木林等に生息し、日当たりの良い場所を好む。

34) オオチャバネセセリ

北海道から九州にかけて分布する。山地の草原や疎林的環境、谷戸の草地や雑木林、住宅地の庭や公園とどこにでも生息していたが、近年は全国的に減少傾向にある。

35) コツバメ

北海道から九州にかけて分布し、丘陵地等の多様な植物が生育する雑木林に生息する。

36) ミスジチョウ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の樹林やカエデ類の生育地でよく見られる。春から夏に発生し、幼虫はカエデ類を食べる。

37) ミヤマカラスアゲハ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の多様な植物が生育する樹林環境に生息する。春と夏に年2回発生し、幼虫はキハダやカラスザンショウ等を食べる。

38) オオイシアブ

本州から九州にかけて分布し、多摩地域では山地から丘陵地の樹林に生息する。幼虫は朽木に生息し、成虫は5～9月に出現する。

39) ヒメハチモドキハナアブ

本州から九州にかけて分布し、低山地に生息する。樹林の林縁に積まれた木材周辺でまとまって見られることもある。

40) エリザハンミョウ

北海道から九州にかけて分布し、河原等の水溜まり周辺等、やや湿った砂地を好む。

41) ナミハンミョウ

本州から南西諸島にかけて分布し、成虫は開けた裸地や境内等で小昆虫を捕食する。幼虫は地中に縦長の穴を掘り、通りかかった小昆虫を捕食する。

42) マメガムシ

本州から南西諸島にかけて分布し。丘陵地から平地の池沼や湿地、水田に生息する。

43) ミヤマクワガタ

北海道から九州にかけて分布し、多摩地域では山地から丘陵地の雑木林等に生息する。

44) ヤマトタマムシ

本州から南西諸島にかけて分布し、山地から低地のエノキ、ケヤキ、クヌギなどの広葉樹林に生息する。

45) キイロジョウカイ

関東地方と福島県の一部に分布する。丘陵地・台地の谷戸環境に生息し、成虫は5～6月に発生する。

46) ネジロカミキリ

北海道から九州にかけて分布し、山地から平地の落葉広葉樹林に生息する。タラノキやハリギリ等のウコギ科を寄主植物とし、成虫は主にタラノキ枯死部で見つかる。

47) アワクビボソハムシ

本州から九州にかけて分布し、湿地に生息する。食草はエノコログサ、メヒシバ等でアワ、ヒエ、キビ等にも害を及ぼすこともある。

48) フタホシカギアシゾウムシ

本州から南西諸島にかけて分布し、湿地や池周辺に生息する。近縁種同様に湿生植物を食草としていると考えられる。

49) トゲアリ

本州から九州にかけて分布し、クヌギなどの雑木林で見つかることが多い。クロオオアリやムネアカオオアリなどの巣に一時的寄生をするが、女王を殺して巣の乗っ取りに成功する確率は非常に低いとされる。クヌギやコナラの樹皮のすきまや樹液痕周辺にコロニーを作っているのが見られることもある。

2.7 陸産貝類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 22 種の陸産貝類が確認された。表 2-14 に確認種リストを示す。

陸産貝類調査は今年度初めて実施した。その結果、雑木林では人為的攪乱の少ない林床を好むツメギセルやコケラマイマイ、ヒメハリマキビ等、スギ・ヒノキ植林ではウラジロベッコウ、オオケマイマイ等、草地ではオカチョウジガイ等が確認された。

表 2-14 陸産貝類リスト ※R04 初調査

No.	目名	科名	和名	R04調査時期		選定基準					備考
				7月	10月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	東京都 2010 南多摩	
1	ヤマタニシ	ヤマタニシ	ムシオイ	●	●						
2			ミジンヤマタニシ	●							
3		ゴマガイ	ヒダリマキゴマガイ	●							
4	マイマイ	アフリマイマイ	オカチョウジガイ	●							
5		タワラガイ	タワラガイ	●	●						
6		キセルガイ	ツメギセル	●	●			NT	VU	VU	重要種
7			ヒカリギセル	●	●						
8		シタラ	ヒメハリマキビ		●			NT	NT	-	重要種
9			マルシタラ	●							
10			ウメムラシタラ		●			NT	NT	-	重要種
11			オオウエキビ	●	●			DD	NT	-	重要種
12			ヒメカサキビ	●	●			NT	NT	-	重要種
13		ベッコウマイマイ	ウラジロベッコウ	●	●						
14		ナメクジ	ヤマナメクジ	●	●						
15		エンスマイマイ	エンスマイマイ	●							
16			コケラマイマイ	●				NT	VU	NT	重要種
17			オオケマイマイ	●	●				*		重要種
18			ミスジマイマイ	●	●						
19			ヒダリマキマイマイ	●							
20			キヌヒロウドマイマイ	●	●			NT	NT	DD	重要種
21			ニッポンマイマイ	●	●						
22			コベソマイマイ		●				*		重要種
	2目	9科	22種	19種	15種	0種	0種	7種	9種	7種	
				22種		9種					

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

重要種はツメギセル、ヒメハリマキビ、ウメムラシタラなど9種であった。表 2-15 に重要種リストを示す。

陸産貝類調査は今年度が初めての実施であるため、いずれも新規確認種となった。

表 2-15 陸産貝類 重要種リスト ※R04 初調査

目名	科名	和名	R04調査時期		選定基準					備考
			7月	10月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	東京都 2010 南多摩	
マイマイ	キセルガイ	ツメギセル	●	●			NT	VU	VU	重要種
		シタラ		●			NT	NT	-	重要種
		ウメムラシタラ		●			NT	NT	-	重要種
		オオウエキビ	●	●			DD	NT	-	重要種
		ヒメカサキビ	●	●			NT	NT	-	重要種
	オンパルマイマイ	コケラマイマイ	●				NT	VU	NT	重要種
		オオケマイマイ	●	●				*		重要種
		キヌビロウドマイマイ	●	●			NT	NT	DD	重要種
		コベソマイマイ		●				*		重要種
1目	3科	9種	6種	8種	0種	0種	7種	9種	7種	
			9種				9種			

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省 令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー」(東京都環境局自然環境部 令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県…「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館 平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版」(東京都環境局自然環境部 平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) ツメギセル

日本固有種。東京都(西部)、神奈川県、静岡県に分布し、主に朽ち木の下や落葉堆積中に生息する。

2) ヒメハリマキビ

日本固有種。本州の中部地方以南に分布する。主として落葉広葉樹林の落葉下に生息する。

3) ウメムラシタラ

本州の関東地方から九州にかけて分布し、主に広葉樹林の落葉下に生息する。

4) オオウエキビ

本州の中部地方以南、四国、九州に分布し、広葉樹林などの落葉下に生息する。

5) ヒメカサキビ

日本国内に広く分布し、主に本州、四国、九州に分布記録がある。海岸林や低山地、山麓などの環境に生息する種である。スギ植林、広葉樹林などの林床の落葉堆積下に生息する。常緑樹林の若干乾き気味の林床の落葉堆積下にも見られる。

6) コケラマイマイ

本州（関東西部～中部地方東部）に分布し、人為的かく乱の少ない樹林の倒木や落葉下に生息する。

7) オオケマイマイ

本州、四国（高知県を除く）に分布。低山の林内の草本や落葉下、社叢の石垣等に生息する。

8) キヌビロウドマイマイ

日本固有種。東北地方から中部・近畿地方にかけて広く分布し、一部、中国地方や四国のごく一部まで分布が確認されている。丘陵部から山地にかけての湿度が保たれた自然林もしくは社寺林内の、主に朽ち木や瓦などが積み重なった下面に潜んでいる。春から秋の降雨後には、陸産貝類の多くは林床上を匍匐するが、日中には地表に殆ど現れない。主に分解の進んだ落葉を摂食すると考えられるが、秋にはキノコ類を食べる個体が確認される例も多い。

9) コベソマイマイ

本州（関東以西）、四国、九州に広く分布する。主として山地の森林や林縁部に生息し、落葉広葉樹林にもスギの植林地にも見られる。樹上には登らず地上性である。

2.8 魚 類

(1) 確認状況

今年度調査では合計 8 種の魚類が確認された。表 2-16 に確認種リストを示す。

魚類では湧水に依存するとされるホトケドジョウの他、河川上流域を主な生息域とするアブラハヤやカジカが確認された。なお、河川 1、河川 3、河川 4 は上流域から源流域で、水面幅 1m に満たない浅く流れの緩やかな礫底の平瀬が優占する環境であり、河川 2 はコンクリートの小水路で、湧水起源と思われる谷戸奥からの浸みだし水が湛水し、泥や落葉が堆積した環境であった。池 1 と池 3 は、樹林内の暗い池で、水深が深く水際植生のない落葉が堆積した環境で、池 2 と池 4 は谷戸の谷底に位置し、水生植物が生育する明るくて浅い泥底の環境であった。河川では淵を中心にアブラハヤ、ホトケドジョウ等が確認され、瀬では河川 4 でカジカが確認された。一方池では池 1 でコイ、池 2 でドジョウ属、池 3 でホトケドジョウが確認されたのみであった。ただし、池 3 のホトケドジョウは秋季に 50 個体がまとめて確認され、ホトケドジョウが生息するのに適した環境になっていると考えられる。

表 2-16 魚類リスト ■：網掛けは R04 確認

No.	目名	科名	種名	H22			H30	R3-R4			選定基準						備考
				春	夏	秋	4月	2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川	東京都 2010 南多摩	
1	コイ	コイ	コイ(改良品種型)						●	●							
2			カワムツ					●	●	●							
3			アブラハヤ	○	○	○		●	●	●				VU	NT	NT	重要種
4		ドジョウ	ドジョウ	○		○				●			NT	DD			重要種
5			ドジョウ属の一種※					●	●	●			NT/DD	DD/DD			重要種
6			ヒガシシマドジョウ			○		●	●	●				NT	NT	VU	重要種
7		アブラハヤ	ホトケドジョウ	○	○	○	○	●	●	●			EN	EN	EN	VU	重要種
8	カサゴ	カジカ	カジカ	○	○	○			●	●			NT	EN	VU	CR+EN	重要種
9	スズキ	ヘビ	トウヨシノボリ			○								DD			重要種
季節別種数合計				4種	3種	6種	1種	5種	7種	8種	0種	0種	4種	7種	4種	4種	
年間合計				6種				8種			7種						

※「ドジョウ属」は成熟した雄によって種の区別が可能であるが、確認個体は雌や幼魚であった。確認個体は、選定基準に含まれているドジョウがキタドジョウのどちらかに該当するため、両種の評価を併記した。

【選定基準】

文化財保護法…「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法…「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省…「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省、令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)2020年版～」(東京都環境局自然環境部、令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川…「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館、平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注目種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩…「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト(本土部)～2010年版～」(東京都環境局自然環境部、平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

(2) 重要種

確認種の内、重要種は6種であった。なお、ドジョウまたはキタドジョウのいずれかと考えられるドジョウ属の雌や幼魚も重要種として取り扱った。表 2-17 に重要種リストを示す。

重要種の内、R04 の新規確認種はドジョウ属の1種、過年度（H22～R01）に確認されたが今年度確認されなかった種はトウヨシノボリの1種、継続して確認された重要種はアブラハヤ、ホトケドジョウ、カジカなど5種であった。

表 2-17 魚類 重要種リスト ■：網掛けは R04 確認

目名	科名	種名	H22			H30	R3-R4				選定基準					備考
			春	夏	秋	4月	2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020 南多摩	神奈川県	東京都 2010 南多摩	
コイ	コイ ドジョウ	アブラハヤ	○	○	○		●	●	●				VU	NT	NT	重要種
		ドジョウ	○		○							NT	DD			重要種
		ドジョウ属の一種※					●	●	●			NT/DD	DD/DD			重要種
		ヒガシシマドジョウ			○		●	●	●				NT	NT	VU	重要種
	フクドジョウ	ホトケドジョウ	○	○	○	○	●	●	●			EN	EN	EN	VU	重要種
カサゴ	カジカ	カジカ	○	○	○			●	●			NT	EN	VU	CR+EN	重要種
スズキ	ハゼ	トウヨシノボリ			○								DD			重要種
季節別種数合計			4種	3種	6種	1種	4種	5種	6種	0種	0種	4種	7種	4種	4種	
年間合計			6種				6種				7種					

※「ドジョウ属」は成熟した雄によって種の区別が可能であるが、確認個体は雌や幼魚であった。確認個体は、選定基準に含まれているドジョウかキタドジョウのどちらかに該当するため、両種の評価を併記した。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

【特天】特別天然記念物 【天】天然記念物

種の保存法・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」

【国内】国内希少野生動植物種

環境省・・・「環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(環境省,令和2年3月27日)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【LP】絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー」(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【*】留意種

神奈川県・・・「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【要】要注意種 【注】注目種 【減】減少種 【希】希少種

東京都2010南多摩・・・「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)ー2010年版」(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

【EX】絶滅 【EW】野生絶滅 【CR+EN】絶滅危惧Ⅰ類 【CR】絶滅危惧ⅠA類 【EN】絶滅危惧ⅠB類

【VU】絶滅危惧Ⅱ類 【NT】準絶滅危惧 【DD】情報不足 【*】留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) アブラハヤ

本州(福井・岡山以北)に分布する。河川の中・上流域の淵や淀みに生息する。多摩川では、本流のほぼ全域が国内外来種のタカハヤまたは交雑種に置き換わり、本種は本流から堰堤や滝などにより隔離された沢などに残存している。。

2) ドジョウ、ドジョウ属の一種

ドジョウは、日本列島のほぼ全土に広く分布するが、北海道全域および南西諸島の一部に分布するものは国内外からの移植に由来すると考えられている。キタドジョウは、生態や生活史について不明な点が多いが、安定して生息が確認されているのは植生が豊富で水温が低い原生的な湿地環境に限られる。現在のところ、北海道と本州東部の限られた地域で見られる。

3) ヒガシシマドジョウ

本州、四国に分布する。河川の中流域の砂礫底に生息する。西多摩では、多摩川と秋川の合流点より上流で普通にみられる。

4) ホトケドジョウ

本州（青森を除く三重・京都・兵庫以北）に分布する。水温が低く流れの緩やかな河川や湿地、水田などに生息する。

5) カジカ

本州、四国、九州に分布する。河川の中・上流域の礫底に生息する。

2.9 底生生物

(1) 確認状況

今年度調査では合計 178 種の底生生物が確認された。確認種リストは資料編に示す。

底生生物調査は今年度初めて実施した。その結果、河川では、平瀬の礫底でオオクママダラカゲロウ、シロハラコカゲロウ、シロタニガワカゲロウ、オジロサナエ、*Diplectrona* 属（シマトビケラ科）などが確認され、砂泥や落葉が堆積した水際の淀みで *Davidius* 属（サナエトンボ科）、*Nemoura* 属（オナシカワゲラ科）、*Neoperla* 属（カワゲラ科）、コバントビケラ、*Phryganopsyche* 属（マルバネトビケラ科）、マルガムシなどが確認された。その他、緩流部の水面ではシマアメンボが確認された。

池では、水際の落葉が堆積した場所で、モノサシトンボ、コサナエ、タカネトンボ、コシアキトンボなどが確認され、水生植物の群落内ではサカマキガイ、マルタンヤンマ、クロスジギンヤンマ、コシマゲンゴロウ、ヒメガムシなどが、植生がほとんどない浅い泥底ではドブシジミ、シオカラトンボ、エサキコミズムシ、マメゲンゴロウなどが確認された。その他、開放水面では、オオアメンボ、アメンボ、ヒメアメンボなどが、薄暗い岸寄りの水面ではヤスマツアメンボが確認された。

(2) 重要種

確認種の内、重要種はサワガニ、モノサシトンボ、ヒメガムシ、ゲンジボタルなど 19 種であった。表 2-18 に重要種リストを示す。

底生動物調査は今年度が初めての実施であるため、いずれも新規確認種となった（昆虫綱の一部を除く）。

表 2-18 底生生物 重要種リスト ※R04 初調査

綱名	目名	科名	和名	R04 調査時期			選定基準						備考	
				2月	6月	9月	文化財 保護法	種の 保存法	環境省	東京都 2020	神奈川 2006	東京都 2010 南多摩		
二枚貝 軟甲 昆虫	マルスダレガイ	マメシジミ	Pisidium属		●	●				南DD		DD	重要種	
	エビ	サワガニ	サワガニ	●	●	●				南*		*	重要種	
	トンボ(蜻蛉)	モノサシトンボ	モノサシトンボ	●	●	●				多VU,本NT	NT	DD	重要種	
		ヤンマ	オオルリボシヤンマ			●						NT	DD	重要種
			ルリボシヤンマ	●						多VU,本VU			NT	重要種
			コシボソヤンマ		●	●				多VU,本EN	要	VU	重要種	
			ミルンヤンマ		●	●					要		重要種	
		サナエトンボ	ヤマサナエ	●	●	●				多VU,本VU	要	VU	重要種	
			ヒメサナエ	●	●						DD		重要種	
			コサナエ	●	●	●				多EN,本CR	EN	CR	重要種	
		エゾトンボ	コヤマトンボ		●	●				多NT,本NT	NT	NT	重要種	
			タカネトンボ			●					要		重要種	
	カメムシ(半翅)	アメンボ	オオアメンボ		●	●				多NT,本NT	NT		重要種	
		ミズムシ(昆)	エサキコミズムシ	●	●						DD		重要種	
			Sigara属	●		●						DD		重要種
	ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ	●	●	●				多NT,本NT			重要種	
センブリ		トウホククロセンブリ	●		●				多VU,本VU		DD	重要種		
コウチュウ(鞘翅)		ガムシ	ヒメガムシ			●			多-,本VU		DD	重要種		
	ホタル	ゲンジボタル		●					多NT,本NT			重要種		
3綱	6目	12科	19種	10種	13種	15種	0種	0種	0種	13種	12種	11種		
				19種			19種							

注： 和名、学名、配列等は、原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和3年度生物リスト)』(2021年8月10日更新)に準拠した。

【選定基準】

文化財保護法・・・「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)

〔特天〕特別天然記念物 〔天〕天然記念物

種の保存法・・・『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)』

〔国内〕国内希少野生動植物種

環境省・・・『環境省レッドリスト2020(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)』(環境省,令和2年3月27日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔LP〕絶滅のおそれのある地域個体群

東京都2020南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2020年版ー』(東京都環境局自然環境部,令和3年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

神奈川県・・・『神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006』(神奈川県立生命の星・地球博物館,平成18年7月15日)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔要〕要注意種 〔注〕注目種 〔減〕減少種 〔希〕希少種

東京都2010南多摩・・・『東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)ー東京都レッドリスト(本土部)2010年版』(東京都環境局自然環境部,平成22年3月)

〔EX〕絶滅 〔EW〕野生絶滅 〔CR+EN〕絶滅危惧Ⅰ類 〔CR〕絶滅危惧ⅠA類 〔EN〕絶滅危惧ⅠB類

〔VU〕絶滅危惧Ⅱ類 〔NT〕準絶滅危惧 〔DD〕情報不足 〔*〕留意種

今年度(R04)確認された重要種を以下に示す。

1) Pisidium 属

分類が不確定なため分布は不明。関東地方の平地では分断された分布をしている。主に湧水などの砂礫底に生息する。都内では、主に台地下の湧水起源の自然の残っている細流の砂泥底に生息する。

2) サワガニ

本州から九州にかけて分布する。溪流に生息し、多摩地域では河川上流域から中流域に生息する。夏は水から離れて活動することが多い。冬は溪流の大石の下で過ごす。

3) モノサシトンボ

北海道から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の樹木に覆われた池沼に生息する。水生植物がわずかに生育する程度でも生息でき、公園や庭園の池、個人宅の庭池などにもよく見られる。成虫は初夏から夏に見られる。

4) オオルリボシヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地の水生植物の豊富な池沼に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

5) ルリボシヤンマ

北海道から四国にかけて分布する。水生植物の豊富な小規模な池沼や水たまりのある湿地に生息する。成虫は夏から秋に見られる。成虫は夏から秋に見られる。

6) コシボソヤンマ

北海道から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の林に覆われた河川や水路に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

7) ミルンヤンマ

北海道南部から九州にかけて分布する。やや山地性で、丘陵地から低山地の林に覆われた比較的小規模な河川や水路に生息する。成虫は夏から秋に見られる。

8) ヤマサナエ

本州から九州にかけて分布する。流れが緩やかな河川や水路に生息し、特に谷戸の水路など小規模な砂泥底の流れを好む。成虫は春から初夏に見られる。

9) ヒメサナエ

本州から九州にかけて分布する。丘陵地から山地の河川に生息する。多摩川水系では、羽化は大きな支流の中下流で多く観察され、本川の中流域でも見られる。成熟個体や生殖活動は山地溪流で見られる。成虫は初夏から夏に見られる。

10) コサナエ

北海道から本州にかけて分布する。平地から丘陵地の樹木に覆われた池沼や水たまりのある湿地に生息する。区部から多摩地域の平地の確実な現存生息地は皇居のみ。多摩地域の丘陵地には数カ所の生息地が現存している。成虫は春から初夏に見られる。

11) コヤマトンボ

本州から九州にかけて分布する。平地から丘陵地の河川に生息し、川幅が広く砂礫底の河川中流域を好む。成虫は春から夏に見られる。

12) タカネトンボ

北海道から九州にかけて分布する。丘陵地から低山地の樹木に覆われた池沼に生息する。小規模な滞水にも見られ、貯水槽などの人工的な水域にもしばしば生息する。成虫は初夏から秋に見られる。

13) オオアメンボ

本州から九州にかけて分布する。日本産アメンボ科の最大種。平地から丘陵地の緩やかな流れや池沼に生息する。

14) エサキコミズムシ

本州から南西諸島にかけて分布する。水田などの開けた水域の浅い環境を好む。

15) Sigara 属

各種の水域に生息する。神奈川県では、各地から「コミズムシ」として多くの記録があるが、これらは複数種を含んでいるものと考えられる。県下からは、この属としてアサヒナコミズムシ、ヒメコミズムシ、ハラグロコミズムシ、エサキコミズムシ、コミズムシの記録があるが、各種の状況は不明であり、県下の水辺環境から考えて、危機的状況にある種も含まれるものと考えられる。

16) ヤマトクロスジヘビトンボ

本州から南西諸島にかけて分布する。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。平地から低山地の湧水の見られる流れに生息する。

17) トウホククロセンブリ

本州から九州にかけて分布する。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。丘陵地の湿地や小規模な池沼に生息する。

18) ヒメガムシ

本州から南西諸島にかけて分布する。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田に生息する。

19) ゲンジボタル

本州から九州にかけて分布する。平地から山地の清流または源流域、谷戸に生息する。成虫は梅雨時に出現し、時に灯火にも飛来する。

大戸緑地希少猛禽類調査

西部公園緑地事務所
工事課 野山北・六道山公園建設担当
岡 加奈子

1. 業務概要

1. 1 調査目的

本委託は、大戸緑地の自然環境の保全と、適切な公園整備や管理に資するため、町田市相原町周辺の希少猛禽類のモニタリング調査を行うものである。

1. 2 発注者

東京都西部公園緑地事務所

1. 3 受託者

株式会社 セルコ

1. 4 契約期間

令和3年10月13日から令和4年11月30日まで

1. 5 委託場所

東京都町田市相原町地内
調査範囲を以下に示す。

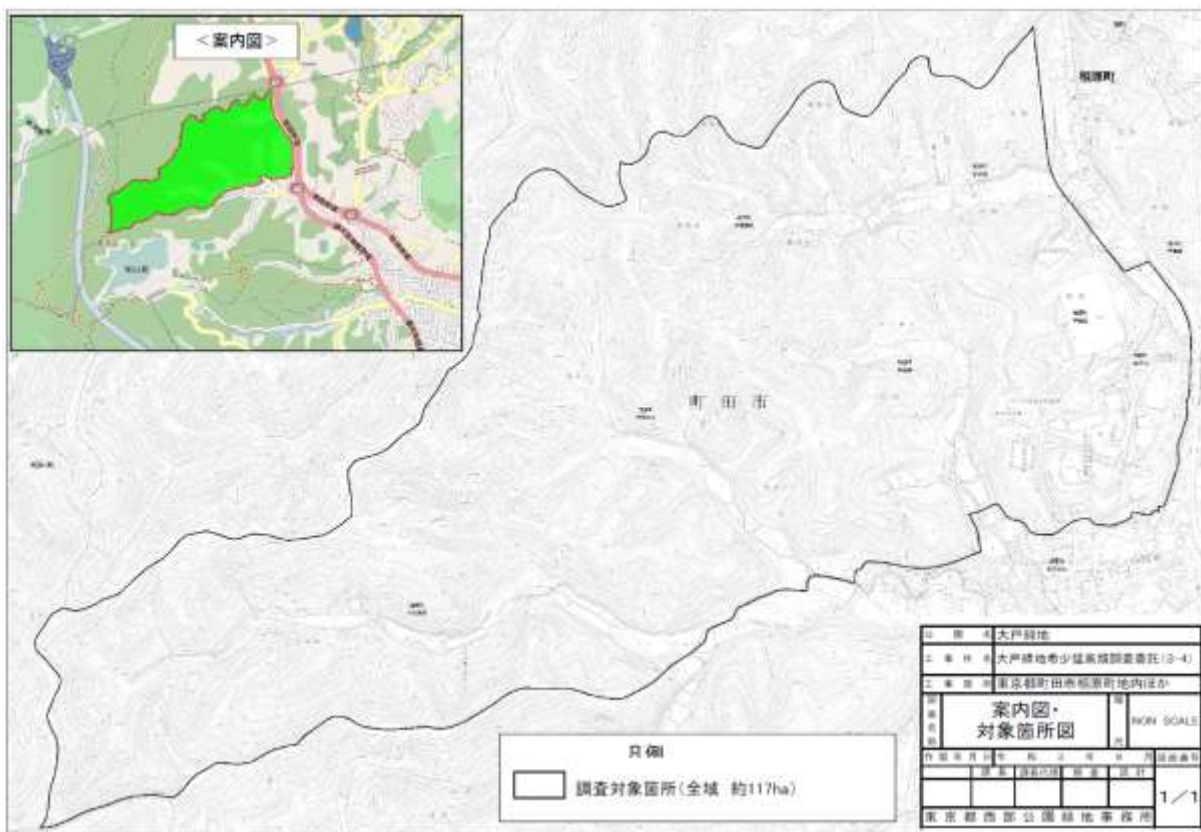


図1-1 調査範囲

2. 業務内容

2. 1 調査項目

過年度に実施した猛禽類調査の結果、大戸緑地内とその周辺では、ノスリ・ハチクマ・オオタカ・夜行性猛禽類の営巣が確認されている。本業務では、過去に繁殖が確認されてきた希少猛禽類を対象にしたモニタリング調査を実施した。

調査項目等を表 2－1 に示す。

表 2－1 調査項目

調査項目		地点数	調査時期、回数
ハチクマ繁殖状況調査		4地点	5～8月、4回以上 (2日連続/1回)
オオタカ調査	生息状況調査	複数地点	2月～4月、6回 (1回あたり1日以上)
	繁殖状況調査	複数地点	5月～8月、8回 (1回あたり1日以上)
	周辺繁殖状況調査	複数地点	1月～3月、4回 (1回あたり1日以上)
ノスリ繁殖状況調査		複数地点	1～7月、7回程度、 合計14日以上。
夜行性猛禽類調査		複数地点	1～6月、4回

2. 2 ハチクマ・オオタカ・ノスリ調査方法

見通しの良い箇所に調査定点を設定し、8～10 倍の双眼鏡及び 20～60 倍の望遠鏡等を用い、全方位においてハチクマ・オオタカ・ノスリ等の猛禽類を確認した。

調査時間は、早朝（日の出から 1 時間以内）から 7 時間とし、各調査員は、トランシーバーにより情報交換を行い、複数定点から同一個体を観察するように努めた。

調査対象とする猛禽類を確認した場合は、年齢、性別、行動、時刻等の情報を可能な限り記録し、飛翔経路等の確認位置を地図上に記録するとともに、必要に応じて写真撮影を行い、個体識別情報を収集した。

なお、調査対象種は、ハチクマ・オオタカ・ノスリとするが、その他の希少猛禽類が出現した場合には、併せて記録を行った。

また、営巣地周辺に立ち入る際は、ビデオカメラ等を用いて人為的な圧力がかからないよう配慮した。

調査時間及び日の出時間を表 2－2、調査風景例を写 2－1 に示す。なお、猛禽類の出現状況に応じて、適宜定点を移動した。

表 2－2 調査時間及び日の出時間

	調査時間	日の出時間	ハチクマ	オオタカ	ノスリ
1月	7:30～14:30	6:42～6:51	－	○	○
2月	7:00～14:00	6:13～6:41	－	○	○
3月	6:30～13:30	5:29～6:11	－	○	○
4月	6:00～12:00	4:50～5:28	－	○	○
5月	5:30～12:30	4:27～4:49	○	○	○
6月	5:30～12:30	4:27～4:28	○	○	○
7月	5:30～12:30	4:29～4:48	○	○	○
8月	5:30～12:30	4:49～5:12	○	○	－



写 2－1 調査風景例

2. 3 夜行性猛禽類調査

公園内に営巣する夜行性猛禽類について生息状況及び繁殖状況を確認した。調査は、日の入り1時間前から日の入り3時間後まで（表2-3参照）とした。

日中に活動する種であれば目視観察が行われるが、フクロウのような夜行性の種は目視で補捉することが困難であり、鳴き声を手掛かりとして生息状況を把握した。

調査員が現地で直接鳴き声を確認する他、複数地点に録音機（ICレコーダー）を4箇所設置し、より広い範囲に渡って調査した。録音機は時間指定によるタイマー録音が可能な機種を選定し、対象種の調査に適切な時間帯に録音が実行されるように設定した。

表2-3 調査時間及び日の出時間

	調査時間	日の入時間
1月	15:39～20:07のうち4時間	16:39～17:07
2月	16:08～20:35のうち4時間	17:08～17:35
3月	16:36～21:02のうち4時間	17:36～18:02
4月	17:03～21:27のうち4時間	18:03～18:27
5月	17:27～21:51のうち4時間	18:27～18:51
6月	17:51～22:01のうち4時間	18:51～19:01

3. 調査結果

3. 1 確認種の概要

本調査で確認した猛禽類は3目3科9種であった。猛禽類確認種一覧を表3-1に示す。

表3-1 猛禽類確認種一覧

No.	目名	科名	種名		選定基準			
			和名	学名	①	②	③	④
1	タカ	タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>		NT	EN	CR+EN
2			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>			NT	VU
3			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		NT	VU	希
4			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		NT	VU	VU
5			サシバ	<i>Butastur indicus</i>		VU	CR	CR+EN
6			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>			VU	VU
7	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>			EN	NT
8			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>			CR	VU
9	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	VU	VU	CR+EN
計	3目	3科	9種		1種	5種	9種	9種

・和名、配列等は、日本鳥学会（2012）『日本産鳥類目録』（改訂第7版）に準じた。

・重要種の選定基準は以下のとおりである。

①：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

○：国内希少野生動植物種

②：環境省レッドリスト2020

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版（本土部南多摩）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

④：神奈川県レッドデータブック2006WEB版

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、希：希少種

3. 2 ハチクマ

現地調査により、公園周辺にてハチクマが飛翔する様子を確認した。ペアによるディスプレイ（波状飛行）が頻繁にみられ、また、過年度の営巣地上空を飛翔する様子も確認されたため、繁殖の可能性を考慮して8月まで調査を継続した。

しかし、巣材運びや餌運搬といった繁殖を示唆する行動は確認しなかった。また、一般的なサイクルであれば幼鳥の巣立ち時期である8月以降もディスプレイ（波状飛行）が頻繁に確認されていたことから、今年度は繁殖しなかったものと思われる。

なお、公園周辺において特定の樹林地に出入りする様子はなかったものの、過年度調査では複数ペアが飛来していたことから、周辺の地域においても別の個体が飛来している可能性がある。

ハチクマの確認状況を表3-2に示す。

表3-2 ハチクマ確認状況

	確認概要
5月	複数個体が飛翔している様子を確認した。
6月	波状飛行する様子を確認した。
7月	波状飛行する様子を確認した。
8月	波状飛行する様子を確認した。



ハチクマ確認状況

3. 3 オオタカ

① 生息状況調査、② 繁殖状況調査、③ 周辺繁殖状況調査によりオオタカの繁殖を確認した。

現地調査により、繁殖が成功し、2羽の幼鳥が巣立つのを確認した。

オオタカの確認状況を表3-3に示す。

表3-3 オオタカ確認状況

	確認概要
1月	狩りをする個体を確認した。
2月	飛翔する個体を複数回確認した。
3月	ペアによる飛行や鳴き交わしを確認した。
4月	営巣林付近で鳴き声が聞こえた。
5月	巣内で抱卵する雌を確認した。
6月	6月上旬に少なくとも雛1羽を確認し、排泄行動がみられた。また、ペアの雌が巣上にて雛の毛づくろいや見張り等を行っていた。 6月下旬に雛2羽を巣の上に確認した。雛は、巣上で飛ぶ練習をしていた。
7月	7月上旬に巣の上に幼鳥の姿はなく、木の上から2個体の鳴き声を確認した。7月下旬まで、営巣林周辺で幼鳥の姿及び鳴き声を確認した。
8月	オオタカの確認はなく、既に分散したものと思われる。



オオタカ確認状況

3. 4 ノスリ

現地調査により、ノスリの繁殖を確認した。また、本調査中に 2 羽の幼鳥が巣立つのを確認した。

ノスリの確認状況を表 3-4 に示す。いずれも、事前踏査や他項目調査における確認記録を含む。

表 3-4 ノスリ確認状況

	確認概要
1月	ペアで飛翔する様子を確認した。
2月	ペアで飛翔する様子を複数回確認した。また、ペアによる鳴き交わしやディスプレイも複数回確認した。
3月	ペアで飛翔する様子を複数回確認した。また、断続的な鳴き声やディスプレイも確認した。
4月	低空飛行や狩りをする様子を確認した。
5月	巣内に少なくとも1羽の幼鳥を確認した。白い羽毛に覆われており、孵化から数日以内と思われる。餌運搬や他個体の排斥行動がみられた。
6月	6月上旬に、巣内に2羽の幼鳥を確認した。巣内で雛2羽を確認した。全体的に幼羽が生え揃い始めていた。 6月下旬に既に2羽とも巣立ちを迎えており、営巣林内を移動する様子を確認した。
7月	2羽の幼鳥が営巣林周辺を鳴きながら移動していた。
8月	2羽の幼鳥が営巣地周辺を飛翔する様子を確認した。



ノスリ確認状況（雛の様子）

3. 5 その他の猛禽類（夜行性猛禽類を除く）

現地調査において、その他の猛禽類としてツミ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサを確認した。いずれも確認回数が少なく、繁殖を示唆する行動もみられていないため、一時的な利用と考えられる。

3. 6 夜行性猛禽類調査

現地調査において、夜行性猛禽類としてフクロウとアオバズクの 2 種を確認した。

鳴き声の確認地点は毎回異なっており、鳴き声の確認場所付近には営巣に適した樹洞はなく、営巣地としての利用ではなく、採餌場として利用している可能性がある。

3. 7 行動圏の内部構造（行動圏・高利用域・営巣中心域）分析

「猛禽類保護の進め方」及び「猛禽類保護の進め方（改訂版）」のほか、過年度業務で策定されている「猛禽類保護管理指針」に沿って行動圏、高利用域、営巣中心域の内部構造について解析した。

3. 8 過年度調査を含めたとりまとめ

猛禽類は、過年度調査を含め、4 目 3 科 9 種が確認されている。

過年度調査を含めた猛禽類確認状況を表 3－5、「大戸緑地希少猛禽類配慮指針（平成 29 年 3 月）」以降の繁殖状況を表 3－6 に示す。

確認された猛禽類の中には、主に昆虫類を捕食するハチクマ、主に鳥類を捕食するオオタカ、主に小型哺乳類を捕食するノスリ等が含まれている。捕食対象の異なる猛禽類が複数生息しており、多種多様な生態系が成り立っていることが見受けられる。

なお、種毎の特性や保全上の留意点等については、「猛禽類自然環境保全計画書（案）」に記した。

表 3－5 過年度調査を含めた猛禽類確認状況

No.	目名	科名	種名		出現状況		選定基準			
			和名	学名	過年度	本年度	①	②	③	④
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○			NT	EN	VU
2		タカ	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○		NT	EN	CR+EN
3			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○				NT	
4			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○	○			NT	VU
5			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○		NT	VU	希
6			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○		NT	VU	VU
7			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○		VU	CR	CR+EN
8			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○			VU	VU
9	フクロウ	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	○			EN	NT
10			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	○	○			CR	VU
11	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○				VU	
12			ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○	○	VU	VU	CR+EN
計	3 目	4 科		12 種	12 種	9 種	1 種	6 種	12 種	10 種

・和名、配列等は、日本鳥学会（2012）『日本産鳥類目録』（改訂第 7 版）に準じた。

・重要種の選定基準は以下のとおりである。

①：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

○：国内希少野生動植物種

②：環境省レッドリスト 2020

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020 年版（本土部南多摩）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

④：神奈川県レッドデータブック 2006WEB 版

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、
VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、希：希少種

表 3－6 「大戸緑地希少猛禽類配慮指針（平成 29 年 3 月）」策定以降の繁殖状況

種名	過年度の繁殖状況
ハチクマ	【H29】 A ペア：造巣後、繁殖失敗。 【H29】 B ペア：繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 ディスプレイを確認したが、繁殖はしていない。
ツミ	【H28】 造巣を確認したが、繁殖失敗した。 【H29】 繁殖示唆行動が確認されたが繁殖の成否は不明。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖示唆行動が確認されなかった。
ハイタカ	【R4】 上空通過のみ。
オオタカ	【H28】 繁殖成功。 【H29】 繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖成功。
サシバ	【R4】 上空通過のみ。
ノスリ	【H28】 繁殖成功。 【H29】 繁殖成功。 【H30】 繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖成功。
フクロウ	【R1】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 【R4】 繁殖示唆行動は確認されなかった。
アオバズク	【R1】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 【R4】 繁殖示唆行動は確認されなかった。
ハヤブサ	【R4】 上空通過のみ。

自然公園におけるDX推進の取組

東京都環境局自然環境部緑環境課

堀 雅 美

I. はじめに・自然公園におけるDX推進の背景

東京には国立公園が3つ、国定公園が1つ、都立自然公園が6か所、計10か所の自然公園が指定され、面積で東京都の陸域の約36%を占めています。2017（平成29）年に策定された「東京の自然公園ビジョン」では、「誰もが訪れ、誰もが関われ、誰からも理解される自然公園」を実現することが目標とされました。また、「2020年に向けた実行プラン」では、自然公園への来訪者数を現状60万人から70万人にするとの具体的な数値目標も掲げていました。

そのため、2019（平成31）年度に検討会を設けて、『「自然公園への多様な利用者の来訪促進検討会」意見書』を、また、同年度に「外国人利用動向調査」を行いました。自然公園を多様な方々に利用していただくことは、東京の自然環境や生物多様性保全への意識を高め、そのための行動に移していただく気づきの機会としても、今後ますます重要となります。しかし、多くが自然地のため、誰もが自然公園に残された自然環境を楽しむ機会を得ることができるようにすることは容易ではありません。ハードの整備は安全で充実した体験を提供するうえで必要不可欠ですが、全てをユニバーサルにするには自然公園内では限界があるため、ソフトの充実、特にアクセシブルな情報提供を行うためにデジタルを活用し、安全登山のための情報提供や自然環境学習に役立てることは、より豊かな体験を提供するために重要と考えます。

こうした観点から、自然公園の課題解決に資するDXを推進する挑戦を始めました。

以下では、これまでの取組を振り返り、今後の展望についてもお伝えしたいと思います。

II. 自然公園におけるXRの推進（ユニバーサルツーリズム）

このような背景とコロナ禍前のインバウンドの来訪者数急増に伴い、遭難事故や盗掘の被害などが報告されていたため、まずはビジターセンターへのデジタル機器の導入から始めました。その後コロナ禍で状況が大きく変わる中であっても、自然公園における課題解決を目指して取り組んできました。この取組はユニバーサルツーリズムという事業名で取り組んでいるものです。

ここでは、まずユニバーサルツーリズムの取組の中で考えてきた課題をご紹介しますとともに、これまで取り組んできた内容について簡単にご紹介します。

1 課題解決に資するDXの推進を目指して

自然公園の利用者数増加に向けて、課題をいくつかのステージに分けて考えます。知っていただく・来ていただく、そして体験していただく、再来する際に私たちが提供すべき情報に合わせたツールを考えると、次の表のように整理できます。時系列に並んでいますので、それぞれのツールについてご紹介したいと思います。以下の表ではまだ着手できていない課題もありますが、今後も庁内でのDX推進の取組があればぜひ協力させていただきたいと考えています。

また、この稿では触れませんが、合わせて自然公園に必要な通信環境の整備にも順次取り組んできました。こちらはデジタルサービス局の多大な支援があったため2年という短期間で自然公園まで実現することができたと思い、感謝申し上げます。

表1 課題解決のためのツールの考え方

課題 ツール	知る・来る	体験する			再来する
	無関心層・ビギナーへのアプローチ	多言語・ユニバーサルな自然環境学習の提供	安全性・ルールへの周知	混雑緩和	回遊性
デジタルサイネージ(R2～)		◎	◎	未	◎
タブレット端末(R2～)		◎	◎		
VR・AR 体験(R2～)	◎	◎			
ナビゲーション・パーソナル地図情報(R4～)	◎		◎		
センサー設置等(今後の課題)				未	

2 デジタルサイネージとタブレット（令和2年度から）

最初に、現地での情報発信力強化のため、2020（令和2）年度からデジタルサイネージとタブレットをビジターセンターに導入しました。

（1）デジタルサイネージ

ビジターセンターは、現地周辺の最新の良質な情報を発信する場所として、①ビジターセンターの安全登山等の拠点機能の向上、②多くの人が訪れるVCを活用し、現地の旬の情報や利用の際の注意点等広い情報発信が必要です。そのため、デジタルサイネージは高尾と御岳の2か所のビジターセンターでの情報発信の主要な媒体とするべく、以下を目的に設置しました。

- ・多言語でのルールの説明、安全情報の伝達、解説板などVC周辺施設の案内
- ・自然公園内の他の施設（島しょ等）の案内により自然公園内の回遊性を確保
- ・自然公園内で見られる植物や動物の紹介

デジタルサイネージは、登山道の地図や情報とそこで見られる植物に関する情報を掲載したタッチパネル式のサイネージ（下）と自然公園ルール、お天気情報、その他のお知らせを順次表示できるサイネージ（上）の2種類から構成されます（写真1）。設置した令和2年度からはしばらくコロナ禍で、自然公園の利用に関しても大きな制約があり、ひとまず日本語と英語のコンテンツを作成しました。設置した当初は使われ方が適切でなくフリーズしてしまったりすることも多かったそうですが、その後は順調に稼働しています。高尾・御岳ともに外国人の方の利用も増えてきたため、2023（令和5年度末）までに、中国語（簡体字・繁体字）と韓国語の翻訳も掲載する予定です。また、最近では連携協定を結んでいる大塚製薬（株）様が作成された熱中症予防の動画や、環境局の他の施策で作成した動画も掲出し、多くの方にご覧いただいています。



写真1 デジタルサイネージ

（2）タブレット端末

タブレット端末は、高尾、御岳、奥多摩の各ビジターセンターと小峰公園に設置され、ペーパーレスな情報提供やより詳しい自然情報の提供を目指しています。新たに公園の紹介コンテンツも作成され、訪れる方に公園の魅力や施設情報を入手していただくことができます。また、筆談ができるアプリも活用されており、聴覚に制約のある方や外国人の方々とのコミュニケーションを円滑に行うことができます。

さらに、通信環境が整った場所では、タブレット端末をイベントの場などに持ち込み、スタッフの方々が利用することもあります。これにより、イベントの参加者に対してリアルタイムの情報提供や案内を行うことができます。

タブレット端末のビジターセンターでの活用は、情報の提供手段の多様化や効率化を図り、来訪者の満足度向上や公園の魅力の発信が促進されることが期待されます。

3 XR体験など（令和2年度から）

次のデジタル技術導入の試みとしては、「VR（Virtual Reality 仮想現実）」、「AR（Augmented Reality 拡張現実）」などのXR（クロスリアリティ）技術の活用で、令和2年度から実証や実装に取り組んできています。

（１）令和２年度 「アバターロボットを活用した自然公園の遠隔体験」

戦略政策情報推進本部主催のイベント「あたらしい生活様式なるほど博」（2020（令和2）年11月7日（土曜日）、8日（日曜日） 場所：新宿住友ビル三角広場）環境局ブースにおいて、「アバターロボットを活用した自然公園の遠隔体験」を実施しました。アバターロボット「newme」を活用して、高尾山と西新宿「あたらしい生活様式なるほど博」の会場をつなげ、高尾山にいるアバターロボットによって都会にいても、高尾山の豊かな景色をリアルタイムで堪能できたり、高尾山にいるガイドと交流したりと高尾の自然を満喫することが可能となり、遠隔通信技術で、都会にしながら、リアルタイムで「東京の自然」を感じる体験を実現しました。

その結果、アンケート調査に答えた130名の方々のうち81%の方が「実際に現地に行ってみてみたいと思った」と答えてくださった他、「参加したことで東京の自然公園への興味関心は高まったか」という問いには78%の方が「高まった」と答えてくださいました。一方、「画質や機器には改善の余地がある」というご意見もありました。



図1 実証実験「アバターロボットを活用した自然公園の遠隔体験」



写真2、3、4 実証実験の様子

（２）令和３年度 AR等のICT 技術を活用した自然公園体験のための検討調査

2021（令和3）年11月6日（土曜日）、7（日曜日）に高尾ビジターセンターにおいて、「AR等のICT技術を活用した自然公園体験のための検討調査」を実施しました。タブレット端末でARマーカを読み取ると、高尾山に生息する動物、ホンドキツネ（3D）・オオルリ（2D、鳴き声あり）の立体画像が出てくるのを体験していただきました。

1日目は202名、2日目は247名の方々にアンケート調査に回答していただき、「自然公園にAR等が設置されたら利用したいか」という問いには92%の方が利用したいと答えました。また、「今回ARを視聴したことで自然環境についてもっと知りたいと思ったか」という問いには95%の方が「そう思った」と答えました。自由意見では、「オオルリの動画が見たかった」、「自分自身のスマホで楽しみたい」、「ARと一緒に写真を撮りたい」、「自然とマッチした中で見たい」といったご要望がありました。また、「自然公園においてデジタル技術をどのような場で活用したらよいと思いますか？」の問いには、「登山道情報の発信」、「自然環境学習・普及啓発」、「歴史・文化の紹介」、「施設の管理・整備」、「予約等手続きの簡素化」の順に回答を多くいただきました。



写真 5, 6 実証実験の様子



図 2, 3 作成したAR

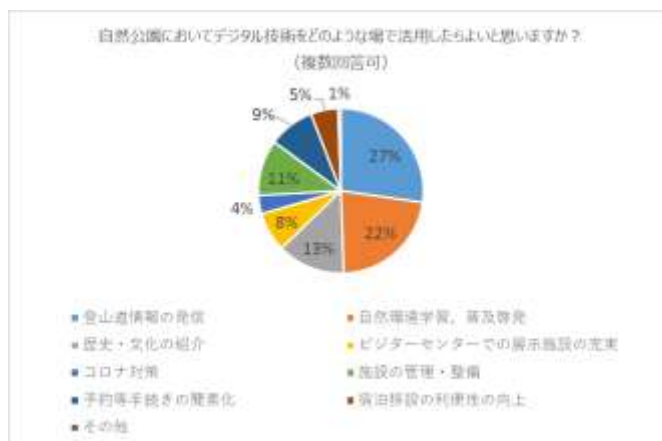


図 4 アンケート調査結果（抜粋）

(3) 令和4年度 高尾山デジタルガイドと生きもののAR

高尾山は都心から最も近い登山スポットで、国内外から多くの観光客等が訪れます。そこで、前年度の高尾山における実証実験の成果を受けて、高尾山内の掲示板にQRコードを設置し、安全安心な登山を楽しんでいただくため、山頂に向かう7つの登山道の情報について360度カメラの画像と音声でご案内するサービスと自然環境学習のきっか

けを作るため、高尾山をはじめとする自然公園に生息する5種類のARを整備しました。どちらもアプリのダウンロードや個人情報の収集はありませんので安心してご利用いただけます。



写真7 掲示板



図5 デジタルガイド画面



写真8 デジタルサイネージ



図6 AR画面・QRコード (ルート案内・オオルリ)

① 高尾山デジタルガイド

麓の総合案内板や山内の案内板にあるQRコードをスマートフォンで読み取ると、目的に応じた登山道が選べます。また、スポットを通った際にはカーナビゲーションシステムのように、GPSを用いて、案内の目標物に近づくとポーンという音とともに、音声で見どころに関する情報などをお知らせします。ただし、歩きながらのスマートフォンの利用は危険です。ポケットなどに入れて音声が届いたら立ち止まってからスマートフォンを確認していただければと思います。途中スリープモードにならないことをご注意いただければ、山頂まで問題なく案内してもらえます。現在、訪日外国人の方も増加してきているため、日本語と英語のほかに、韓国語、中国語(繁体字・簡体字)版を作成中です。このナビゲーションシステムと360度バーチャル登山は、VR360度画像と動画をそれぞれ用いています。

これから高尾山を訪れる方や実際に訪れることが難しい方にも、スマートフォンやPCで疑似体験をしていただくことができますので、登山道や装備の確認にもお役立ていただければと思います。

表2 高尾山デジタルガイドメニューと URL

メニュー	URL
デジタルガイド	https://x.gd/OYBvf
1号路男坂バーチャル登山	https://youtu.be/LO7HN0rDb1U
1号路女坂バーチャル登山	https://youtu.be/IEyzdzespnc
3号路バーチャル登山	https://youtu.be/t2WBnivWhLg
4号路バーチャル登山	https://youtu.be/P4X1ZF4T0eQ
3号路バーチャル登山	https://youtu.be/9Ib_KJDYP7s

② 生きものの AR

高尾山の生物多様性を知って自然環境への関心を持っていただくため、普段なかなか実際に見ることが難しい高尾山に生息する生き物で AR を 5 種類作成しました。オオルリ、キビタキ、ニホンリス、アサギマダラ、タゴガエルの 5 種類です。

ご自身のスマートフォンやタブレットを使って QR コードを読み取っていただくと、AR で生き物の動画を音声つきで見ていただくことができます。簡単な操作で AR と一緒に自撮りしていただくことも可能です。AR は、スマートフォン、タブレット端末のみに対応しています。山内の掲示板にそれぞれ異なる AR の QR コードを掲示してありますので、ゲームのように集めていただいて、AR を通じて高尾山の生物多様性を知っていただければと思います。

AR の作成に当たっては、高尾地区の東京都レンジャーやビジターセンター、檜原都民の森スタッフの意見を聞き、AR 用の生き物を選定しました。また、画像や映像についても、1 種類以外は檜原都民の森スタッフが撮影したものを使用しました。手作りにこだわることで、より現場の雰囲気や魅力を伝えることができましたと考えています。

また、最初はチラシで PR を始めましたが、AR の QR コードを見せるだけでは PR が足りないと感じました。そこで、イベント等に出展した際に QR コードを持ち帰ってもらうために、少ない予算で購入できる重ね捺しスタンプを導入しました。生きものの AR にアクセスできる QR コードが印刷されたポストカードの上に、クイズに答えながらスタンプを重ね捺ししていくと生き物の絵が完成します。これにより、高尾山の生き物の情報を持ち帰り、AR をじっくりとご覧いただいたり、ご家族やご友人と共有していただいたりすることができるようになりました。

クイズも手作りし、イベントの趣旨や対象者に合わせて難易度や内容を変えています。こうすることで、イベントの環境局ブースを訪れた人々が生き物に興味を持ち、自然や生物に関心を持っていただくきっかけとなることを期待しています。また、高尾山をはじめとする自然公園の生物多様性について関心を持ってもらい、保護の取組を知ってもらうために、クイズや解説を通じて、訪れた人々に自然や生物について考える機

会を提供できていると感じています。結果として、クイズ、重ね捺しスタンプ、ARのすべてが「非常に面白い」と好評を得ることができました。

このように、地道に、より多くの方にARを通じて高尾山の生物多様性を知っていただくための取組を行っています。イベントでPRする中で、実際に生き物に触れる機会が少ない子供たちが生きものへの忌避感を露わにするような場面もありました。今後も、イベント等への出展やビジターセンターでのスタンプの巡回、更なるARの作成などにより、コツコツとARのPRを通じて自然に関心を持っていただけるよう努めてまいりたいと思います。

③ 広報活動

高尾山デジタルガイドと生きもののARについて、2023（令和5）年3月に公表して以後、都庁YouTube公式チャンネルやHP、東京都提供番組、ChatGPT取材対応、都庁DXアワード、伝わる広報大賞などにお声掛けいただき、広報の機会を頂戴してきました。特に二次元で伝わりにくいXRの取組について映像で取材しわかりやすくご紹介いただけたことは、とても助かりました。対面のイベント（10/19-20 都立公園150周年総合文化祭、11/11-12 アフリカフェア、11/12 地域間・世代間交流事業きく・かく・えがく、12/6-8 エコプロ2023）にも積極的に出展しています。

機会があればぜひご体験いただくとともに、PRの機会がございましたら是非お声掛けください。生きもののARはオンラインイベントやアンケートのノベルティ等としてもご活用いただけます。

表3 掲載していただいた東京都提供番組

掲載していただいた東京都提供番組	URL
高尾山を楽しむ 「デジタルガイド」で登山	https://www.tv-asahi.co.jp/t-site/bk/20230501/index.html
高尾山 デジタル技術で登山案内（令和5年5月26日 東京ウィークリーニュース No.82）	https://youtu.be/nEnZT2C-I_M?si=ZuUgqCLHNyh9Bl4x
東京GOOD! TREASURE MAP #243 新しい登山のカタチ「デジタル登山」高尾山	https://youtu.be/8-hU4oySfLk?si=UtnzTo0BaS22zkyE



写真9, 10 イベント出展の様子



図7 イベントで配布したポストカード

このような広報活動には以下のような効果がありました。

- ・ユーザーエンゲージメントの向上

ARのアクセス解析によると、イベント時にARへのアクセス数は4～10倍に向上

- ・動植物の紹介

2023（令和5年）3月のアンケート調査では、「これらのARは高尾の動植物の紹介として効果的でしたか？」との問いに対して、約90%の方が効果的と回答してくださいました。理

由は「高尾山にいる生きものを知るきっかけになったから」、「本物にはなかなか出会えない・見られない生き物が手軽に見られるから」が多くありました。

- ・自然環境への関心 2023（令和5年）11月に実施したアンケートでは、全員がAR体験を通じて高尾山の「自然環境や動物の保護について関心は高まった、又はこれからもっと関心を持

ちたい」と答えてくださいました。また、「AR体験を通じて、高尾山の自然環境や動物の保護のために、個人にはどのようなことができると思われますか？」との問いに対しては、「自然公園の利用ルールやマナーを知ること」（31%）、「ごみの持ち帰り」（23%）、「環境に配慮した行動の実践（21%）」などがありました。

このように、ARの広報活動は高尾山の動植物の紹介に効果的であり、参加者の関心を高めるだけでなく、環境学習効果も見られました。今後もこうした取組を継続し、高尾山の自然環境・生物多様性保全に資する自然環境学習普及活動としていきたいと思

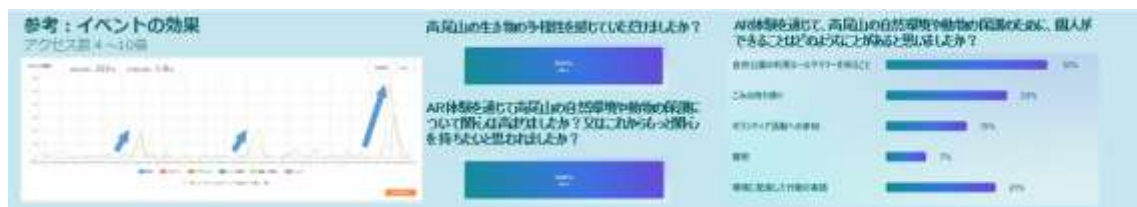


図8 アンケート調査結果（抜粋）

Ⅲ. 自然公園のDXの新たな頂に

現在は、これまでのXRの推進を拡充していくことに加えて、今後3年くらいかけて自然公園における新たなチャレンジとなるスマートパークの実証を準備しています。簡単に今後の展望についてお伝えし、この稿のまとめとさせていただきます。

令和4年度から大島公園海のふるさと村のリニューアルに合わせ、予約・受付・決済等のデジタル化を推進するため、デジタル技術の国内外の動向や同施設で活用できる技術、導入経費、後年度負担等に関する調査を実施し、導入に向けた計画を策定しました。

この調査に基づき、令和6年度からスマートパークの実現に向けたトライアル事業として、大島公園海のふるさと村と奥多摩町山のふるさと村で実証を実施することになりまし

た。実証では、オンライン予約や事前決済、現地のキャッシュレス決済、スマートチェックインなどによる顧客満足度向上などの効果検証を行う予定です。実証実施にあたっては施設管理者や関係者とシステムの導入プロセスを共有し、目的を明確にして進めることが大切だと考えています。

ここまで自然公園のデジタル技術推進の取組について述べてきました。逆説的ですが、本物の自然に触れる原体験や感動に叶うものはありません。東京の豊かな自然に出会う機会や体験そのものが減っている中、あらゆる機会を通じて自然公園に興味を持って訪れてくださる方のすそ野を広げていく取組は、まだ上り坂を歩き始めたところと考えています。人間は誰しも、たまには山や木々の木漏れ日のもとを歩きたい、綺麗な海や星空が見たいといった気持ちを潜在的に持っていると感じています。デジタル技術とその普及を通じて自然公園と新たにつながった一人でも多くの方たちに、都民の貴重な財産である自然公園を大切に思ってもらえることができたら何よりです。

<参考>

平成 31 年度『「自然公園への多様な利用者の来訪促進検討会」意見書』

○自然公園への多様な利用者の来訪促進検討会 「意見書」

1 多様な利用者への情報提供

障害者や支援者が自然公園のことを知ってはいても、バリアフリーに関する情報が充実していないために利用に必要な判断が出来ないケースも多い。誰もが自ら情報を入手し、自らの判断で自然公園を利用できるよう、情報提供を行うことは極めて重要である。

- ・事前情報：利用の計画段階において、障害者や支援者が自ら判断し、必要な支援体制や装備を検討できるよう、様々な手段で情報発信
- ・現地での情報：見どころ、施設のバリアフリーに関する情報のほか、緊急時の連絡方法や注意喚起なども必要。サイン表示（案内板や指導標）の改良、パンフレット、QRコードなど様々な媒体により、様々な障害があっても必要な情報を確実に受け取れる工夫

2 サポート（支援）の充実

機器や人的なサポートにより、利用者の利便が向上するとともに、行動範囲が拡大することで自然公園の新たな魅力に触れて頂くことが可能となる。(略) また、利用者によっては歩行の先導や車椅子のけん引等の人的サポートを必要とする。

3 魅力を伝えるプログラムの充実

4 施策の推進にあたって

一連の取組みを、全ての人が平等に社会参加できる社会や環境について考え、必要な行動を続ける「心のバリアフリー」の観点から推進し、円滑に機能させることで、全ての人のにとってよりよい自然公園となることを希望する。

平成 31 年度「外国人利用動向調査」

- ・**利用者の集中** 全数比で高尾山：75%、御岳山：11% 計 86%を占めており、利用者が 2 つの山に集中。

⇒自然公園をよく知らない（他の山の認知度と集客力が低い）…外国人も同様の傾向

- ・**利用者の高齢化** 自然公園利用者の約 3 割が 50 代以上と考えられ、男女比率は同数程度である。

平日は 50 代以上の利用者の割合が 5 割弱となっており、特に、高尾山における傾向が顕著に表れている。また、三頭山、川苔山、浅間嶺、鷹ノ巣山は他と比べて 50 代以上の登山客の割合が極めて高く、20 代以下の若年層が極めて低い傾向。

⇒平日の高尾山と険しい山に高齢の登山客が多い。

調査日における山ごとの利用者数の割合

	高尾山	御岳山	大岳	棒の嶺	三頭山	弘沢の滝	日原	鷹ノ巣	川苔	浅間嶺
休日	11,062	5,557	481	313	295	280	265	101	97	50
平日	1,771	1,071	47	89	65	107	32	16	23	27
合計	12,833	6,628	528	402	360	387	297	117	120	77
割合(%)	59	30	2	2	2	2	1	1	1	0

道路植樹帯における新しい低木候補樹種の特性評価

公益財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

緑化森林科 長嶋大貴

I. はじめに

1. 東京都の街路樹に関する施策

令和5年7月より、東京都政策企画局策定の「東京グリーンビズ」が始動した。この「東京グリーンビズ」は、100年先を見据えたプロジェクトであり、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」の3つの観点から様々な取組を行うことで、東京の緑の価値の向上と未来への継承を目的としている¹⁾。そのうち「育てる」の中で、街路樹の整備に対する言及もあるが、詳細な取組事項が記載されているのは主に高木の管理についてであり、植樹帯に植えられる低木に関してはほとんど触れられていない。しかしながら、低木も道路の緑を構成するのに欠かすことのできない要素であり、低木の価値向上に取り組むことは、「東京グリーンビズ」の理念と合致するものと考えられる。

2. 道路に植栽された低木の現状

国土交通省が所管する研究機関である、国土技術政策総合研究所の報告によると、各都道府県道における中低木本数は、東京都が他の道府県を圧倒しており、2017年時点で7,431,931本となっている。ちなみに2位は愛知県の4,174,361本、3位は兵庫県の1,992,085本であり、東京都では非常に多数の低木が植えられていることが確認できる。それに対し、樹種の割合については、東京都のみのデータが公開されていないため、関東全体のデータを参照するが、関東全体の低木本数43,614,810本のうち25,639,197本、割合として58.8%がツツジ類となっており、以下、ドウダンツツジ類4.9%、ヘデラ類3.1%、サザンカ類2.4%と、ツツジ類に偏って樹種選択がなされている。他地域でもツツジ類の割合が大きくなっているものの、東北地方で36.7%、中部地方で41.3%、近畿地方で32.0%と、関東では特にツツジ類への偏りが強くなっている²⁾。このツツジ類への樹種の偏りは、ツツジ類は強健であり簡単には傷んだり枯れたりしない一方、枝の伸長はそれほど旺盛ではなく刈り込み作業頻度がそれほど多くなくて済む性質が道路管理者に好まれることで生じているものと推測される。

3. 気温上昇に対する都市緑化の重要性

近年は気温の上昇が続いており、2023年は統計開始以降、世界および日本で年平均気温が最も高かった³⁾。その要因のひとつは地球温暖化であると考えられているが、都市部はヒートアイランド現象による温度上昇も生じているため、夏の暑さは今後さらに厳しくなる可能性があり、対策が求められている。その中で、都市の緑には温度上昇を抑

制する機能があり、それは植物の葉が持つ水分が蒸散する時に気化熱を奪うことによるものが大きい。そのため、都市の緑の量と質を高めることは都市部の気温上昇抑制に寄与すると考えられ、低木類や都内街路樹を適切に維持管理していくことは重要である。

4. 本試験の目的

低木類の樹種の多様化や、植栽環境にあった適切な樹種を選定することは、都市部の緑の量と質の向上に寄与できるものと考えられる。国土技術政策総合研究所の報告によると、現在の都道の低木樹種はツツジ類に大きく偏っていると想定されるため、それに代わる樹種について生育特性を明らかにし、それぞれの樹種にあった植栽場面を提案することで、低木樹種の多様性の向上に役立てることを本試験の目的とする。

II. 試験樹種と方法

1. 供試樹種

表1で示した12樹種を試験に供した。これらの樹種は全て常緑樹であり、生育が緩やかであったり、新葉が黄色いなど葉色に特色があったり、花の観賞性が高かったりなど、新しく都道の低木として利用するにあたり、有望な特性を持つ樹種である。各樹種の詳細な特徴については、今回の試験結果も踏まえ「IV. まとめ」に記載したので、参照されたい。

表1 供試樹種

樹種名	科	属	特徴
イヌツゲ ‘ゴールドエンジェム’	モチノキ	モチノキ	イヌツゲの品種で葉が黄色い
イヌツゲ ‘ヒレリー’	モチノキ	モチノキ	イヌツゲの矮性品種
イレックス ‘サニーフォスター’	モチノキ	モチノキ	新葉が黄色く、光沢がある
オタフクナンテン	メギ	ナンテン	ナンテンの矮性品種で紅葉が美しい
クチナシ	アカネ	クチナシ	初夏に芳香のある白い花を咲かせる
コクチナシ	アカネ	クチナシ	クチナシよりも全体的に小型
コミノネズミモチ ‘バリエガツム’ 流通名：‘シルバープリペット’	モクセイ	イボタノキ	葉の外側にクリーム色の斑が入る
セイヨウツゲ ‘エレガンティシマ’	ツゲ	ツゲ	葉の外側にクリーム色の斑が入る
セイヨウバクチノキ ‘オットライケン’	バラ	スモモ	セイヨウバクチノキの矮性品種
ビブルヌム ハリアヌム	ガマズミ	ガマズミ	ガマズミの仲間葉が小さい
ヒメシャリンバイ	バラ	シャリンバイ	シャリンバイより小型
フイリヒメトベラ	トベラ	トベラ	トベラより小型で葉に斑が入る

2. 方法

(1) 栽培条件

2019年3月19日に、立川市の東京都農林総合研究センター内の赤土を客土した圃場に、試験樹種と対照樹種（サツキおよびヒラドツツジ）の苗木（樹高：15～45cm程度、枝張：20～40cm程度）を株間 50cmで各樹種 10 株ずつ定植し、2023年まで栽培を行った（写真1）。施肥は毎年春に化成8号（N：P₂O₅：K₂O＝8：8：8）を 100 g/m²施用し、除草は適宜行った。



写真1 試験圃場の様子（2020年5月20日撮影）

(2) 生育調査

4半期に一度を目安に、各個体について樹高と枝張を計測した。樹高は株の中で最も上部に伸びている枝の芽の先端を基準として地面までの距離を計測した。枝張は植栽列方向を便宜的に南北方向、その垂直方向を便宜的に東西方向とし、東西方向について最も伸びている枝の先端の芽同士を基準として計測した。

(3) 刈り込み後の生育調査

2019年3月の定植後から2021年7月まで無剪定で管理した試験樹について、イヌツゲ‘ゴールデンジェム’、クチナシ、コクチナシを除く9樹種は2021年7月8日に刈り込みを行った。7月時点はちょうど開花期であったクチナシ、コクチナシについては1ヵ月遅い2021年8月10日に刈り込みを行った。イヌツゲ‘ゴールデンジェム’は生育が非常に緩慢であったため刈り込みを行わなかった。刈り込みのサイズの基準については刈り込み前の樹体の大きさと樹種特性をもとに、それぞれの樹種ごとに決定した。刈り込み後の生育状況について2021年10月11日と2022年7月27日に樹高と枝張を調査した。

(4) 剪定枝発生量と強く刈り込んだ後の回復程度

2021年7月もしくは8月に刈り込みを行った試験樹について、1年後の2022年8月に再度刈り込みを行った。その際、試験樹を5株ずつに分け、半分は前年の刈り込み時と同じサイズで刈り込み、発生する剪定枝量を計測した。残りの半分は前年の刈り込み時より樹高・枝張ともに10cm小さくなるように強く刈り込み、その後の回復程度を調査した。回復程度は、植物体の葉で覆われている範囲を目視で定期的に判定し、緑程度として0～100の値で表現した。

Ⅲ. 結果

1. 定植3年目までの生育速度

2019年3月から2021年6月までの樹高および枝張の推移を図1および図2に示す。成長が最も遅かったのはイヌツゲ ‘ゴールデンジェム’であった。それ以外に成長が遅かった樹種は、対照樹種のサツキおよびヒラドツツジ、イヌツゲ ‘ヒレリー’、コクチナシ、オタフクナンテンであった。それに対し、成長が特に旺盛であったのは、‘シルバープリペット’であり、枝張については他の樹種の倍以上の大きさに成長した。その他に成長が速かった樹種はヒメシャリンバイ、ビブルヌム ハリアヌム、クチナシであった。樹高と枝張について期間中の伸長量を算出し散布図として表したものが図3である。成長が緩やかであった対照樹種のサツキ、ヒラドツツジと樹高の成長が同等程度であったのはオタフクナンテン、イヌツゲ ‘ヒレリー’、コクチナシであった。イヌツゲ ‘ゴールデンジェム’は成長が極めて遅く、低木としては樹勢が弱いと考えられた。

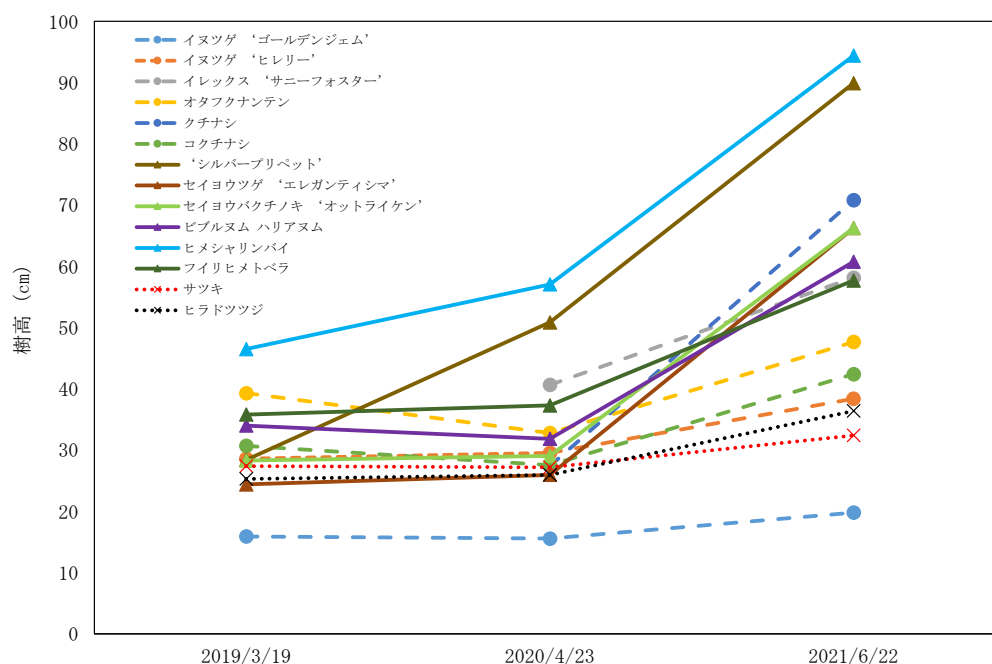


図1 樹高の推移 (2019年3月19日～2021年6月22日)

※クチナシおよびイレックス ‘サニーフォスター’ は、2019年3月のデータ欠測

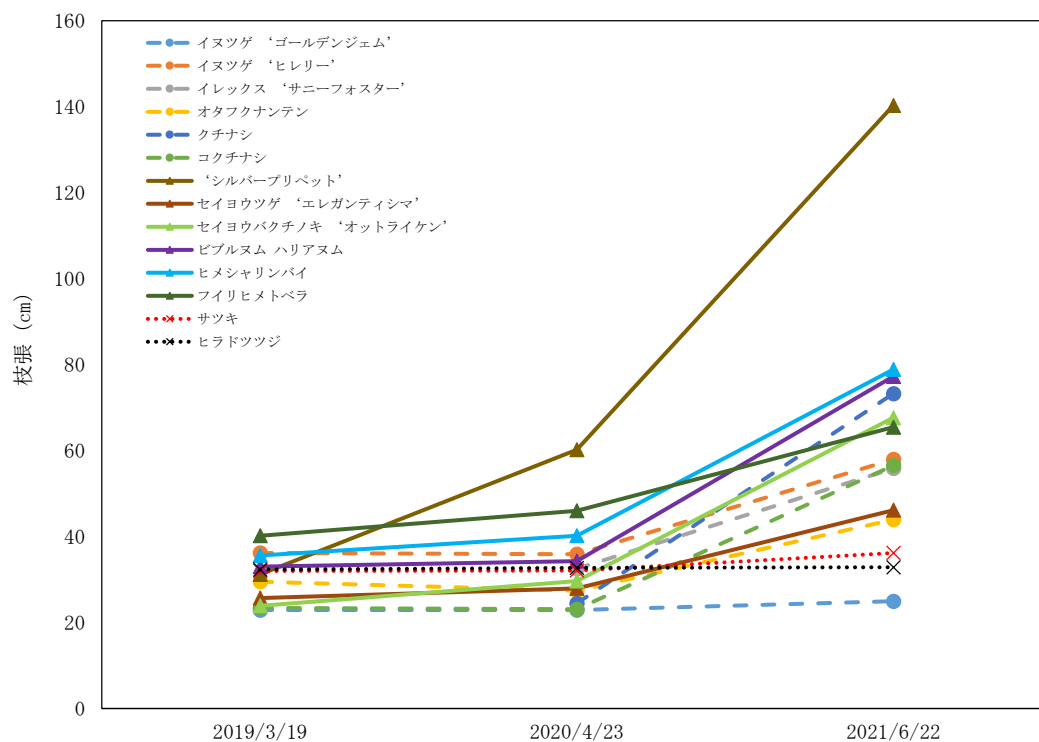


図2 枝張の推移 (2019年3月19日～2021年6月22日)

※クチナシおよびイレックス ‘サニーフォスター’ は、2019年3月のデータ欠測

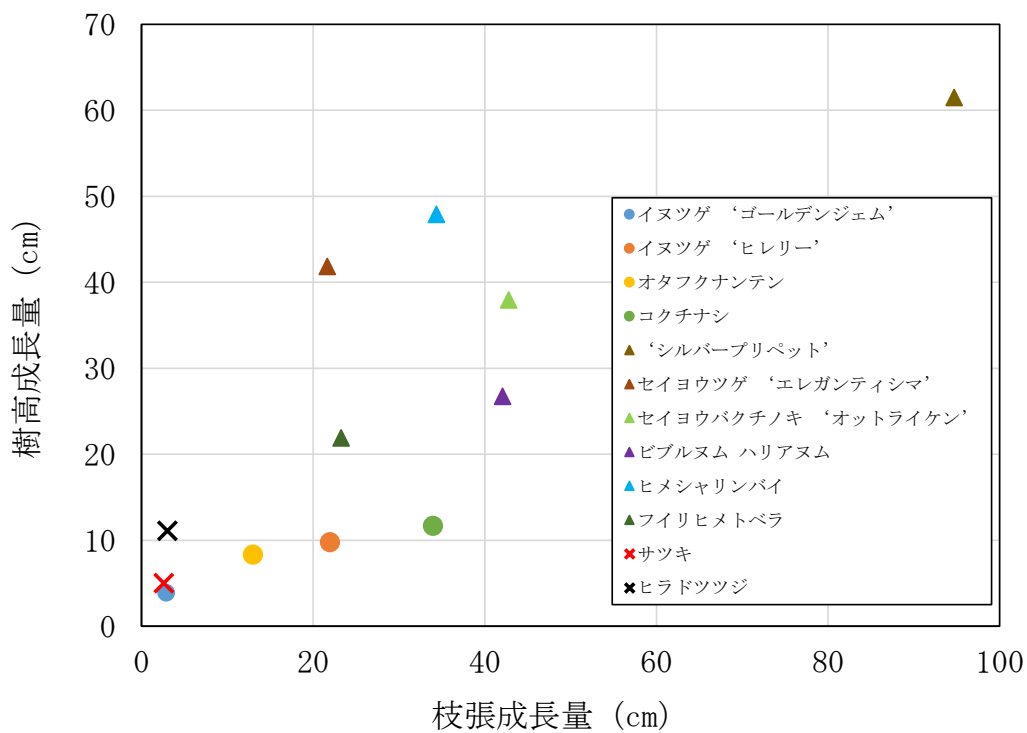


図3 樹高伸長量および枝張伸長量 (2019年3月～2021年6月)

※クチナシおよびイレックス ‘サニーフォスター’ は、2019年3月のデータ欠測により数値無し

2. 刈り込み後の成長と、剪定枝発生量

刈り込み後の樹高と枝張の成長量を図4と図5に示した。棒グラフの青色部分が刈り込み直後の大きさを、オレンジ色の部分が刈り込み後から2021年10月までの成長量を、灰色の部分が2021年10月から2022年7月までの成長量を示している。樹高、枝張ともに最も生育が旺盛だったのは‘シルバークリケット’であり、樹高については1 mを超え、枝張は2 mを超えた。生育が極めて速いことから、通常の低木としては不向きな樹種であると判断される。逆に生育が遅かった樹種はイヌツゲ ‘ゴールデンジェム’、イヌツゲ ‘ヒレリー’、オタフクナンテン、コクチナシ、フイリヒメトベラであり、対照樹種のサツキやヒラドツツジと同等程度かそれ以下の成長であった。しかし、イヌツゲ ‘ゴールデンジェム’については、樹勢が非常に弱いため、生育に厳しい環境である都道への植栽は推奨されない。また、フイリヒメトベラについては、冬期に低温が原因と考えられる葉と枝の枯れが発生したことが要因となっており、生育の遅い樹種として評価することはできない。以上のことから、生育の遅さで樹種の評価を行うと、イヌツゲ ‘ヒレリー’、オタフクナンテン、コクチナシが特に有望な樹種となる。

剪定によって発生した剪定枝の生重を図6に示した。全体的な傾向としては、樹高や枝張の成長が速い樹種は剪定枝発生量も多くなる傾向であった。特に、生育が旺盛だった‘シルバークリケット’は他の樹種より2倍以上の発生量となった。対照樹種であるサツキ、ヒラドツツジは剪定枝発生量が少なく、それと同等程度の発生量であったのは、オタフクナンテンとフイリヒメトベラであった。ただし、樹高や枝張の数字が大きくても、全体の枝が均等に伸びるのではなく、特定の枝が徒長気味に飛び出すタイプの樹種（イレックス ‘サニーフォスター’、ヒメシャリンバイなど）は、それほど剪定枝発生量は多くならなかった。

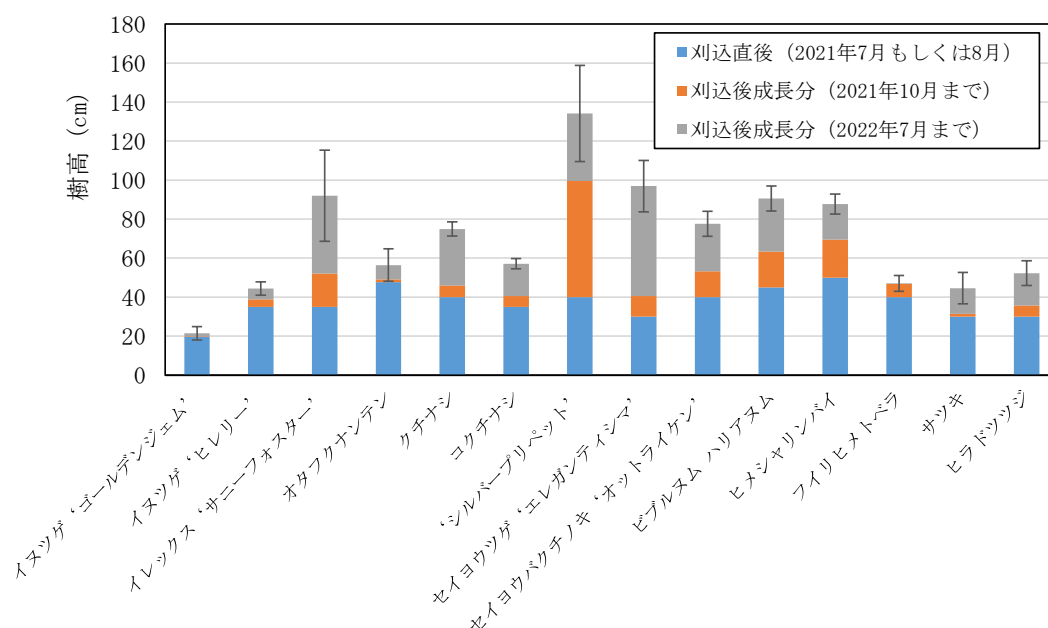


図4 刈り込み後の樹高の成長 (2021年7月～2022年7月)

※イヌツゲ ‘ゴールデンジェム’ は、生育が極めて緩慢なため刈り込み無し、バーは±標準偏差を示す

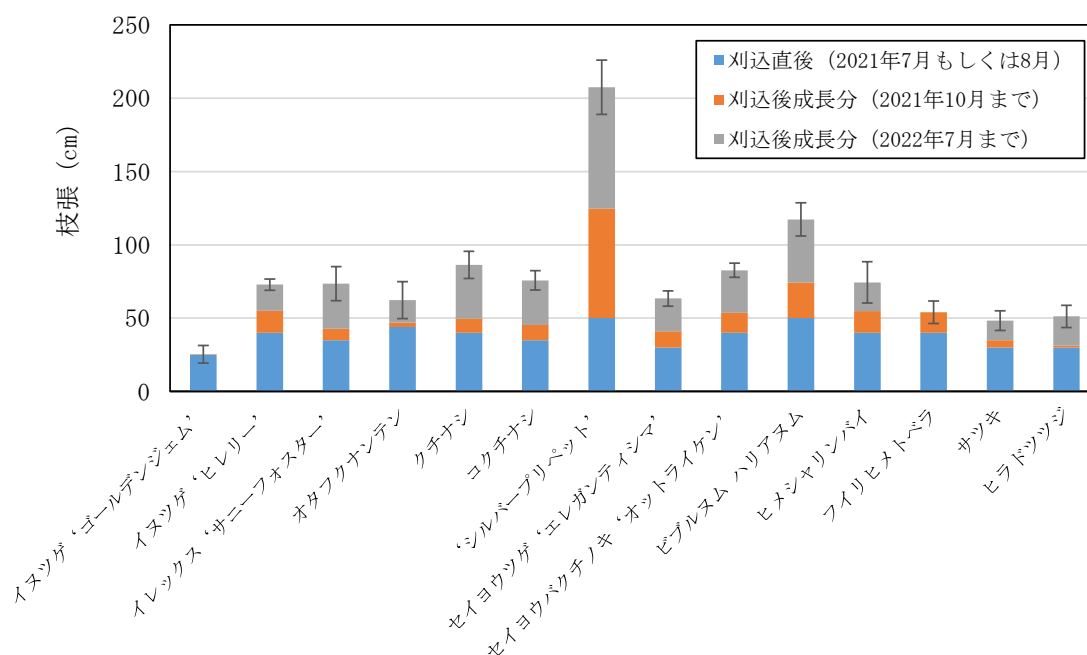


図5 刈り込み後の枝張の成長 (2021 年 7 月～2022 年 7 月)

※イヌツゲ 'ゴールデンジェム' は刈り込み無し、バーは±標準偏差を示す

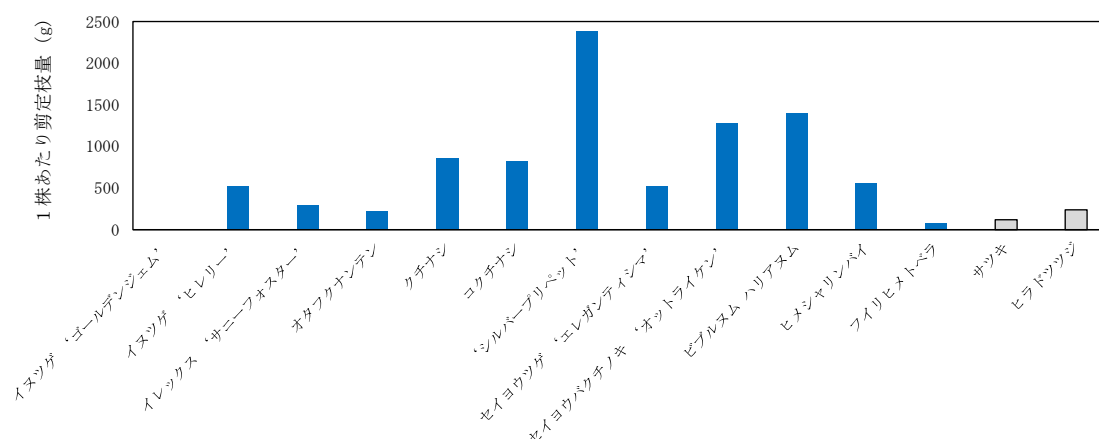


図6 刈り込みで発生した剪定枝量 (生重)

※イヌツゲ 'ゴールデンジェム' は刈り込み無し

3. 強く刈り込んだ後の回復程度

強く刈り込んで葉が少なくなった状態から、緑が回復する速度を評価した結果を表2に示す。回復が特に早かった樹種はクチナシ、オタフクナンテン、コクチナシ、セイヨウバクチノキ 'オットライケン' であり、その他のほとんどの樹種も翌年初夏までには回復したため、回復力は高いと考えられた。しかし、セイヨウツゲ 'エレガントイシマ' とフイリヒメトベラは回復が遅く、特にフイリヒメトベラは刈り込み後の冬の寒さに弱いと考えられたため、強い刈り込みには不適であると考えられる。

表2 強く刈り込んだ後の緑程度の推移

樹種	2022年				2023年			
	9/5	9/16	10/3	11/8	4/29	6/10	7/13	8/11
イヌツゲ ‘ヒレリー’	60	60	60	60	60	100	100	100
イレックス ‘サニーフォスター’	65	80	90	100	100	100	100	100
オタフクナンテン	35	60	100	100	100	100	100	100
クチナシ	75	100	100	100	100	100	100	100
コクチナシ	88	94	100	100	100	100	100	100
‘シルバープリペット’	0	5	50	70	100	100	100	100
セイヨウツゲ ‘エレガンティシマ’	35	35	40	45	50	75	75	80
セイヨウバクチノキ ‘オットライケン’	60	80	100	100	100	100	100	100
ビブルナム ハリアナム	75	94	94	100	100	100	100	100
ヒメシャリンバイ	55	70	85	100	100	100	100	100
フイリヒメトベラ	60	60	60	65	25	38	50	63
サツキ	65	65	75	90	100	100	100	100
ヒラドツツジ	40	40	60	85	100	100	100	100

※緑程度＝ Σ （指数×指数毎株数）/（4×調査株数）×100植物体を上から見た時の樹冠全体を100とした際に葉で覆われている面積の割合から、株ごとに以下の指数をあてはめ、上記の式の通りに算出した。
指数：葉で覆われている面積の割合が、0＝0～20%、1＝20～40%、2＝40～60%、3＝60～80%、4＝80～100%

IV. まとめ

1. 総合評価

成長速度や刈り込みからの回復力、観賞性等を表3にとりまとめた。樹種特性をもとに、想定される利用場面を示しており、利用場面ごとに樹種選択の参考にすることができる。生育が旺盛な樹種については強健さが求められる場所、葉の色が黄色など特色がある樹種については明るさが求められる場所など、樹種の特性に合った場所に植栽することで、ツツジ類への樹種の偏りが緩和され、生物的にも景観的にも多様性のある植栽を実現できると考えられる。

表3 各樹種の総合評価

樹種	成長速度	剪定枝量	刈込からの回復速度	花		葉		想定される利用場面
				観賞性 ^a	時期	色	発色する時期	
イヌツゲ ‘ゴールデンジェム’	極遅	極少	－	－	－	黄	1年中	刈込作業の実施が難しい場所
イヌツゲ ‘ヒレリー’	遅	少	中	－	－	緑	－	刈込頻度を少なくしたい場所
イレックス ‘サニーフォスター’	速	少	速	－	－	黄	1年中	明るい色が欲しい場所
オタフクナンテン	遅	少	速	－	－	赤	1年中 (特に冬)	刈込頻度を少なくしたい場所
クチナシ	速	やや少	速	○	5月下旬～ 6月上旬	緑	－	花の観賞価値が求められる場所
コクチナシ	やや遅	やや少	速	○	6月中旬～ 7月上旬	緑	－	花の観賞価値が求められる場所
‘シルバープリペット’	極速	極多	速	△	5月中旬～ 5月下旬	白（斑）	1年中	他の樹種では生育が難しい場所 萌芽力の強さが求められる場所
セイヨウツゲ ‘エレガンティシマ’	やや遅	少	遅	－	－	白（斑）	1年中	刈込頻度を少なくしたい場所 明るい色が欲しい場所
セイヨウバクチノキ ‘オットライケン’	速	多	速	－	－	緑	－	萌芽力の強さが求められる場所
ビブルナム ハリアナム	速	多	速	△	5月上旬～ 5月下旬	緑	－	密度の高い緑が求められる場所
ヒメシャリンバイ	やや遅	やや少	中	○	4月中旬～ 5月上旬	赤	新葉展開時	葉と花に観賞価値が求められる場所
フイリヒメトベラ	遅	少	極遅	－	－	白（斑）	1年中	刈込頻度を少なくしたい場所
サツキ	遅	少	中	○	5月中旬～ 6月下旬	緑	－	
ヒラドツツジ	遅	少	中	○	4月中旬～ 5月中旬	緑	－	

2. 各樹種の特徴

(1) イヌツゲ ‘ゴールデンジェム’



特 徴：上位葉が黄色く美しく、明るさが求められる場面への利用が想定される。ただし、日陰で栽培すると葉は緑色になる。生育は極めて緩慢で樹高・枝張ともにほとんど成長しないため、刈り込み頻度は極めて少なく済む。

注意点：イヌツゲ特有の病害である「イヌツゲ枝枯病」が発生し、一部の枝が枯れる場合がある。生育が極めて緩慢であるため、一度枯れや障害が発生すると回復せずに木全体が枯死したり、樹勢が大きく衰えたりする場合があります、高温・乾燥等環境条件が厳しい一般的な都道には基本的に適さないと考えられ、植栽場面の選択には十分な注意が必要である。

(2) イヌツゲ ‘ヒレリー’



特 徴：通常のイヌツゲの品種と比べて樹高が高くなりづらい。生育も緩慢であり、ヒラドツツジと同等程度の頻度の刈り込み頻度で済むと考えられる。葉が密に茂るため、緑量を多く感じることができる。

注意点：‘ゴールデンジェム’と同様に「イヌツゲ枝枯病」により枝が枯れる場合があります、長期間栽培しているとほぼ発生がみられるため、樹高が高くない特性が強く求められる場所など特定の条件以外での利用は限定される。

(3) イレックス ‘サニーフォスター’



特 徴：新葉が黄色で非常に明るい印象を与えることができる。日陰では葉が緑色になる。萌芽力が強いので、強く刈り込んでもすぐに回復する。

注意点：主枝の生育が非常に旺盛であり、剪定しないとすぐに主幹長が1 mを超える。葉にはやや硬いとげがあるため、けがをする恐れはほとんどないが、管理等で触れる際には少し注意が必要である。

(4) オタフクナンテン



特 徴：紅葉が美しく、秋から冬以外の時期でも葉が赤みを帯びる期間が長く、観賞性が高い。生育がヒラドツツジ等と同程度かそれ以上に緩慢であり、刈り込みの頻度が少なく済む。矮性の品種であるため、刈り込みをしなくても樹高は高くなりづらい。耐塩性、耐乾燥性にも優れる。刈り込み後の萌芽力もあり、総合的に欠点の少ない樹種である。

注意点：枝が横に広がりづらいので、密度を高めるためには密植する必要がある。ウイルスを原因とするモザイク病が発生する可能性があるが、枯死につながることは少ない。

(5) クチナシ



特 徴：枝の伸長が旺盛で、萌芽力も強い。初夏に白い芳香のある花を咲かせるため、観賞価値が高い。

注意点：長期間栽培を行うと、ネコブセンチュウの感染・増殖による樹勢の衰退が起こる可能性があり、数年程度での植え替えが想定される場面など、利用を推奨できる条件は限定的である。また、オオスカシバ幼虫による葉の食害が起こりやすい。

(6) コクチナシ



特 徴：クチナシと比較して生育が緩やかかつ葉の1枚1枚も小さく、全体的に小さな樹形になる。樹高も低く維持しやすい。花はクチナシ同様に芳香がある。耐乾燥性に優れる。

注意点：クチナシと同様にネコブセンチュウにより樹勢の衰退が起こる危険性があり、クチナシよりも被害が大きくなりやすく、枯死する場合もある。そのため、クチナシ以上に利用を推奨できる条件は限定的である。

(7) ‘シルバープリペット’



特 徴：生育が極めて旺盛で、環境条件が優れていると1年で1 m以上も枝が伸長する。萌芽力にも優れるため、葉が無くなるほど強く刈り込んでも回復する。葉の外側に白い斑が入るため、明るく柔らかい印象を与えることができる。

注意点：生育が極めて速いため、刈り込み頻度が1年に1回では足りず2～3回は行う必要があり、剪定枝発生量も多くなるため、特に刈り込み後の回復力が強く求められる場所以外には不適な樹種である。また、ハマキムシによる葉の食害が発生する場合がある。

(8) セイヨウツゲ ‘エレガンティシマ’



特 徴：葉が小さく、縁に白い斑が入るので明るく柔らかい印象を与えることができる。生育が比較的遅いため、剪定枝発生量も比較的少ない。

注意点：萌芽力はやや弱く、葉が無くなる程度まで強く刈り込むと回復できない場合がある。上方向に徒長枝のような長く伸びる枝が発生しやすい。

(9) セイヨウバクチノキ ‘オットライケン’



特 徴：葉は光沢がある濃い緑色で美しい。生育が旺盛で、刈り込みからの回復力も強い。

注意点：シンクイムシ、ハマキムシ類による食害が発生する場合があるが、樹勢の衰退や観賞性に大きな影響が出ることはない。枝が全体的によく伸びるため、剪定枝発生量が多くなる。

(10) ビブルヌム ハリアヌム



特 徴：日本に自生するガマズミの仲間の常緑樹で、日本の種と異なり葉が細かく柔らかい印象を与える。葉が密に茂るため緑量を確保しやすい。耐乾燥性に優れる。

注意点：まれにサンゴジュハムシによる葉の食害が発生する場合がある。全体的に枝数が多く、成長も良いため、剪定枝の発生量が多くなる。

(11) ヒメシャリンバイ



特 徴：通常のシャリンバイよりも全体的に小型で、大きくなりにくい。新葉が赤く観賞価値が高い。春には美しい薄いピンク色の花を咲かせ、観賞性の面で非常に優れている。耐塩性、耐乾燥性に優れる。総合的に見て欠点の少ない樹種である。

注意点：ごま色斑点病が発生し、葉に病斑が現れる場合があるが、樹勢や観賞性に与える影響は小さい。移植にやや弱いため、細根が十分に張った苗や、ポット苗を使用する必要がある。

(12) フイリヒメトベラ



特 徴：日本に自生するトベラの近縁種で、トベラよりも全体的に小型である。葉に斑が入るため明るい印象を与える。樹勢は弱く、刈り込みの頻度はヒラドツツジ等と同等程度以下で済むと考えられる。耐塩性、耐乾燥性に優れる。

注意点：冬の寒さに弱く、夏期に刈り込みを行うとその後に展開した葉は寒さで枯れ、枝まで枯れる危険性が高いため、多摩地域など寒さが厳しい地域への植栽には適さないが、都心部への植栽には利用可能であると考えられる。トベラキジラミによる吸汁害も見られ、葉の奇形や生育不良が発生することがあるが、大きく樹勢が衰退することは少ない。

V. 最後に

今回の試験結果は、ツツジ類に樹種の偏りがみられる都道の低木に対して、新しい樹種の使用を提案するものである。今回提案した樹種を含め、これまであまり使用されてこなかった樹種を使用することで、地域による独自性を生み出したり、街に彩りを添えるなど、これまでになかった価値を生み出すことができる可能性があると考ええる。

現時点において特に重要視されていると筆者が想定する、省管理性と強健性の2点を重視して評価すると、本試験に供試した樹種で最も評価が高いのはオタフクナンテンである。また、オタフクナンテンよりも省管理性ではやや劣るがヒメシャリンバイも欠点が少ない樹種である。その他の樹種はツツジ類と比較して、枝が伸び過ぎる、病害虫に弱い、樹勢が弱すぎるなどの欠点が目立つため、その樹種が持つ利点が欠点より上回る場面での利用が推奨され、植栽環境と樹種特性が適合しているか事前に十分な検討を行う必要がある。

現状では、ツツジ類が植栽の第一候補になると想定されるものの、令和3年4月より、歩道や交差点付近の低木を車道舗装面から高さ60cm程度に維持管理することとなったことが一例であるが、状況の変化によって、低木に求められる特性も変わると考えられるため、今回の試験成績が今後の樹種選択や管理方法の改善の一助になれば幸いである。

VI. 引用文献

- 1) 東京都政策企画局. 東京都の緑の取組 ver. 2 2024-01.
https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/green_action_ver2
- 2) 国土技術政策総合研究所. わが国の街路樹 VIII. 2018-11.
<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoku/tnn/tnn1050pdf/ks1050.pdf>
- 3) 気象庁. 世界の年平均気温. 2024-02
https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html

令和4年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長

田中 利彦

I. はじめに

植物多様性の損失が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年4月に開設された。令和4年度には、開設10周年を迎えることができた。開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度より指定管理者として職員10名の体制で執行している。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には情報館(650㎡)、学習園(16,000㎡)、栽培温室(200㎡)の施設がある。

情報館は、東京の植生図や丘陵地の公園を紹介するパネル展示や図書文献が閲覧できるライブラリーコーナー等、植物多様性に関する展示・解説を行っている。

学習園は、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖については、平成19年度から25年度まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種(本土部43種及び島嶼部75種)選定し、平成25年度に策定した保全策に基づき、それら植物種の現地調査等の生息域内保全や種子採取・無菌培養による増殖等の生息域外保全を平成26年度から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信については、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動団体等が行う保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。また植物多様性センターでは、保全団体や愛好家等と学識経験者、公園管理者、行政

機関が参加する情報連絡会を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

また令和4年度は開設10周年を迎え、記念誌の作成や記念講座の開催といった取り組みを行った。

本報告は、植物多様性センターが令和4年度に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考として、また今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができればと考えている。

Ⅱ. 絶滅危惧植物の保護増殖に関する取り組み

1 優先保全対象種等の植物調査

(1) 本土部における優先保全対象種の調査

本土部において令和4年度に実施した優先保全対象種の調査を、表1に示した。令和4年度は3種7地点の調査を実施した。

表1 本土部における優先保全対象種の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	9月15日	ヒナノキンチャク	個体の確認はできなかった。消失した可能性がある。
2	9月15日	ヒナノキンチャク	新たに得られた情報に基づいて、現地調査を実施。企業所有地（採石場跡地）の50m×200mの範囲に、多数の生育を確認。
3	10月6日	ステゴビル	300株以上を確認。都立公園敷地内であり、公園管理者によって環境管理が行われていて、個体数が増加している。
4	10月6日	ステゴビル	個体の確認はできなかった。植生遷移の進行により、消失した可能性がある。近傍で50～60株の生育を確認し、開花・結実していた。
5	10月6日	ステゴビル	近接する2か所で生育しており、いずれも数百個体を確認。開花・結実も確認した。
6	10月28日	ウラギク	2012年に続き、今回も確認することはできなかった。
7	12月25日	ウラギク	冬季のため地上部が枯損しており、個体を確認することはできなかった。公園管理者からの情報によれば、今年度10株程度、近隣で20株程度を確認しているとのこと。

(2) 島嶼部における優先保全対象種の調査

島嶼部において令和4年度に実施した優先保全対象種の調査を、表2に示した。令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大予防のため島嶼部での調査を実施しなかったため、3年ぶりの調査の実施となり、神津島と利島において17種20地点の調査を実施した。

表2 島嶼部における優先保全対象種の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	10月17日	オトギリソウ	36個体を確認。草刈りにより生育環境が維持されている。
2	10月17日	ハチジョウオトギリ	多数の生育を確認。風衝地のため、遷移が進んでいない。
3	10月17日	ヒナノシャクジョウ	個体の確認はできなかった。
4	10月17日	ホンゴウソウ	2か所で調査を実施。1か所では個体の確認はできなかった。もう1か所では、近隣で4個体確認することができた。
5	10月17日	ウスギムヨウラン	個体の確認はできなかった。
6	10月17日	ナゴラン	7個体確認。生育環境は安定しているものと考えられる。
7	10月17日	ギンラン	個体の確認はできなかった。消失か休眠の可能性はある。
8	10月18日	マツバラン	50個体以上を確認。環境が安定している。胞子実生と思われる個体が複数あり、株数は今後も増加する可能性がある。
9	10月18日	カワラケツメイ	2か所で調査を実施。1か所では個体の確認はできなかった。もう1か所では、近隣で1個体確認することができた。
10	10月18日	ヤマジソ	多数の生育を確認。風衝地のため、遷移が進んでいない。
11	10月18日	ツリガネニンジン (ハマシャジン)	3か所で調査を実施。2か所で個体を確認することができた。
12	10月18日	アマドコロ	2か所で調査を実施。2か所とも多数の個体を確認することができた。
13	10月18日	コウツエビネ	2個体確認。盗掘される危険性が高い。
14	10月18日	ギンラン	個体の確認はできなかった。環境の改変のため、消失したものと考えられる。
15	10月19日	オトギリソウ	近隣で2個体確認。植生遷移の進行により、環境が変化している。
16	10月19日	カワラケツメイ	個体の確認はできなかった。管理により刈り取られた可能性が高い。
17	10月19日	キキョウ	2個体確認。生育環境は維持されているが、盗掘される危険性がある。
18	10月19日	ユキヨモギ	個体の確認はできなかった。白みの強いヨモギを、誤認していた可能性がある。
19	10月19日	マヤラン	個体の確認はできなかった。消失の可能性が高い。
20	11月7日	テイショウソウ	10個体確認。ヒロハテイショウソウと考えられる。

(3) 優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査

本土部において令和4年度に実施した、優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査を、表3に示した。

表3 優先保全対象種以外の絶滅危惧植物の調査

No.	調査日	種名	調査概要
1	5月13日	エビラシダ	1箇所15個体確認。遊歩道沿いの石垣に自生。東京都による改修工事のため、6個体を域内保全として近隣の適地に移植。他は植物多様性センターで域外保全とした。
2	10月26日	ヒメシオン	お客様から寄せられた情報を元に、現地調査を実施。1箇所50個体程度を確認。



写真1 エビラシダの調査



写真2 エビラシダ

2 東京都内における生息域外保全

これまでに植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、表4～表6に示した。

表4 東京都内における生息域外保全の実績(1/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	島嶼部	平成26年9月26日 種子採取 平成30年8月29日 種子採取 平成30年8月30日 種子採取	平成26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	本土部	平成27年10月1日 種子採取	新宿御苑へ送付（しいな）
3	オオシマシュスラン	島嶼部	平成27年1月20日 種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	本土部	平成27年9月30日 種子採取	新宿御苑へ送付

表5 東京都内における生息域外保全の実績(2/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
5	キンラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取 平成30年9月11日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	島嶼部	平成26年9月27日 種子採取	無菌培養、平成26年より継続・無菌培養（2系統）
8	コウズエビネ	島嶼部	平成27年10月5日 種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養（2系統）
9	シムライノデ	本土部	平成30年2月15日 個体受取	栽培、危険分散のため国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
10	シラン	本土部	平成27年9月15日 種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養（対象外だがキョンの食害で消失の恐れがあるため採取）
12	ナギラン	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	平成28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	島嶼部	平成27年7月7日 個体受取	栽培
14	ナツエビネ	島嶼部	平成29年11月8日 種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付（自生地消失のため代替地で採取）
16	ハマカキラン	本土部	平成28年8月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
17	ヒイラギソウ	本土部	平成27年9月30日 個体採取	挿し木にて栽培、平成26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	本土部	平成29年11月16日 種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	本土部	平成27年4月30日 種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	島嶼部	平成28年11月1日 種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	島嶼部	平成26年9月26日 個体採取	平成26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	島嶼部	平成27年11月17日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培

表6 東京都内における生息域外保全の実績(3/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
23	ミズネコノオ	本土部	平成27年10月14日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	本土部	平成29年7月13日 種子採取 平成29年7月28日 個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	本土部	平成28年1月22日 種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、他の 自生地から採種 新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	島嶼部	平成30年10月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソブ	本土部	平成30年10月3日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	本土部	平成29年11月28日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	島嶼部	平成30年10月7日 種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	本土部	平成30年10月29日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付
31	カイコバイモ	本土部	令和1年5月10日 種子採取	栽培、新宿御苑、国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	本土部	令和1年9月3日 種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	本土部	令和1年12月17日 種子採取	無菌培養
34	フジバカマ	本土部	令和2年12月25日 種子採取	栽培
35	エビラシダ	本土部	令和4年5月13日 個体採取	栽培
36	ヒナノキンチャク	本土部	令和4年9月15日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、個体は栽培
37	ヒメシオン	本土部	令和4年10月13日 個体受取	栽培
38	ステゴビル	本土部	令和4年10月22日 種子、個体採取	種子保存、個体は栽培
39	フウラン	島嶼部	令和4年11月13日 個体受取	栽培
40	セッコク	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培
41	ナゴラン	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培

3. 建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援

令和4年度に実施した、東京都建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、表7に示した。

表7 東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績

事務所・担当部署	状況	植物名・数量等	日付	支援内容
環境局奥多摩ビジターセンター	遊歩道脇石垣改修に伴う希少植物の保全（移植）	エビラシダ 15株	5月13日	6株を近隣の適地に移植し、9株を植物多様性センターにて生息域外保全
建設局西多摩建設事務所 工事第一課	道路拡張工事に伴う希少植物の保全（移植）	カリガネソウ 2株	1月18日	移植個体管理に関する技術助言の実施
建設局北多摩南部建設事務所 工事第一課環境対策担当	関戸橋架替事業に伴う希少植物の保全	カワラノギク 種子約12,000粒	2月16日	種子の保存及び前年度受入分の一部返却

Ⅲ. 絶滅危惧植物の情報収集・発信に関する取り組み

1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは、情報館内ライブラリーコーナーにおいて、植物に関する書籍や保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。

蔵書数を表8に示した。令和4年度は新たに30点の収集を行い、累積収集数は1,487点となった。

表8 植物多様性センター蔵書数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	計
冊数	187	288	215	257	63	112	87	104	130	30	14	1,487

2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止のため書面開催としたので、3年ぶりの集合形式による開催となった。情報連絡会の参加者数を、表9に示した。

表9 情報連絡会の参加者数

区分	開催日	参加者数		
		保全団体等	オブザーバー	事務局等
本土部	2月19日	25	26	15
島嶼部	2月5日	12	2	15



写真3 情報連絡会の開催（本土部）



写真4 情報連絡会の開催（島嶼部）

3 ホームページの「お知らせ」

植物多様性センターでは毎週1回、ホームページの「お知らせ」を更新し、見ごろの植物を紹介している。令和4年度の「お知らせ」のタイトルを、表10に示した。

表10 ホームページの「お知らせ」タイトル

No.	更新日	タイトル	No.	更新日	タイトル
1	4月1日	カナビキソウの発芽	28	10月7日	続エノキグサ
2	4月8日	ヤハズエンドウの花外蜜線	29	10月14日	イヌマキの実
3	4月15日	アワブキの展葉	30	10月21日	イヌタデのつぼみ？
4	4月22日	インガ（陰芽）の目覚め	31	10月28日	2種のキンミズヒキの果実
5	4月29日	ミツバウツギの小宇宙	32	11月4日	めでたい？キチジョウソウ
6	5月6日	ナワシログミの実	33	11月11日	旅するノブキ
7	5月13日	メグスリノキも性転換！	34	11月18日	オトコヨウソメの葉、七？変化
8	5月20日	クリメコブズイフシ	35	11月25日	バアソブとジイソブ
9	5月27日	ネジキの花	36	12月2日	ヤマノイモとオニドコロ
10	6月3日	イヨカズラの花	37	12月9日	ノブドウの変身
11	6月10日	タチクラマゴケの胞子嚢	38	12月16日	アカシデの不思議な冬芽
12	6月17日	ヤセウツボ	39	12月23日	ヤブランとヒメヤブラン
13	6月24日	カナビキソウの初開花	40	12月30日	ツノハシバミの雌花はどれ？
14	7月1日	ムクロジの雌花を探してみよう	41	1月6日	ナガバジャノヒゲの長老
15	7月8日	謎の白いふわふわ	42	1月13日	ビワの初開花
16	7月15日	アサザの都市伝説	43	1月20日	イヌブナ、ブナ、それとも？
17	7月22日	オオカモメヅルの小さな花	44	1月27日	ナワシログミの共生菌
18	7月29日	オニドコロの雄株と雌株	45	2月3日	雑木林とフユシャク
19	8月5日	クサネムの莢の船	46	2月10日	ススキの血は赤色か
20	8月12日	マメ科の花のすゝめ	47	2月17日	ロープ柵の小さなコケたち
21	8月19日	バツタと植物	48	2月24日	ガガイモの開かずの果実
22	8月26日	エノキグサの小さな花	49	3月3日	ヤナギの季節
23	9月2日	ビナンカズラの性別	50	3月10日	ホトケノザの開放花と閉鎖花
24	9月9日	ガガイモの花	51	3月17日	早春の訪問者たち
25	9月16日	キキョウ科の異端児	52	3月24日	なぞタンポポト同定への手がかり
26	9月23日	オケラとオケラ	53	3月31日	落ちない葉の落葉
27	9月30日	ツユクサの2種類のおしべ			

4 10周年記念誌の作成

植物多様性センター10周年記念事業として、令和3年4月より準備を進めてきた、『開設10周年記念誌 神代植物公園 植物多様性センター ガイドブック』が完成した。A4判110ページで、学習園で見られる植物の紹介、植物目録、無菌培養の取り組み、これまでのエントランス展示・講座・学習プログラムの活動記録を掲載している。

記念誌は植物多様性センター情報館及び神代植物公園本園植物会館で閲覧できるほか、植物多様性センターホームページでの公開を行っている。



写真5 10周年記念誌（表紙）



写真6 10周年記念誌（学習園の植物紹介）

IV. 植物多様性の教育・普及に関する取り組み

1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和4年度のエントランス展示の実施概要を、表11に示した。

表11 エントランス展示の実施概要

期間	タイトル
4月1日～5月30日	植物の繊維
5月31日～7月15日	日本の帰化植物
7月16日～9月30日	観察レポートをつくろう！
10月1日～11月30日	シダ植物入門
12月1日～3月31日	冬芽を探そう！

また令和4年度は常設展示として、情報館内に新たに「動物コーナー」及び「無菌培養コーナー」を設けた。



写真7 観察レポートをつくろう！



写真8 無菌培養コーナー

2 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは毎週土曜日・日曜日に、来園者を対象としたガイドツアーを実施してきた。新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、令和2年3月以降は中止と再開を繰り返していたが、令和4年6月より原則毎月第2・第4日曜日の開催として再開した。令和4年度の実施回数と参加人数を、表12に示した。

表12 ガイドツアーの実施状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	0	0	2	2	0	2	2	2	1	0	2	2	15
参加人数	0	0	20	20	0	12	20	14	6	0	20	19	131

3 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和4年度の実施状況を、表13に示した。

表13 団体ガイドの実施状況

No.	月	団体名	参加人数
1	5	新日本婦人の会三鷹支部	7
2	6	草花で街を明るくする会	21
3	9	カワセミの家ボランティア	6
4	9	一般社団法人林業薬剤協会	10
5	10	法政大学OB会	9
6	3	世田谷区しらさぎ歩行会	15
計			68

4 学習園植栽植物

令和4年度に来園者の観察・学習を目的として、温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、表14～表17に示した。

表14 学習園植栽植物一覧 (1/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
1	4	タチタネツケバナ	奥多摩	石灰岩地
2	4	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園
3	4	イソヤマテンツキ	管理	バックヤード
4	4	スギ	管理	旧球根
5	4	オトコエシ	武蔵野	高茎草地
6	4	ムラサキニガナ	管理	奥多摩
7	4	オオムラサキシキブ	管理	伊豆極相林
8	4	シマホタルブクロ	管理	伊豆極相林
9	4	イズノシマダイモンジソウ	管理	伊豆極相林
10	4	タチバナ	管理	伊豆極相林
11	4	ヤナギイチゴ	管理	伊豆極相林
12	4	ハマナデシコ	管理	伊豆極相林
13	4	ハマコンギク	管理	伊豆極相林
14	4	セキヤノアキチョウジ	奥多摩	落葉広葉樹林
15	4	タガネソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
16	4	ヒカゲスゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
17	4	レンリソウ	奥多摩	石灰岩地
18	4	ゲンゲ	管理	バックヤード
19	4	バイカツツジ	奥多摩	落葉広葉樹林
20	4	トウゴクミツバツツジ	奥多摩	石灰岩地
21	5	メハジキ	奥多摩	石灰岩地
22	5	ミヤコグサ	奥多摩	湿生林
23	5	イシミカワ	奥多摩	湿生林
24	5	ムラサキニガナ	管理	奥多摩
25	5	オオヒナノウスツボ	奥多摩	石灰岩地
26	5	ハグロソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
27	5	フジカンゾウ	管理	奥多摩
28	5	タガネソウ	奥多摩	池回り
29	5	オウギカズラ	管理	奥多摩
30	5	バッコヤナギ	奥多摩	石灰岩地
31	5	イヌコリヤナギ	奥多摩	石灰岩地
32	5	キツネヤナギ	奥多摩	石灰岩地
33	5	ウラジロ	奥多摩	石灰岩地
34	5	ミシマサイコ	奥多摩	石灰岩地
35	5	アカソ	奥多摩	石灰岩地

表15 学習園植栽植物一覧 (2/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
36	5	ヤマオダマキ	奥多摩	石灰岩地
37	5	ワレモコウ	奥多摩	石灰岩地
38	5	オノエヤナギ	奥多摩	石灰岩地
39	5	オオバアサガラ	奥多摩	湿生林
40	5	ウマノアシガタ	奥多摩	石灰岩地
41	5	ヤクシソウ	奥多摩	石灰岩地
42	5	ヤマユリ	武蔵野	雑木林
43	5	ヒヨドリバナ	武蔵野	雑木林
44	5	キツネノカミソリ	武蔵野	雑木林
45	5	ヒトリシズカ	武蔵野	雑木林
46	5	ニリンソウ	武蔵野	雑木林
47	5	ケカモノハシ	伊豆諸島	海岸砂地
48	5	ビロードテンツキ	伊豆諸島	海岸砂地
49	5	ネコノシタ	伊豆諸島	海岸砂地
50	5	ハマアザミ	伊豆諸島	海岸砂地
51	5	ハチジョウアザミ	管理	伊豆極相林
52	6	ツルニガクサ	管理	奥多摩
53	6	ヤブソテツ	管理	奥多摩
54	6	イネ緑米	管理	バックヤード
55	6	アイアシ	管理	バックヤード
56	7	コオニユリ	奥多摩	落葉広葉樹林
57	7	ヒメウツギ	奥多摩	落葉広葉樹林
58	7	ヒメキンミズヒキ	奥多摩	落葉広葉樹林
59	7	タツノヒゲ	奥多摩	落葉広葉樹林
60	7	ヤマスズメノヒエ	奥多摩	落葉広葉樹林
61	8	イケノヤナギ	武蔵野	池回り
62	8	ツルニガクサ	武蔵野	池回り
63	8	カラムシ	武蔵野	池回り
64	8	サワギキョウ	武蔵野	池回り
65	8	サワギキョウ	管理	バックヤード
66	8	オグルマ	武蔵野	池回り
67	8	ギョウギシバ	武蔵野	礫地
68	8	ムラサキエノコロ	武蔵野	礫地
69	8	ムラサキニガナ	武蔵野	礫地
70	8	レモンエゴマ	武蔵野	礫地
71	8	ナミキソウ	武蔵野	礫地
72	8	ノコンギク	武蔵野	礫地
73	8	オヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
74	8	メヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー

表16 学習園植栽植物一覧 (3/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
75	8	コメヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
76	8	アキメヒシバ	奥多摩	イネ科植物コーナー
77	8	ナルコビエ	奥多摩	イネ科植物コーナー
78	8	スズメノヒエ	奥多摩	イネ科植物コーナー
79	8	エオノコログサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
80	8	アキノエノコログサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
81	8	キンエノコロ	奥多摩	イネ科植物コーナー
82	8	ニワホコリ	奥多摩	イネ科植物コーナー
83	8	コスズメガヤ	奥多摩	イネ科植物コーナー
84	8	ケチジミザサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
85	8	ササガヤ	奥多摩	イネ科植物コーナー
86	8	アシボソ	奥多摩	イネ科植物コーナー
87	8	コブナグサ	奥多摩	イネ科植物コーナー
88	9	ガンクビソウ	奥多摩	落葉広葉樹林
89	9	コシオガマ	奥多摩	落葉広葉樹林
90	9	ヒメクグ	武蔵野	池回り
91	9	ハチオウジアザミ	武蔵野	池回り
92	9	アカソ	武蔵野	池回り
93	10	アリアケスミレ	武蔵野	低茎草地
94	10	カワラハハコ	武蔵野	礫地
95	10	アカシデ	管理	バックヤード
96	10	オノエヤナギ	武蔵野	池回り
97	10	キツネヤナギ	武蔵野	池回り
98	10	イヌコリヤナギ	武蔵野	池回り
99	10	カラスザンショウ	武蔵野	池回り
100	10	コゴメヤナギ	武蔵野	池回り
101	10	ヨシ	武蔵野	池回り
102	10	バッコヤナギ	武蔵野	池回り
103	10	コウヤワラビ	武蔵野	池回り
104	10	ネズミガヤ	奥多摩	落葉広葉樹林
105	10	エイザンスミレ	奥多摩	落葉広葉樹林
106	10	ヤブデマリ	武蔵野	池回り
107	10	ウリノキ	武蔵野	池回り
108	11	トウオオバコ	管理	バックヤード
109	12	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
110	2	キブシ	武蔵野	低木
111	2	センリョウ	武蔵野	雑木林
112	2	カンガレイ	武蔵野	低茎草地
113	2	ホソイ	武蔵野	低茎草地

表17 学習園植栽植物一覧 (4/4)

No.	月	種名	植栽地	
			ゾーン	エリア
114	3	センリョウ	管理	伊豆極相林
115	3	カラタチバナ	管理	伊豆極相林
116	3	アワブキ	管理	奥多摩
117	3	ムシクサ	管理	バックヤード
118	3	アカバナ	管理	バックヤード
119	3	コムラサキ	武蔵野	池回り
120	3	ナシ	武蔵野	果樹林
121	3	コムラサキ	武蔵野	低茎草地
122	3	ミゾコウジュ	武蔵野	低茎草地
123	3	ハッカ	武蔵野	低茎草地
124	3	ゴキヅル	武蔵野	低茎草地
125	3	カシワ	奥多摩	落葉広葉樹林
126	3	オシダ	奥多摩	四阿周辺
127	3	ワレモコウ	奥多摩	石灰岩地
128	3	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園
129	3	ヒナワチガイソウ	武蔵野	雑木林
130	3	コシロネ	武蔵野	低茎草地
131	3	オヘビイチゴ	武蔵野	低茎草地
132	3	キセルアザミ	武蔵野	低茎草地
133	3	アカバナ	武蔵野	低茎草地



写真9 オウギカズラ



写真10 ケカモノハシ

5 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和4年度の実施状況を、表18に示した。

令和4年度の講座は、“植物多様性センター開設10周年記念講座”と銘打って行った。特に4月29日に開催した第1回講座は、植物多様性センターアドバイザーの筑波実験植物園遊川知久氏を講師としてお招きし、参加者定員を増やして神代植物公園本園大集会室で開催した。また7月30日に開催した第3回講座は、植物多様性センター初の夜間開園を実施し、調布市の協力により、オンライン配信を行った。

表18 植物多様性に関する講座の実施状況

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	4月29日	13:30～15:30	シラン、ワカラン、ランの七不思議	遊川 知久氏	63
2	7月23日	13:30～15:30	第14回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム (オンライン)	平野 智也氏 伊藤 彩乃氏 清水 尚之氏	70
3	7月30日	18:00～20:00	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	石川 和宏氏 センター職員	31
4	8月28日	13:30～15:30	スライドショーで楽しむガイドツアース スペシャル2022夏	センター職員	28
5	9月25日	13:30～15:00	初めてさんのためのシダ入門講座	センター職員	18
6	11月12日	13:30～15:30	子ども樹木博士になろう！	杉浦 克明氏	8
7	12月18日	13:30～15:30	日本の絶滅危惧植物の現状と今後の保全 に向けて	藤田 卓氏	19
8	1月29日	13:30～15:30	狭山丘陵都立公園における生物保全の現 状と今後	舟木 匡志氏	23
9	3月4日	13:30～15:30	わぴちゃんのタンポポワンダーランド	岩槻 秀明氏	32
合計					292



写真11 シラン、ワカラン、ランの七不思議



写真12 ようこそ！夜の植物多様性センターへ

6 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネルの展示を実施している。令和4年度の実施状況を、表19に示した。

表19 外部展示の実施状況

No.	展示期間	場所	No.	展示期間	場所
1	4月15日～4月24日	豊橋総合動植物公園	4	4月1日～3月31日	東村山中央公園
2	4月1日～3月31日	東南植物楽園	5	3月1日～3月31日	小峰公園
3	4月1日～3月31日	武蔵丘陵森林公園			

7 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて外部での講座を実施している。令和4年度の実施状況を、表20に示した。

表20 外部での講座の実施状況

No.	実施日	参加人数	題	場所
1	3月25日	8	春の植物観察会	小山内裏公園

8 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、小学校や各種団体向けに、植物をテーマとした学習プログラムを実施している。令和4年度の実施状況を、表21に示した。

表21 学習プログラム実施状況

No.	実施月	団体名	人数
1	4	自由学園リビングアカデミー	6
2	4	日本大学森林科学部	15
3	4	調布市立北ノ台小学校	124
4	6	調布市立北ノ台小学校	129
5	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	31
6	7	府中市教育研究中学校理科部	7
7	8	シモキタ園藝部	18
8	8	明星大学インターンシップ	1
9	11	東京農業大学インターンシップ	2
10	11	調布市立北ノ台小学校	130
11	1	調布市立北ノ台小学校	64
12	2	調布市立北ノ台小学校	63
合計			590



写真13 日本大学森林科学部



写真14 調布市立北ノ台小学校

V. その他

1 来館者数

令和4年度及び過去2年間の植物多様性センター内情報館の来館者数を、表22及び図1に示した。令和4年度の来館者数は平成24年4月の開設以来最多の35,965人に達した。

なお平成31年度から令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、数日から数か月の臨時休園措置を繰り返したが、令和4年度は臨時休園措置を行わなかった。

表22 情報館来館者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2	0	0	2,860	2,223	2,466	2,710	3,131	3,335	1,832	0	0	0	18,557
R3	0	0	2,298	2,132	1,720	2,796	2,557	3,457	2,418	1,075	0	1,227	19,680
R4	3,497	3,856	2,960	2,144	2,338	2,565	2,680	3,114	2,607	3,132	3,616	3,476	35,985



図1 情報館来館者数の推移

令和5年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

統括責任者 遠藤 岳生

I. はじめに

令和5年度は、コロナ禍での制限などが解除され徐々に人流が戻りつつある中で、「わくわくおさんぽアートフェス 2023」を近隣の会社や団体と協働し開催した事で、公園利用や競技場利用が少しずつ戻ってきた年となり、レガシー施設のアーチェリー場も連盟や協会その他各種団体との連携により体験イベントなど開催し公園の新たな魅力の発信ができた。

植物館では、感染症などによる臨時休館時より継続して、DXを活用したイベントや動画配信、さらにSNSを充実させつつ、閑散期に新たにポップアップ展など開催し、コロナ禍で落ち込んでいた入館者数は目標を大きく上回り前年対比 113%を超える来館者と若年層への来館誘導にも繋がった。また、他施設のイベント等に参加し、アウトリーチ活動を行い、新たな利用者層を得たことや、大学や中学校と連携し、学芸員実習やインターンシップ、中学生の職場体験、小学校への出張授業などコロナ禍で困難となっていた学生に場を提供し、感謝の言葉を頂いた。



写真1 わくわくおさんぽアートフェス

II. 夢の島公園

1. 公園運営

公園の魅力向上に繋がる事業として、約1ヶ月間の地域回遊型アートイベントを開催した。多種多様な施設（新江東清掃工場、夢の島マリーナ、木材・合板博物館・新木場郵便局）、近隣企業（(株)榎戸木材、(株)明治、soko station146 他）、団体（木材商工協同組合他）、学校（江東区立亀高小学校）などとの連携により、夢の島公園内と新木場エリア約24か所に新進アーティストによる作品を展示した。公園では創意工夫による良好な景観の創出を行い、新木場・夢の島両地域コミュニティとの連携では幅広い意見を反映し地域価値向上・活



写真2 公園内作品展示

性化を目指した。また、DXを活用するため、QRコードを読み取るとGoogleマップから作品情報を閲覧できるよう整備し、利便性も向上した。広報・PRとしては、国内最大のアートメディア Tokyo Art Beatをはじめとした情報掲載先が増加した。秋には都民協同企画として、「わくわくワークショップ」を実施。新木場の木材会社や(株)明治、アーティストたちによる12のワークショップを実施。また、若者を中心にブームになっている「謎解きイベント」を開催し、地域価値向上・地域活性を目標に、新木場の街中のあちこちにクイズを設置。クイズの回答をLINEに入力するとストーリーが進行していくシステムを構築した。ストーリーは地域のゆるキャラを総動員しゴミ問題に立ち向かうというもので、SDGsの複数の項目に跨る啓発になった。ストーリーの中でヒントを出すのは植物館や、新木場の地元企業7社、清掃工場・郵便局で働く職員の方々にお願いし、内容もスタッフが作り上げたことで、温かみのある企画となった。



写真3 わくわくワークショップのひとコマ

次に、【植物館のある都立公園が行う「園芸 SDGs 活動」】として園芸リサイクルイベントを昨年に続き開催。「植物交換会」は植物同士の物々交換イベントを継続したことでファンも増加し、新規園芸ファンの獲得に繋がった。

新たに同時開催した「プラスチック中古鉢プレゼント」では、他施設で不要となった園芸資材を回収し、無料で配布した。

当日、リサイクル率は81%、プラスチック廃棄減60.8kgを達成し、園芸ゴミの廃棄ロスと長寿命化に繋がる取組として非常に好評であった。

大切に育てた植物も、園芸資材も処分にお困りの方が多く、この取り組みの需要が高い。またSDGsの取り組みとして注目度の高さから学校、近隣施設・企業からも問い合わせも増えている。今後も定期開催を行いながら継続的なモデル化を目指す。



写真4 植物交換会



写真5 プラスチック中古鉢プレゼント

維持管理では、植物館前トイレ横、及び競技場トイレ横において、短時間強雨時や降雨が何日も続いた際には、園路幅いっぱい冠水するため、臨時に排水ポンプを設置して排水させ、迂回の案内を掲出し、来園者にご不便をおかけしていた個所を安心して利用できるように改善工事を実施した。



写真6 これまでの排水ポンプ対応時



写真7 排水設備改善工事

なお、利用者への感染症対策は5類感染症移行により、手洗いなどの基本的感染防止対策は有効としつつ自主的判断を基本とした。スタッフに関してはマスクを携行し必要に応じて着脱する事とした。

2. 公園維持管理作業

樹木診断結果をもとに競技場エリアや明治通り沿いの倒木のリスクのある大径木などの剪定を実施した。高所作業車の使用が困難な樹林地内は、高所ロープを用いて樹木医の資格を持つ技術者が作業を行い、適正な管理を遂行した。

施設管理では、U字溝や集水桝の排水改善をはかり、快適な施設利用に繋げている。

職員教育では、近年の事故の傾向や事例、また、様々な機器の使い比べを委託業者とともに実践。また、各種講習会に積極的に参加させ、より安全意識の向上の他、新機種を導入による事故防止に取り組んだ。

また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施。自衛消防隊を設置し、各担当が避難誘導。アーチェリー場を最終避難所として消火訓練を実施。また、園内の防災施設点検やトイレ設置訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを行った。



写真8 排水桝清掃



写真 9 防災トイレ設置訓練



写真 10 避難訓練、消火訓練

3. 公園利用促進事業

アーチェリー場との協働イベントとしてミニアーチェリー体験会やブラインドサッカー体験会を江東区陸上競技場や障害者スポーツ協会と連携し参加した児童のみならず、保護者にも楽しんで頂けた。レガシー施設を活用し公園の魅力を発信したことで、広場を楽しんでいただけることにつながった。



写真 12 ツリークライミング体験会



写真 11 ミニアーチェリー体験

また、以前、屋内（植物館内ドーム内）で実施していたツリークライミング体験会を屋外へ飛び出し、アーチェリー場とグリーンパークの間で開催。子供から大人まで樹木とのふれあいや通常では体験できない高さからの景色を楽しんでいた。

東京 2020 大会時に夏花（夏に強い花・夏によく咲く花）を彩った夏花花壇は、あらたに「1 Day ボランティア」の活動の一環として継続して植付を行い、来園者の憩いの場となった。

また、中学生対象の職場体験、大学生対象の学芸員実習、インターンシップの受入れを実施。体を動かして体験をし、植物について目の前で観察しながら学習するなど、学びの場の提供を行った。

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1. 植物館利用と入館者数

R5 年度事業計画では入場者数を 10 万人目標と掲げていた。各種イベント、企画展、ワークショップなど体験型のものを実施したり、恒例の季節イベントも入場制限なしで実施したり、夏の夜間開館も開催したこと、また、閑散期に新たな取り組みとしてポップアップ展を実施したり、SNS による発信や広報を継続して実施してきたことで若年層への来館誘導が徐々に浸透してきたようで、昨年比 113% 超となり 11 万 1,207 人の来館者となった。

その他、感染症対策は 5 類移行までの間は継続し、以降は東京都の指針に従って運営した。お客様と直接対峙するスタッフについてはマスク着用を原則としたが、その他のスタッフ全員マスクを携帯し、必要に応じて着用するなど、自主的な約束事を周知徹底した。

また、継続して可動式授乳室を設置した。ご利用者からは「静かに授乳できる個室があり大好きな植物を見ながらゆっくりできる場所を見つける事が出来てうれしい。これからも伺います」とのご意見を頂いた。また、おむつ交換台横に回収 BOX を設置するなど快適な利用の提供を行った。

その他、DX を活用した運営や広報を積極的に取り入れ、利用者目線で楽しめ、癒しの空間、そして環境問題の提言を含めた教育機関として、魅力ある施設運営を図った。



写真 13 可動式授乳室設置



写真 14 おむつ交換台と回収 BOX

2. 植物館維持管理

温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを樹木診断した結果、これ以上生育環境を確保する事が出来ない為、伐採した。継続してその他のヤシ類などを含め、大型樹木に対して定期的な樹木点検を実施した。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。さらに景観が一時的に大きく変わる作業（強剪定や草本整理、新規植え付

けのための伐根・除草等）は臨時休館中を利用した。なお、伐採したヤシは、前庭芝生地に展示した他、動画で作業風景を配信。来館者に管理の重要性を知って頂く機会にも繋がったと考える。

植物の状態は、イベントホールやエントランスの観葉鉢物の状態が良くなり、景観が向上した。栽培温室で開花し、エントランスで展示する植物の種類が増え、熱帯らしい花を展示できる回数が増え、来館者に喜ばれた。

ラン類の開花が増え、エントランスやイベントホールに常時数種類の鉢を展示でき、珍しいランの紹介ができた。エントランスに常設している小笠原コーナーの小笠原関連の植物の花も絶えず咲き、エントランスに滞在されてご覧になっている方が多かった。植物展示鉢は、季節の企画展に合わせて小まめに入替えを行い、「小笠原諸島展」では栽培温室の鉢を移動して解説文とともにイベントホールに展示するなど、保有する固有種を紹介し施設の魅力向上に繋がった。



写真 15 ロープワークによる
高性ヤシの手入れ



写真 16 ハーブ園にある ジャカランダ（花）

また、季節になると開花状況などの問い合わせが多いハーブ園にあるジャカランダも開花し、2 番花をつけるなどいつもより長い間、来館者に喜ばれるだけでなく、高性能カメラを持った多くの方が撮影されていた。なお、公式 HP の「現在のみごろの花」にて植物の情報を発信。

Facebook では「スタッフのおすすめ」にて植物の情報発信を実施。

紹介した植物を目的に来館されたり、電話での問い合わせをされたりなど反響があった。



写真 17 HP みごろの花

施設設備管理では、植物館は、開館して 35 年を迎え老朽化が進む一方、キャッシュレス発券機などの設備もあり、老朽化した施設設備の更新、不具合個所の修繕を実施。大規模改修は延期となったことから、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含む）や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行い、維持修繕を実施し施設の快適な環境改善を図り、施設の長寿命化、機能の維持、安全性の向上、美観の向上に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合（温水の漏水など）が発生した際は、優先順位を高めて迅速に対応したことで、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。また、熱供給停止期間が 9 月から 10 月であったため、スポットクーラー他冷風扇を設置し、室温の最適化制御を実施した。



写真 18 AS 舗装陥没箇所補修



写真 19 熱交換ガスケット交換



写真 20 共同溝内排水ポンプ交換



写真 21 カフェ・空調関連改修工事（都工事）

職員教育では、外部研修や講座への参加、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。また、本部の研修は Live 配信や eラーニングを活用。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行った。さらに、安全パトロールを定期的の実施するだけでなく、安全推進委員が他公園の安全パトロールに参加し、好事例なども共有を図った。また、公園内施設や熱

共有を受けている新江東清掃工場を相互に見学し、互いの施設の状況を学習した。

昨年より企画展・イベントを通じてご協力いただいている小笠原支庁（都レンジャー）によりスタッフを対象に「小笠原を学ぶスタッフ研修」を全8回実施した。リモートで父島、母島と当館を繋ぎ、小笠原植物の現地での生態や当館との比較、「小笠原の今」を講義いただき、各回終了前に質疑時間を設け意見交換など行った。最終回第8回目は植物館で直接講義いただき、活発な質疑応答が行われスタッフの知識習得に役立った。



写真 22 第8回 小笠原スタッフ研修



写真 23 防災訓練

3. 植物館利用促進事業

夏には「夜咲く、夜香る植物」の紹介のため閉館時間を 20:30 まで延長し、「夜間開館 2023」を実施。新たな試みとして夜間開館の PR のため、X、Instagram にバナー広告を実験的に導入した。

反響は大きく、30 日間で Instagram では 14 万人が閲覧し 4500 人が詳細をクリック。X 上では約 170 万回も表示されました。夜間開館は前年比でも想定を大きく上回る人数の来館があり、大盛況と共に SNS での PR の効果が実証されつつあった。広告配信後に各 SNS 媒体のフォロワーも増え、来館者数の増加だけでなく知名度増加にも寄与した。2 日間開催で 2,654 人に来館していただいた。



写真 24 夜間開館ドーム内再入場の様子



写真 25 ワークショップ

「ミニランタンを作ろう」作品

ハロウィン時期には、館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したものの名前がつき、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみしているというお客様の声に応えることができた。



写真 26 生中継の様子

トピックとしては、NHK 特別番組「陸・海・空 4 K中継 絶景ぜんぶ見せます！世界自然遺産 小笠原諸島編」では小笠原の父島と植物館をつなぎ生中継がイベントホール、一部ドーム内小笠原エリアで行われた。土曜日の 10:40～12:10 という時間であったが、事前に入念な打ち合わせのもと特に来館者に対しての安全対策について NHK スタッフだけでなく館スタッフにも徹底周知したことで混乱もなく終了する事が出来た。反響も大きく、番組中は混乱を

避けるためあえて夢の島の名前を出さず、エンドロールと再放送の際は冒頭でテロップを流していたが中継翌日には、「番組を見てすぐ夢の島とわかりました」と声をかけて頂いたコアな夢の島ファンだけでなく、現地へきて、「昨日の中継はここだったんですね」などと言われる初めての来館者など来館促進にもつながった。

その他、過去の大使館との連携実績から日本植物園協会より紹介され、企画展「パナマフェア 2023」をパナマ大使館、日本パナマ友好協会との連携により開催した。関連イベントとして実施したオープニングセレモニーでは、駐日パナマ共和国大使館特命全権大使より、感謝の言葉をいただいた。セレモニー前にパナマ展の展示を見た小学生の女の子がパナマに強い関心を抱き、「セレモニーの日に絵を渡したい」と話していた事を聞き、大使館関係者に事前に確認を取り、大使に直接渡せる機会を作っ



写真 27 オープニングセレモニーに参加・来場された大使館、友好協会、友好関係のある他国の大使館関係者の方々。



写真 28 書いてきた絵を持つセレモニー後の
大使と小学生



写真 29 めいぐるみのおとまり会
返却時のようす

たところ双方がとても喜び、以後も女の子と大使館との間で交流が続いているとの事。植物館のイベント参加の常連となって頻繁にご家族で来館頂いる。

さらに施設から飛び出したアウトリーチを実施。他施設と連携し「ぬいぐるみおとまり会 夢の島のなつやすみ」を企画。当社グループで指定管理をしている施設を受付場所とし、さながらぬいぐるみを夢の島熱帯植物館へ旅に出すツアーデスクのように受付を設けた。施設受付は日比谷アメニス管理している江戸川区総合レクリエーション公園とし、夏休みのこの時期、当館に旅行に行行って植物を学ぶことをテーマとして選んだ。返却時には、定刻より早く江戸川区総合レクリエーション公園に来て、帰りを待っている参加者もあり、「修学旅行に子どもを出している親の気分でした。」「今は何をしているのか考えたりもしていました」など今回の参加の感想を皆さんに話していただいた。また「Instagramで情報を知って、待ち構えて予約した」「夢の島熱帯植物館へは行ったことがないので行きたい」などの話もあった。お土産はアルバムその他、お仕事体験で制作したプリザーブドフラワーのアレンジメント、夢の島公園花壇の草花をドライフラワーにしたブーケとした。施設の認知向上と新規来館者の誘導に繋がった。

江東区観光協会主催の「江東湾岸まつり」をはじめ「都市公園上野恩賜公園 150 周年総合文化祭」、

東京竹芝で小笠原観光局主催の「おがさわら Day」、日比谷アメニスで管理しているイケサンパーク主催の「ファーマーズマーケット」、江東区夢の島競技場主催の「夢の島スポーツマルシェ」にブース出展しアウトリーチ活動を行った。



写真 30 熱帯植物虫めがね AR

D X 推進の一環としては新しいスマートフォンARアプリ「熱帯植物虫めがねAR」をリリースした。AR 技術を使って館内の植物解説を楽しむというもので、カメラを通して温室（ドーム）内に立体映像が浮かびあがる仕組みである。ゲームと現実が融合したような全く新しい公共施設の楽しみ方を提供した。

今年は開館 35 周年という事で「みどり・ゆめ・みらい 夢熱 35 周年展」を開催した。建設計画の初期構想や企画段階の資料、建設時から開館までの写真の掲示、過去のチラシ、冊子、スライドフィルムなど倉庫に眠っていた当時の機器類などの展示やお客様から公募した夢の島の思い出写真など展示した。世代を問わず反響が大きく、植物館の誕生の経緯と意義の啓発に繋がった。



写真 31 夢熱 35 周年展

当館の客層では少数であった若年層の来館促進のため、人気若手アーティストの作品展を開催。植物館公式 SNS での告知の反響も大きく、表示回数は 41 万回を突破。

会期中も X や Instagram にて大きな反響があり、この展示をきっかけに植物館の存在を初めて知れて良かったという感想が多く寄せられ、植物館の知名度向上に繋がった。

初日には開館前から並ぶ方もおり、またこの展示のために初めて植物館に来たという方も多く、新幹線による遠方からの来館、台湾からの来館もあった。このイベントの反響は大きく、インフルエンサーの目に留まったことから口コミの波及や TikTok での話題性に繋がり、これまでほとんど見られなかった 10～20 代の新規客層の来館誘導に繋がった。

例年は閑散期である 3 月に狙いを定めて会期としたことにより、最終的に前年比 189.5%にあたる 1 万 3000 人の来館があり、若手作家とのコラボレーション企画の強さを実感した。



写真 32 夢熱×みなはむ POP UP 展

Ⅳ. さいごに

令和 5 年度は、入館者数を回復すべく毎月の目標入館者数を設定。前年比の数字を踏まえた数値分析を行い、閑散期対策などを協議し、常に新しいアイデアを計画に移し、実行した。

結果、入館者数が殆どの月で前年を上回ることになった。SNS の運用強化や、閑散期対策として 3 月に行ったコラボ企画などによって、これまでの主たる客筋ではなかった 10 代 20 代の集客にも成功し、目標入館者数 10 万人を大きく上回る 111,207 人の来館を達成した。

今後も各種取り組みにチャレンジしながら、安全・安心に楽しめる施設を目指していく。

ナラ枯れによって都立公園の樹林はどのように変化したのか ～砧公園・光が丘公園～

公益財団法人東京都公園協会公園事業部
事業管理課防災区部西エリア維持係
松元 信乃

I. はじめに

都立公園におけるブナ科樹木^{いちようびょう}萎凋病（以下、ナラ枯れ）被害の初確認からまもなく5年が経過する。この間に公園では多くの樹木が枯死し、伐採され、切り株と化した。生き残った木においても大きな傷跡があるものも少なくない。幸いなことに表題の2公園では、令和5年度に被害木の発生が大幅に減少した。このままナラ枯れが収束することを祈りつつ、砧公園と光が丘公園において独自のナラ枯れ調査を実施した。過去のナラ枯れ被害の調査報告や措置に関する記録をもとに被害木の傾向について調べ、さらに生き残った木と比較することで公園ごとの傾向を分析した。いまだ被害収束の兆しが見えない全国の施設管理者にエールを送る意味をこめて調査結果を報告する。

II. ナラ枯れの枯死率を調べたい

1 ナラ枯れの記憶

（1）ナラ枯れのはじまり

ナラ枯れは、どんぐりのなる木が感染する樹木の病気である。今から5年前の令和元年8月に、砧公園ほか複数の都立公園でコナラが大量に枯死する現象が発生した。その後専門家によるフェロモントラップを用いた調査が行われ、カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）の成虫が確認されたことで、コナラの集団枯死がナラ枯れであると判明した。その後またたく間に被害は拡大していった。



図ー1 カシノナガキクイムシ成虫と都立公園におけるナラ枯れ被害の様子

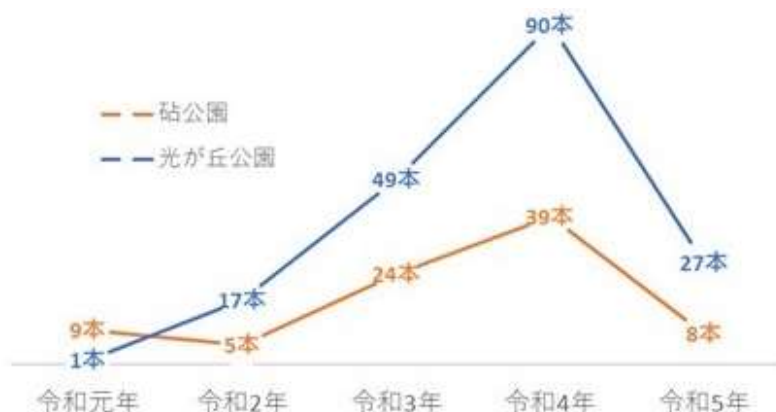
（2）公園の対応

ナラ枯れが始まった当初、ナラ枯れ被害の拡散を防ぐため、林野庁「ナラ枯れ被害対策マニュアル（H27完全版）改訂版」に則り、カシナガの飛散時期を避けた10月から3月の間

に被害木の伐採・搬出を行うよう公園協会本社より指導があった。そのため、現場では、ナラ枯れ被害木については慎重な対応がとられた。潮目が変わったのは、コナラの落ち枝が駐輪中の自転車を破損した事故がきっかけだったように思う。この事故をうけて、人身・物損事故のリスクが高い箇所については、時期を選ばずに措置を行わざるをえなくなった。しかしながら、公園において利用者が入らない場所はゼロに等しい。すべての木が人身・物損事故を招く可能性がある。はじめて公園の担当になった令和4年度はナラ枯れ対応に翻弄されることになった。

（３）来園者の反応

最も被害木が出た令和4年度は、光が丘公園で90本の樹木が枯死した。定期的に巡回し、枯れた木を見つけては業者を呼び措置を依頼した。頻繁に造園業者が公園に出入りしている状況を見かねた来園者からは「いつもチェーンソーの音がして落ち着かない。静かにしてほしい」という意見が公園管理所に寄せられるほどであった。いつになったら終わるのか、そもそも公園の木がなくなってしまうのではないかという不安を感じつつも、対応を続けるうちに被害木の発生頻度は減り始めた。



図ー２ 施工年度別ブナ科樹木伐採本数

２ 調査のきっかけ

業者に措置を依頼するにあたっては対象とする樹木の大きさを計測する作業が必須である。光が丘公園の被害木の幹周を計測しているうちに、計測値がだんだんと小さくなっていくことに気づいた。そもそも、ナラ枯れの原因となるカシナガは繁殖に適した大きな木を好んで加害することから、大径木ほど枯れやすいといわれる。これに対し、雑木林の伝統的な管理手法である皆伐更新が14年周期で実施されている若い樹林では、ナラ枯れはほぼ発生しない（参考文献ー１）。つまり、ナラ枯れが収束しつつある公園では樹林が若返ったのだ、とナラ枯れを肯定的に捉えることもできそうである。公園に日々張り付いている自分にはその是非を確かめることが可能ではと考えた。気候も穏やかになり始めた10月ごろ独自のナラ枯れ調査を開始した。

３ 調査の手法

調査は現地調査と過去の樹木管理委託の書類調査の２方向から進めた。過去の書類調査

を進めていくなかで、砧公園と光が丘公園では、過去 5 年間で少なくとも 269 本のブナ科樹木がナラ枯れにより伐採されており、被害木のなかでもコナラは全体のおよそ 74%を占めることがわかった。そこで本調査の対象木は、コナラに限定して行うことにした。さらに、調査対象とする公園は、地域も開園年数も異なる砧公園と光が丘公園とした。この 2 公園は、都立公園のなかでも早くからナラ枯れ被害に悩まされ、被害木の本数も多い。

生き残りコナラ（以下、生立木）に対する現地調査は、それぞれの公園を歩きコナラを見つけては場所と幹周、樹勢などを記録した。伐採されたコナラ（以下、被害木）調査は、以前の担当者や造園業者にも協力してもらい、施行年度ごとに伐採本数、場所、幹周を調べた。

調査していくなかで、株立ちの場合の幹周の取り扱いが問題になった。通常の樹木管理の設計・積算をする場合、株立ちは幹周の合計に 0.7 をかけることが慣例だ。しかしナラ枯れ前後の幹周の変化を比較するには実態に近い数字が適していると判断し、合計をそのまま使うことにした。なお、「大径木」という言葉が以後頻発するが、一般的に丸太では末口直径 30 cm 以上をさすこと、東京都建設局緑地部発行の平成 26 年度大径木再生指針でも幹周 90 cm 以上の木と定義していることを受けて、本調査では切りのよい 100 cm 以上の幹周の木と定義することとした。反対に、幹周 100 cm 未満の樹木については「若齢木」と表現する。



図—3 樹種別ナラ枯れ伐採本数

Ⅲ. 調査結果

1 幹周と伐採年度ごとの比較

(1) 枯死率

2 公園の開園時期は 40 年ほどの違いがあり、砧公園の方が開園時期は早い。コナラが植えられた時期を調べるとやはり砧公園の方が、光が丘公園よりも古いことが分かった。常識的に考えると、造成時期が古いということは樹齢も古く、幹周も大きくなるはずである。ナラ枯れは前述したように、大径木ほど枯れやすいとされる。当初の想定では、砧公園の方が光が丘公園よりも枯死率が上がると予想していた。しかし、実際は逆転する結果となった。結果は表-1 に示す。

(2) 被害木のうち大径木の割合

被害木の幹周を調べた調査では、砧公園の方が大径木の割合が高くなった。砧公園は光が丘公園よりも樹林地の造成が古いため、被害を受ける大径木も多くなることは当然の結果

といえる。幹周別に枯死率を比較した分析においては、光が丘公園では若齢木と大径木に大きな差はなく、若齢木でも大径木と同じ割合で枯死していることがわかった。

（３）伐採年度ごとの大径木の割合

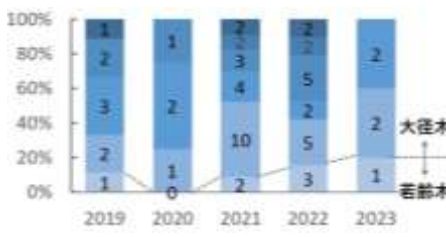
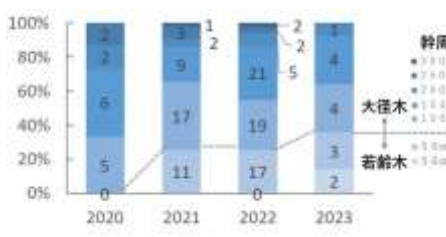
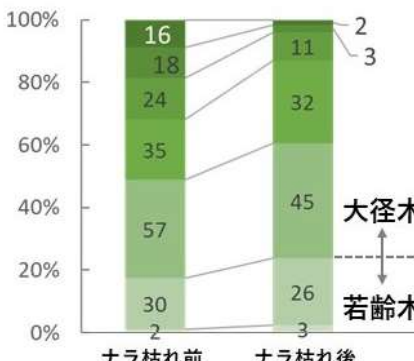
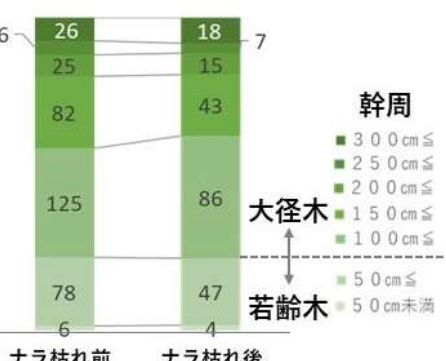
光が丘公園の被害木は年度を超えるごとに、小さい幹周の個体の割合が増える傾向がみられた。これに対し砦公園では、どの年度においても大径木が 80%以上を占めた。

（４）ナラ枯れ前後の大径木の割合

ナラ枯れを経て、砦公園では大径木の割合が 6%ほど減ったが、光が丘公園では逆に 0.3% 増えた。ナラ枯れ前は砦公園の方が高かった大径木の比率だが、ナラ枯れ後には光が丘公園の方が高くなってしまった。光が丘公園はナラ枯れによって若返るどころか、若い木が減り、大きな木が増えたといえる。

表－１ 調査結果（棒グラフ中の数字は本数を表す）

	砦公園	光が丘公園
①枯死率	32.9%	38.5%
造成時期	1970 年代ごろ	1980 年代ごろ
被害集中箇所	大蔵通り	北口付近樹林 芝生広場西側樹林
②被害木のうち大径木の割合	幹周別凡例 300cm ≤ 250cm ≤ 200cm ≤ 150cm ≤ 100cm ≤ 50cm ≤ 50cm 未満 砦公園 N=60 光が丘公園 N=138 大径木 若齢木 砦公園（88.3%）の方が光が丘公園（76.5%）よりも大径木の割合が高い	
幹周別枯死率	若齢木 ← 大径木 生立木 ■ 被害木 幹周 若齢木は比較的枯死率が低い	若齢木 ← 大径木 生立木 ■ 被害木 幹周 若齢木においても枯死率が高い

	砧公園	光が丘公園
③伐採年度ごとの大径木の割合	 大径木は常に 80%以上を占めている	 年度を経るごとに若齢木の割合が増える
④ナラ枯れ前後の大径木の割合	 砧公園	 光が丘公園
大径木比率の変化	82.4%→76.2% ▼6.2%	76.5%→76.8% △0.3%
	ナラ枯れ前は砧公園の方が大径木の割合が高かったが、逆転した。	

2 植栽場所と幹周の比較

光が丘公園で被害が集中した箇所は2か所ある。北口付近と芝生広場西側にある樹林である。生立木と被害木を同時に地図上に表示させるとナラ枯れ前のコナラの植栽状況が分かる。この図をご覧になれば、2つのエリアの植栽密度が極めて高いことがわかるだろう（図－4）。2公園の植栽密度を比較するため、250m四方のグリッドを設定し、光が丘公園にはめてみた（図－5）。図中の赤2区画では、50本を優に超えるコナラがある。さらに、若齢木の被害木のうち8割がこの2つ区画内にあることがわかった（図－6）。光が丘公園には区画20本以上50本未満のエリアも3か所存在した（図中黄色い以示す区画）。

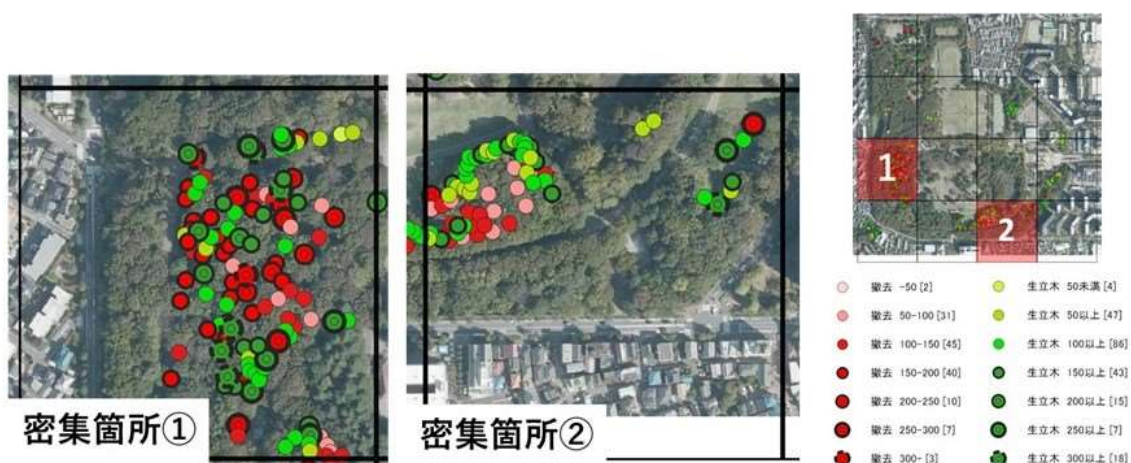
これに対し、砧公園には250m四方のグリッド内で50本以上の区画はなかった。20本以上50本未満の区画は5か所存在しており、被害が多くみられた大蔵通り周辺もその区画であった。



図—4 光が丘公園と砧公園ナラ枯れ前のコナラ植栽図



図—5 コナラの植栽密度（左：光が丘公園・右：砧公園）



図—6 光が丘公園の被害密集箇所の幹周別凡例

3 考察

砧公園では、光が丘公園よりも大径木の割合が高い環境であるにもかかわらず、ナラ枯れによるコナラの枯死率は光が丘公園よりも6%ほど低くなった。これに対し、光が丘公園では、被害木中に占める若齢木の割合が高く、生き残った大径木の割合が砧公園よりも高くなった。これにより2公園の生き残ったコナラの大径木の比率は、ナラ枯れ前後で逆転した。

ナラ枯れの被害を拡大させる要因にコナラの植栽密度があると考ええる。光が丘公園では、コナラが密集するエリアで特に被害木の発生が目立った。さらに、コナラ密集エリアでは若齢木の被害木が多数発生した。これに対し、砧公園では光が丘公園ほど（50本以上/250平方メートル）のコナラ密集エリアは存在せず、若齢木の枯死率は大径木に比べて低かった。

以上より、光が丘公園では、コナラの密集がナラ枯れの原因となるカシナガの集中加害を誘引し、ナラ枯れ被害木が高密度で発生し、若齢木に被害が拡大したことで、枯死率の増加を招いたと考えられる。また、大径木の割合が増えた理由の一因には、被害密集地においても枯れない大径木の存在も関係している。

IV. 今後ともめられること

1 ナラ枯れ生き残り樹木への対応

今回の現地調査によって枯死を免れた個体のなかには腐朽被害にあっている個体が一定数あることもわかった。これらの個体は、ナラ枯れによって少なからず枝葉に枯れが生じたものの、樹勢を持ち直した個体である。一見すると葉は青く茂っているが、幹や根元には木材腐朽菌の子実体が見られる。今後、倒木のリスクが増えていくのはこのような生き残り個体であり、今後はより高精度な点検と樹木診断の実施、迅速な措置が必要になると予想する。

2 公園における雑木林の維持

ナラ枯れを経て、2公園のコナラの本数はナラ枯れ前のおよそ2/3に減少した。おそらく公園だけでなく、関東全体で多くのコナラが失われたと想像する。コナラは古くから地域の暮らしに根差した樹木であり、都市に住む生き物のよりどころといえる。里山の構成種であるコナラは典型的な陽樹であるため、暗い林床では次世代が育たない。そのためコナラ林を維持するには、苗木の補植、下草刈り、被圧する樹木の枝打ちや大径木の択伐などが必要であり、大変手間がかかる。さらに今後は密度管理に重点を置き、質の高い樹林を目指していかなくてはならない。「ナラ枯れを繰り返さないためには樹種転換をすべきでは」という声も聞く。しかし、公園を利用するのは人間だけではないと私は思う。翻って見れば、公園でコナラを守らなくて、いったいどこでコナラが生き残れるというのだろうか。

コナラを保全しなくてはならないという使命感と、なくなったものを元に戻すという自然な流れから今年度は砧公園と光が丘公園でコナラの苗木を植えることができた。しかも、

一部の苗木は植樹イベントとして公園フェスタの企画に組み込んだ。当日は、子ども連れ世帯 18 組が参加してくれた。筆者は公園の樹木の役割についての解説と植える手順を説明し、参加者たちは自らの手で 2m の小さな苗木を公園の広場に植えた。苗木が大きくなるころ再びナラ枯れの猛威にさらされることがないように、今まで以上に手厚い樹林地管理計画を提案、実現し、生命豊かな都市の森を育んでいきたい。



図-7 ナラ枯れの被害木の根元に発生したマンネンタケ（写真・左・中）

図-8 光が丘公園フェスタでコナラの苗木を植える市民（写真・右）

V. さいごに

5 か年の経過を調査するにあたっては、自分が担当する以前の実績を調べる必要があった。5 か年を調べるということは、各年代の担当者の業務記録をつなぐ作業となった。前任者と連絡がとれない年度については、その時期に樹木管理を受託していた造園会社の現場代理人に問い合わせた。日々の業務に追われるさなか、著者のしつこい問い合わせや追加資料の要求に快く応じてくれた皆様がいたからこそ、報告書にまとめることができた。この場を借りて、感謝を申し上げたい。

参考文献

1) 阿部好淳・松元信乃（2022）：樹木学研究 26 巻 2 号

「都立公園における小面積皆伐によるナラ枯れ被害の抑止効果-桜ヶ丘公園こならの丘を例に-」

1 東京の道路緑化状況

(1) 東京都の道路緑化状況

(令和5年4月1日現在)

ア. 東京の街路樹規模（管理者別） 単位：本

種類	管理者	管理本数合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	24,234	2.4%	18,412	2.9%	5,822	1.6%
都道	東京都知事	645,875	64.6%	401,602	64.1%	244,273	65.3%
区道	特別区長	206,451	20.6%	206,451	33.0%	0	0.0%
市町村道	市町村長	123,986	12.4%	0	0.0%	123,986	33.1%
合 計		1,000,546	100.0%	626,465	100.0%	374,081	100.0%

イ. 東京の道路緑化延長（管理者別） 単位：km

種類	管理者	緑化延長合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	196	5.3%	157	6.8%	40	2.9%
都道	東京都知事	1,371	37.2%	843	36.7%	529	38.0%
区道	特別区長	1,298	35.2%	1,298	56.5%	0	0.0%
市町村道	市町村長	824	22.3%	0	0.0%	824	59.2%
合 計		3,690	100.0%	2,298	100.0%	1,392	100.0%

*小数第1位を四捨五入した整数値で表記

ウ. 都内の道路緑地規模（管理者別） 単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	336,212	7.1%	258,525	9.3%	77,687	3.9%
都道	東京都知事	2,301,010	48.4%	1,241,387	44.6%	1,059,623	53.6%
区道	特別区長	1,281,729	26.9%	1,281,729	46.1%	0	0.0%
市町村道	市町村長	837,929	17.6%	0	0.0%	837,929	42.4%
合 計		4,756,880	100.0%	2,781,641	100.0%	1,975,239	100.0%

エ. 東京の道路緑地規模（緑地区分別） 単位：㎡

種類	管理者	管理面積合計	%	歩道植樹帯	%	その他道路緑地	%
一般国道	国土交通大臣	336,212	7.1%	203,307	6.8%	132,905	7.5%
都道	東京都知事	2,301,010	48.4%	1,148,228	38.5%	1,152,782	65.0%
区道	特別区長	1,281,729	26.9%	919,563	30.8%	362,166	20.4%
市町村道	市町村長	837,929	17.6%	710,931	23.8%	126,998	7.2%
合 計		4,756,880	100.0%	2,982,029	100.0%	1,774,851	100.0%

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地（中央分離帯・交通島など）

オ. 参考表

東京の道路延長及び面積規模（管理者別） 令和4年4月1日現在

区 分	道路延長 m	%	道路面積 ㎡	%
一般国道	248,924	1.0%	7,528,379	3.9%
都道	2,240,791	9.1%	42,048,455	22.1%
区道	10,725,729	43.3%	71,030,556	37.3%
市町村道	11,262,550	45.5%	60,527,584	31.8%
自動車専用道	280,116	1.1%	9,480,874	5.0%
合 計	24,758,110	100.0%	190,615,848	100.0%

※道路率：都内全域8.7% 区部16.7% 市部9.4% 郡部1.3% 島しょ部1.8%

カ. 東京の街路樹等(高木)規模内訳

3－(1) 東京の街路樹 総括表

令和5年4月1日現在

樹種名		合 計 規 模			地 区 別 規 模 計			都 道				国 道		区 道		市 町 村 道											
		順位	本 数	%	順位	区 部	順位	多摩部他	区 部	多摩部他	順位	合 計	%	区 部	多摩部	順位	合 計	順位	合 計								
アオギリ		20	4,705	0.47	17	4,247	23	458	2,800	331	12	3,131	0.48	30	0	17	30	20	1,417	25	127						
アキニレ		22	4,201	0.42	20	3,637	19	564	1,036	24	21	1,060	0.16	9	0	19	9	18	2,592	20	540						
イチョウ		2	58,858	5.88	1	37,446	2	21,412	18,906	8,592	1	27,498	4.26	4,813	2,393	1	7,206	3	13,727	3	10,427						
ウバメガシ		21	4,483	0.45	19	3,977	21	506	1,185	418	19	1,603	0.25	7	0	20	7	17	2,785	27	88						
エンジュ類		12	9,523	0.95	14	5,278	11	4,245	3,281	588	9	3,869	0.60	164	90	11	254	19	1,833	8	3,567						
クスノキ		7	18,681	1.87	6	13,156	6	5,525	3,327	2,920	7	6,247	0.97	70	37	14	107	4	9,759	13	2,568						
ケヤキ		5	28,873	2.89	7	12,867	5	16,006	3,876	6,665	5	10,541	1.63	912	468	4	1,380	5	8,079	5	8,873						
サクラ類		3	42,971	4.29	3	26,378	4	16,593	3,546	4,004	6	7,550	1.17	316	80	9	396	1	22,516	2	12,509						
シンジュ		28	133	0.01	29	24	27	109	11	0	29	11	0.002	0	0	23	0	29	13	26	109						
プラタナス類		6	21,265	2.13	4	19,643	18	1,622	13,170	709	4	13,879	2.15	1,652	9	2	1,661	11	4,821	17	904						
トウカエデ		4	35,630	3.56	5	14,716	3	20,914	6,535	10,771	3	17,306	2.68	652	627	5	1,279	6	7,529	4	9,516						
トチノキ		18	5,167	0.52	23	1,552	13	3,615	345	698	22	1,043	0.16	95	0	15	95	22	1,112	11	2,917						
トネリコ		27	341	0.03	25	326	29	15	61	0	27	61	0.01	2	0	21	2	25	263	29	15						
ニセアカシヤ		26	723	0.07	26	240	22	483	29	83	26	112	0.02	0	0	23	0	26	211	22	400						
ハナミズキ		1	60,848	6.08	2	26,518	1	34,330	6,368	13,233	2	19,601	3.03	933	279	6	1,212	2	19,217	1	20,818						
フウ		23	2,864	0.29	21	2,409	24	455	1,963	0	15	1,963	0.30	0	0	23	0	24	446	21	455						
外来ポプラ類		30	107	0.01	27	102	30	5	29	0	28	29	0.004	0	0	23	0	28	73	30	5						
マテバシイ		8	15,646	1.56	8	11,130	9	4,516	2,882	1,684	8	4,566	0.71	1,437	206	3	1,643	9	6,811	12	2,626						
モミジバフウ		15	7,757	0.78	12	5,897	17	1,860	2,895	795	11	3,690	0.57	2	75	16	77	16	3,000	16	990						
シダレヤナギ		24	2,308	0.23	22	2,110	26	198	810	10	23	820	0.13	167	0	12	167	21	1,133	23	188						
ヤマモモ		9	13,088	1.31	9	10,426	15	2,662	2,916	930	10	3,846	0.60	408	6	8	414	7	7,102	15	1,726						
ユリノキ		13	9,503	0.95	15	4,993	10	4,510	1,362	787	14	2,149	0.33	459	0	7	459	15	3,172	7	3,723						
ウメ類		25	905	0.09	24	581	25	324	41	174	24	215	0.03	0	0	23	0	23	540	24	150						
クワ		29	117	0.01	28	79	28	38	0	0	30	0	0.000	0	2	21	2	27	79	28	36						
コブシ		10	11,391	1.14	13	5,893	7	5,498	2,207	902	13	3,109	0.48	206	55	10	261	14	3,480	6	4,541						
サルスベリ類		11	10,337	1.03	11	6,320	12	4,017	828	985	17	1,813	0.28	16	0	18	16	10	5,476	10	3,032						
サザンカ類		19	4,766	0.48	18	4,219	20	547	117	6	25	123	0.02	0	0	23	0	12	4,102	19	541						
ツバキ類		14	9,263	0.93	10	7,052	16	2,211	25	1,655	18	1,680	0.26	0	0	23	0	8	7,027	18	556						
シラカシ		16	7,315	0.73	16	4,483	14	2,832	884	457	20	1,341	0.21	114	44	13	158	13	3,485	14	2,331						
ビロウ		17	5,330	0.53	30	0	8	5,330	0	1,932	16	1,932	0.30	0	0	23	0	30	0	9	3,398						
そ の 他			603,447	60.31		390,766		212,681	320,167	184,920		505,087	78.20	5,948	1,451		7,399		64,651		26,310						
街 路 樹	街路樹本数 合計	1,000,546 (本)			626,465			374,081			401,602			244,273		645,875		18,412		5,822		24,234		206,451		123,986	
	(百 分 率)	100.0 (%)			62.6			37.4			40.1			24.4		64.6		1.8		0.6		2.4		20.6		12.4	
	街路樹植栽延長	3,689.6 (km)			2,297.6			1,392.0			842.8			528.6		1,371.3		156.5		39.9		196.4		1,298.2		823.5	
道 路	面積 合計(①+②)	4,756,880 (㎡)			2,781,641			1,975,239			1,241,387			1,059,623		2,301,010		258,525		77,687		336,212		1,281,729		837,929	
	(百 分 率)	100.0 (%)			58.5			41.5			26.1			22.3		48.4		5.4		1.6		7.1		26.9		17.6	
緑 地	①歩道植樹帯	2,982,029 (㎡)			1,716,409			1,265,620			645,750			502,478		1,148,228		151,096		52,211		203,307		919,563		710,931	
	②その他道路緑地	1,774,851 (㎡)			1,065,232			709,619			595,637			557,145		1,152,782		107,429		25,476		132,905		362,166		126,998	

(港湾局含む) (島しょ含む)

* 道路緑地の「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

(2) 都道（東京都（知事）管理道路）道路の状況

2023/4/1

ア．総括表

街路樹	【本】	645,875
道路緑地	【m ² 】	2,301,010
歩道植樹帯		1,148,228
その他道路緑地		1,152,782
道路延長 【km】	道路緑化延長	
	延長【km】	緑化率%
2,241	1,371	61.2%

イ．街路樹の主要樹種状況

順位	樹 種	本 数	割 合
1	イチョウ	27,498	4.3%
2	ハナミズキ	19,601	3.0%
3	トウカエデ	17,306	2.7%
4	プラタナス類	13,879	2.1%
5	ケヤキ	10,541	1.6%
6	サクラ類	7,550	1.2%
7	クスノキ	6,247	1.0%
8	マテバシイ	4,566	0.7%
9	エンジュ類	3,869	0.6%
10	ヤマモモ	3,846	0.6%
	上記以外	530,972	82.2%
合 計		645,875	100.0%

ウ．都道の街路樹・道路内緑地管理規模の推移

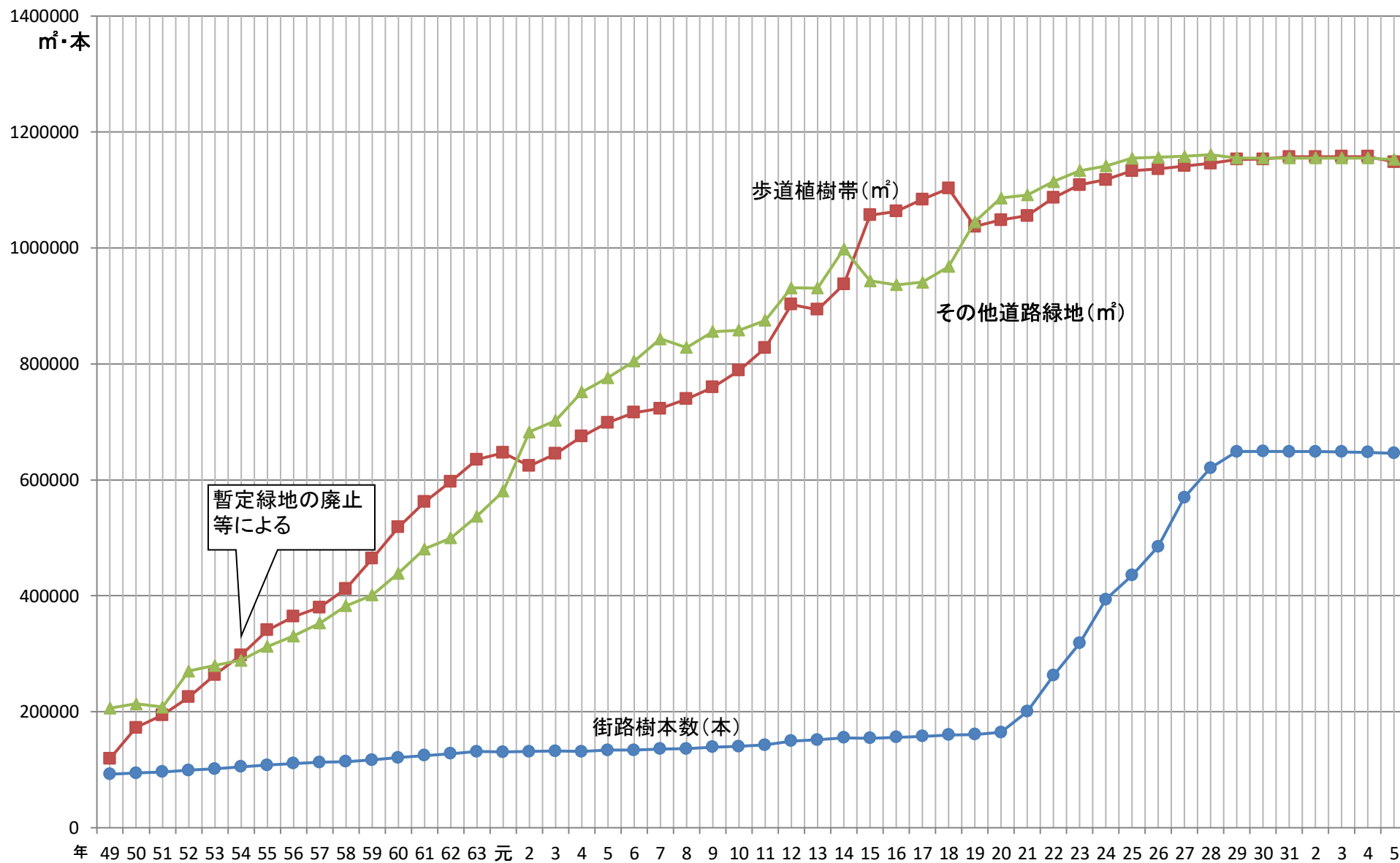
年度	街路街路樹 【本】	道 路 緑 地 面積合計(①+②) (㎡)	①歩道植樹帯		②その他道路緑地 面積(㎡)
			面積(㎡)	延長 (km)	
S49	92,283	325,568	119,308	113.7	206,260
50	94,275	386,141	172,536	164.0	213,605
51	96,135	402,436	194,194	180.9	208,242
52	98,969	495,605	225,267	199.0	270,338
53	101,678	543,466	263,638	231.1	279,828
54	105,039	586,440	297,552	258.8	288,888
55	108,063	653,338	340,840	291.2	312,498
56	110,795	694,915	364,200	319.6	330,715
57	112,864	732,864	380,023	336.2	352,841
58	114,004	795,383	412,449	350.1	382,934
59	116,681	865,720	464,347	375.3	401,373
60	120,799	957,292	518,287	405.2	439,005
61	124,349	1,042,711	561,944	433.7	480,767
62	127,560	1,096,909	596,903	461.0	500,007
63	131,235	1,172,279	635,007	490.9	537,272
H元	130,571	1,227,288	646,685	510.2	580,603
2	131,376	1,306,592	624,160	539.5	682,432
3	132,093	1,347,423	645,052	546.8	702,371
4	131,546	1,426,584	675,057	591.0	751,527
5	133,833	1,475,118	698,736	652.5	776,382
6	133,827	1,521,260	716,228	608.1	805,032
7	135,851	1,556,399	723,034	599.0	843,365
8	136,204	1,567,916	739,476	621.8	828,440
9	139,028	1,615,434	759,699	677.1	855,735
10	140,359	1,646,935	788,707	967.0	858,228
11	142,758	1,702,514	827,358	991.0	875,156
12	149,700	1,833,637	902,451	927.0	931,186
13	151,590	1,824,537	893,702	1132.0	930,835
14	155,013	1,935,183	937,125	1166.0	998,058
15	154,574	1,999,735	1,056,620	1176.0	943,115
16	156,095	1,999,711	1,063,299	1225.0	936,412
17	157,610	2,024,649	1,083,811	1206.0	940,838
18	159,953	2,070,549	1,102,681	1167.0	967,868
19	160,748	2,082,054	1,037,106	1191.0	1,044,948
20	164,460	2,134,525	1,048,157	1201.0	1,086,368
21	200,243	2,146,938	1,055,481	1211.0	1,091,457
22	262,648	2,201,077	1,086,744	1212.0	1,114,333
23	314,978	2,242,262	1,108,912	1228.0	1,133,350
24	393,492	2,259,174	1,117,631	1232.0	1,141,543
25	435,214	2,287,963	1,133,149	1351.0	1,154,814
26	484,906	2,292,453	1,136,111	1355.6	1,156,342
27	569,451	2,299,419	1,141,322	1359.2	1,158,097
28	620,374	2,306,784	1,145,826	1363.6	1,160,958
29	648,551	2,307,848	1,152,797	1368.6	1,155,051
30	649,078	2,308,013	1,152,962	1368.8	1,155,051
31	648,808	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
R 2	648,576	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
3	648,277	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218
4	647,655	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218
5	645,875	2,301,010	1,148,228	1371.3	1,152,782

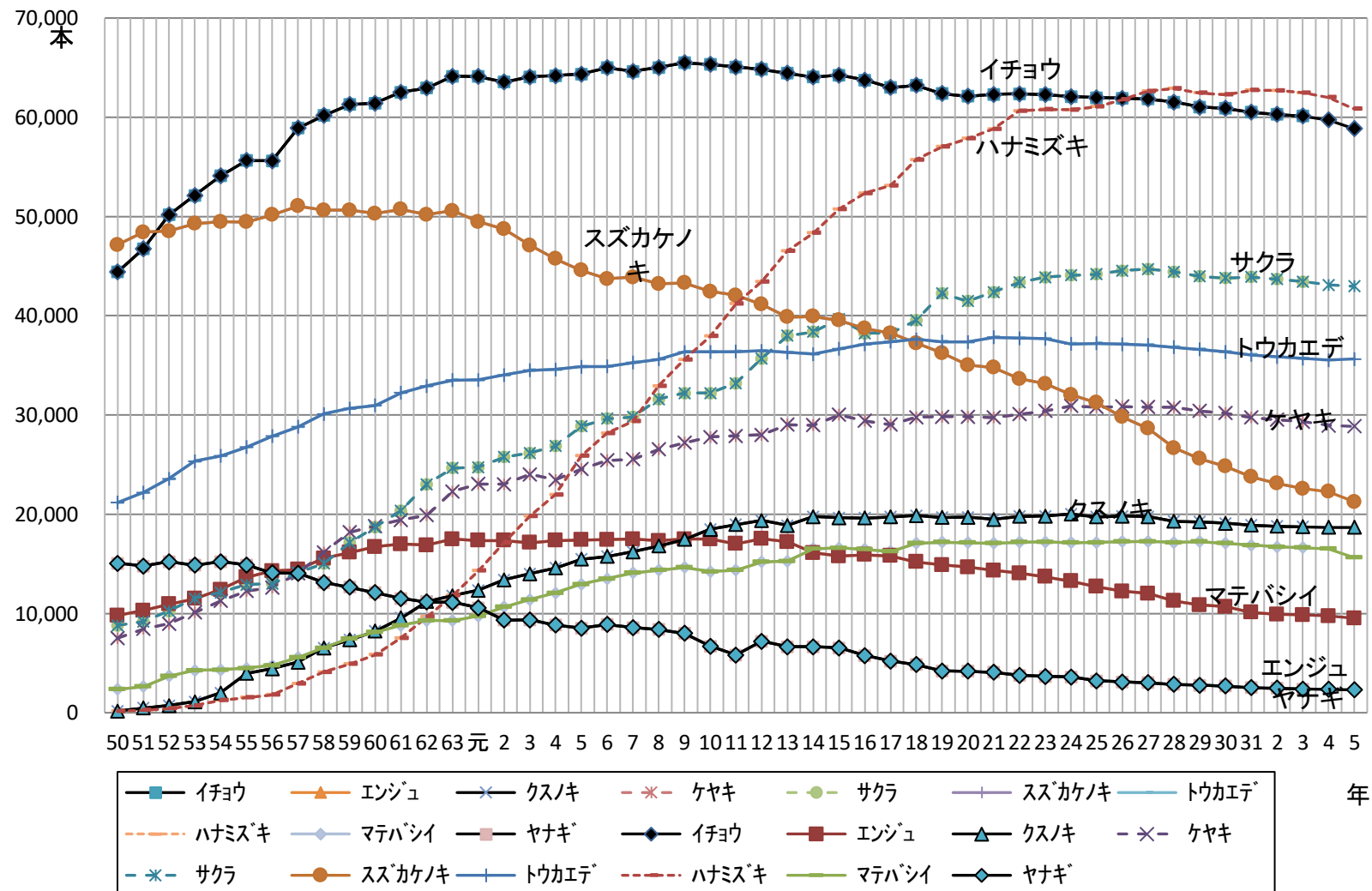
*数字は各年度4月1日現在 *港湾局含む

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

エ. 都道の街路樹本数・緑地面積等の推移

(各年度4月1日現在)





2. 令和4年度 都立公園等植栽本数一覧表

(1) 総括表

項目 樹種		購 入 材										支 給 材												総 計	支給材 使用率 (%)	都内産 合計	都内産 使用率 (%)	
		公 園 庭 園			霊 園			動物園				小 計	公 庭 園			霊 園			動 物 園			小 計						
		総数	都外	都内産	総数	都外	都内産	総数	都外	都内産	支給		苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労					
樹木	針葉樹（本）	4,624	4,623	1	0	0	0	0	0	0	4,624	(0)	0	0	0	0	(20)	0	0	(0)	0	0	(20)	4,644	0.4	21	0.5%	
	常緑樹（本）	714	648	66	119	119	0	0	0	0	833	(14)	2	59	0	0	(38)	0	0	(0)	14	2	(97)	946	11.9	179	18.9%	
	落葉樹（本）	522	503	19	0	0	0	0	0	0	522	(67)	3	25	0	0	(20)	0	0	(0)	67	3	(45)	637	18.1	134	21.0%	
	小 計（本）	5,860	5,774	86	119	119	0	0	0	0	5,979	(81)	5	84	0	0	(78)	0	0	(0)	81	5	(162)	6,227	4.0	334	5.4%	
都内産使用率		1%			0%			0%																				
株物	常 緑（株）	12,346	11,760	586	85	85	0	0	0	0	12,431	(510)	82	912	0	0	(76)	0	0	(0)	510	82	(988)	14,011	11.3	2166	15.5%	
	落 葉（株）	3,179	2,948	231	288	288	0	0	0	0	3,467	(110)	32	539	0	0	(3)	0	0	(0)	110	32	(542)	4,151	16.5	915	22.0%	
	小 計（株）	15,525	14,708	817	373	373	0	0	0	0	15,898	(620)	114	1,451	0	0	(79)	0	0	(0)	620	114	(1,530)	18,162	12.5	3081	17.0%	
都内産使用率		5%			0%			0%																				
計		21,385	20,482	903	492	492	0	0	0	0	21,877	(701)	119	1,535	0	0	(157)	0	0	(0)	701	119	(1,692)	24,389	10.3	3415	14.0%	
特殊樹	樹 木（本）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0%	
	株 物（株）	2,755	2,755	0	0	0	0	0	0	0	2,755	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	2,755	0	0	0.0%	
	小 計（本株）	2,755	2,755	0	0	0	0	0	0	0	2,755	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	2,755	0	0	0.0%	
	株 物（㎡）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0%	
地被類	芝 生（㎡）	22,104	22,104	0	784	784	0	0	0	0	22,888	(3,598)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	3,598	0	(0)	26,486	14	3598	13.6%	
	芝生以外 の草本地被(株)	3,671	3,671	0	807	807	0	0	0	0	4,478	(0)	226	0	0	0	(75)	0	0	(0)	0	226	(75)	4,779	6	301	6.3%	
	〃（㎡）	1,734	1,734	0	0	0	0	0	0	0	1,734	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1,734	0	0	0.0%	
	木本地被(株)	212	212	0	6	6	0	0	0	0	218	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	218	0	0	0.0%	

〔注意〕・産業労働局支給材は、支給材の欄に（ ）外書きする。

(2) 内 訳 表 (令和4年度)

所 管 樹 種 種 別		公 園 ・ 庭 園																											
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						小笠原支庁						指定管理者						小 計			
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給				
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産	購入
樹 木	針葉樹(本)	2,904	2,904	0	0	0	0	1,719	1,719	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4,624	0	0	(0)
	常緑樹(本)	293	293	0	0	0	0	187	187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	234	168	66	14	2	59	714	14	2	(59)	
	落葉樹(本)	95	80	15	0	0	0	412	412	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	11	4	67	3	25	522	67	3	(25)	
	計(本)	3,292	3,277	15	0	0	0	2,318	2,318	0	0	0	0	0	0	0	0	0	250	179	71	81	5	84	5,860	81	5	(84)	
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0						40.5						2.8			
株 物	常緑(株)	6,198	5,612	586	0	0	450	5,957	5,957	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	191	0	510	82	462	12,346	510	82	(912)	
	落葉(株)	904	673	231	0	0	0	2,262	2,262	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	13	0	110	32	539	3,179	110	32	(539)	
	計(本)	7,102	6,285	817	0	0	450	8,219	8,219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	204	204	0	620	114	1,001	15,525	620	114	(1,451)	
	支給材使用率	6.0						0.0						0.0						89.5						12.3			
合 計	小計(本)	10,394	9,562	832	0	0	450	10,537	10,537	0	0	0	0	0	0	0	0	0	454	383	71	701	119	1,085	21,385	701	119	(1,535)	
	合計(本)	10,844						10,537						0						2,359						23,740			
	支給材使用率	4.1						0.0						0.0						80.8						9.9			
特 殊 樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	205	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,550	2,550	0	0	0	0	2,755	0	0	(0)	
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
地 被 類	芝生(㎡)	13,981	13,981	0	0	0	0	7,573	7,573	0	0	0	0	0	0	0	0	0	550	550	0	3,598	0	0	22,104	3,598	0	(0)	
	草本地被(株)	160	160	0	0	0	0	3,511	3,511	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	226	0	3,671	0	226	(0)	
	草本地被(㎡)	1,326	1,326	0	0	0	0	403	403	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	1,734	0	0	(0)	
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	212	212	0	0	0	0	212	0	0	(0)	

所管 樹種 種別		霊園・葬儀所																					
		東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						指定管理者						小計			
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給				
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産							
樹木	針葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	(20)
	常緑樹(本)	0	0	0	0	0	119	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	119	0	0	(38)
	落葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	(20)
	計(本)	0	0	0	0	0	119	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78	119	0	0	(78)
	支給材使用率	0.0						0.0						100.0						39.6			
株物	常緑株物(本)	85	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76	85	0	0	(76)
	落葉株物(本)	0	0	0	0	0	288	288	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	288	0	0	(3)
	計(本)	85	85	0	0	0	288	288	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79	373	0	0	(79)
	支給材使用率	0.0						0.0						100.0						17.5			
合計	小計(本)	85	85	0	0	0	407	407	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	157	492	0	0	(157)
	合計(本)	85						407						157						649			
	支給材使用率	0.0						0.0						100.0						24.2			
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
地被類	芝生(㎡)	0	0	0	0	0	386	386	0	0	0	0	398	398	0	0	0	0	0	784	0	0	(0)
	草本地被(株)	723	723	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84	84	0	0	0	0	75	807	0	0	(75)
	草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	6	0	0	(0)

所管 樹種		動物園														合 計							
		東部公園緑地事務所						指定管理者						小 計									
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給										
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産													
樹木	針葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,624	0	0	(20)	0.4	
	常緑樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	833	14	2	(97)	11.9	
	落葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	522	67	3	(45)	18.1	
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,979	81	5	(162)	4.0	
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0				4.0					
	株物	常緑株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,431	510	82	(988)	11.3
		落葉株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,467	110	32	(542)	16.5
		計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15,898	620	114	(1,530)	12.5
		支給材使用率	0.0						0.0						0.0				12.5				
	合計	小計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21,877	701	119	(1,692)	10.3
		合計(本)	0						0						0				24,389				
		支給材使用率	0.0						0.0						0.0				10.3				
	特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0
		株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,755	0	0	(0)	0
		株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0
	地被類	芝生(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,888	3,598	0	(0)	14
		草本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,478	0	226	(75)	6
		草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,734	0	0	(0)	0
		木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218	0	0	(0)	0

(3) 過去40年間における都立公園等の植栽実績（昭和58年度から令和4年度）

年度	種別	針葉樹	常緑樹	落葉樹	合計	支給材率％
昭和58年度	高中木(本)	1,063	9,538	5,369	15,970	61
昭和59年度	高中木(本)	445	4,425	3,977	8,847	32
昭和60年度	高中木(本)	602	9,448	5,753	15,803	14
昭和61年度	高中木(本)	692	10,864	5,325	16,881	17
昭和62年度	高中木(本)	762	14,589	4,946	20,297	13
昭和63年度	高中木(本)	447	10,052	5,159	15,658	11
	低 木(株)	0	158,951	74,436	233,387	7
平成元年度	高中木(本)	187	4,765	2,245	7,197	10
	低 木(株)	0	91,836	27,355	119,191	8
平成2年度	高中木(本)	212	7,428	6,172	13,812	24
	低 木(株)	0	84,338	28,092	112,430	33
平成3年度	高中木(本)	508	16,127	5,513	22,148	8
	低 木(株)	0	166,926	62,093	229,019	11
平成4年度	高中木(本)	331	5,240	1,751	7,322	12
	低 木(株)	0	48,632	11,894	60,526	21
平成5年度	高中木(本)	291	3,034	1,405	4,730	16
	低 木(株)	0	32,027	14,062	46,089	17
平成6年度	高中木(本)	891	2,120	2,327	5,338	18
	低 木(株)	0	57,765	28,383	86,148	42
平成7年度	高中木(本)	379	4,556	2,123	7,058	16
	低 木(株)	0	68,235	35,956	104,191	14
平成8年度	高中木(本)	96	2,827	1,904	4,827	14.6
	低 木(株)	0	49,234	15,683	64,917	15.1
平成9年度	高中木(本)	230	5,551	1,789	7,570	10.3
	低 木(株)	0	22,970	17,861	40,831	9.1
平成10年度	高中木(本)	301	3,453	1,974	5,728	13.2
	低 木(株)	0	21,132	11,947	33,079	9.9
平成11年度	高中木(本)	74	3,504	1,661	5,239	10.8
	低 木(株)	0	28,749	8,752	37,501	9.6
平成12年度	高中木(本)	72	3,776	1,568	5,416	6.8
	低 木(株)	0	11,452	14,642	26,094	1.9
平成13年度	高中木(本)	9	1,062	658	1,729	6.2
	低 木(株)	0	16,489	10,094	26,583	1.9
平成14年度	高中木(本)	447	1,064	1,942	3,453	3.8
	低 木(株)	0	27,043	16,214	43,257	0.2
平成15年度	高中木(本)	58	1,934	1,660	3,652	7.7
	低 木(株)	240	23,665	10,870	34,775	0.1
平成16年度	高中木(本)	101	1,088	1,267	2,456	3.9
	低 木(株)	0	21,951	11,518	33,469	0.0
平成17年度	高中木(本)	324	2,284	1,716	4,324	4.6
	低 木(株)	0	17,159	13,144	30,303	5.0
平成18年度	高中木(本)	13	1,062	1,203	2,278	5.7
	低 木(株)	0	20,470	7,223	27,693	0.5
平成19年度	高中木(本)	2	600	849	1,451	4.1
	低 木(株)	0	12,989	4,502	17,491	0.1
平成20年度	高中木(本)	228	2,199	1,189	3,616	32.7
	低 木(株)	0	31,815	11,228	43,043	11.1
平成21年度	高中木(本)	165	1,885	1,460	3,510	5.2
	低 木(株)	0	37,864	11,075	48,939	6.7
平成22年度	高中木(本)	69	11,625	8,468	20,162	5.4
	低 木(株)	50	21,492	5,559	27,101	0.6
平成23年度	高中木(本)	234	15,805	7,070	23,109	13.1
	低 木(株)	0	11,028	3,915	14,943	35.8
平成24年度	高中木(本)	273	3,372	5,982	9,627	24.8
	低 木(株)	0	21,626	4,085	25,711	21.6
平成25年度	高中木(本)	353	3,319	1,065	4,737	26.9
	低 木(株)	0	11,689	6,067	17,756	18.6
平成26年度	高中木(本)	307	4,296	1,983	6,586	23.4
	低 木(株)	0	9,105	3,107	12,212	23.6
平成27年度	高中木(本)	36	4,150	1,420	5,606	30.6
	低 木(株)	0	13,673	2,890	16,563	7.2
平成28年度	高中木(本)	345	1,547	1,697	3,589	30.0
	低 木(株)	0	13,183	4,566	17,749	24.2
平成29年度	高中木(本)	1,490	2,483	1,656	5,629	33.6
	低 木(株)	0	9,985	6,473	16,458	29.5
平成30年度	高中木(本)	4	617	653	1,274	28.1
	低 木(株)	0	26,191	17,989	44,180	7.6
令和元年度	高中木(本)	818	1,848	958	3,624	22.8
	低 木(株)	0	9,557	6,596	16,153	26.1
令和2年度	高中木(本)	406	2,410	1,001	3,817	9.6
	低 木(株)	0	13,569	6,608	20,177	5.1
令和3年度	高中木(本)	2,625	554	423	3,602	11.0
	低 木(株)	0	11,756	6,325	18,081	9.4
令和4年度	高中木(本)	4,644	946	637	6,227	4.0
	低 木(株)	0	14,011	4,151	18,162	12.5

※平成23年度からの「支給材率」には「産労支給材」も含む。

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種(高・中・低木別)

高木

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	サ ク ラ 類 (238)	カ エ デ 類 (170)	サ ク ラ 類 (100)	サ ク ラ 類 (225)	サ ク ラ 類 (92)
2	カ エ デ 類 (84)	サ ク ラ 類 (157)	ソ ヨ ゴ (86)	シ ラ カ シ (96)	コ ナ ラ (47)
3	シ ラ カ シ (82)	シ ラ カ シ (67)	カ ク レ ミ ノ (81)	カ エ デ 類 (44)	サル ス ベ リ (32)
4	エ ゴ ノ キ (19)	ニ オ イ ヒ バ (50)	シ ラ カ シ (64)	ア カ テ ツ (19)	モ ッ コ ク (32)
5	コ ナ ラ (17)	アメリカデイゴ (40)	イ ス ノ キ (41)	コ ブ ガ シ (18)	カ エ デ 類 (29)
6	ク ヌ ギ (12)	ナンキンハゼ (40)	ナンキンハゼ (40)	モ チ ノ キ (16)	ヤ マ ボ ウ シ (23)
7	ソ ヨ ゴ (12)	テ リ ハ ボ ク (32)	ネ ム ノ キ (36)	サル ス ベ リ (14)	ソ ヨ ゴ (14)
8	イ ヌ シ デ (11)	ソ ヨ ゴ (29)	ア ラ カ シ (35)	ス ダ ジ イ (10)	ケ ヤ キ (13)
9	常緑ヤマボウシ (11)	ネ ム ノ キ (28)	モ チ ノ キ (28)	クロガネモチ (10)	マ ツ (12)
10	モ チ ノ キ (10)	ハナカイドウ (20)	カ エ デ 類 (27)	タ コ ノ キ (10)	イ ヌ シ デ (11)
	ヤ マ ボ ウ シ (10)	マ テ バ シ イ (20)			

中木

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	トキワマンサク (112)	マ サ キ (182)	ヒ サ カ キ (775)	イ ヌ ツ ゲ (144)	カ ナ メ モ チ (330)
2	キョウチクトウ (85)	トキワマンサク (140)	ブ ラ シ ノ キ (545)	ヒ イ ラ ギ イ モ ク セ イ (113)	トキワマンサク (238)
3	イ ヌ ツ ゲ (65)	カ ナ メ モ チ (136)	ア オ キ (299)	カ ナ メ モ チ (110)	キンモクセイ (181)
4	マ ユ ミ (62)	イ ヌ ツ ゲ (56)	マ サ キ (164)	ギンモクセイ (22)	ウ バ メ ガ シ (154)
5	シマシャリン バイ (46)	サ ザ ン カ (49)	ヒ イ ラ ギ イ モ ク セ イ (127)	オ リ ー ブ (16)	マ キ (83)
6	ギンモクセイ (27)	オ リ ー ブ (48)	マ ン サ ク (121)	シ モ ク レ ン (15)	ヒ イ ラ ギ イ モ ク セ イ (35)
7	セ イ ヨ ウ カ ナ メ モ チ (26)	シ ャ ク ナ ゲ (47)	カ ナ メ モ チ (109)	ア オ キ (5)	ハナカイドウ (23)
8	ハナカイドウ (18)	スモークツリー (40)	イ ヌ ツ ゲ (86)	レ イ ラ ン ド ヒ ノ キ (5)	シマシャリン バイ (20)
9	ライラック (17)	キョウチクトウ (24)	ニ シ キ ギ (50)	リ ン ゴ (4)	マ サ キ (18)
10	ヤ ブ ツ バ キ (16)	セイヨウヒイラギ (23)	シ ャ ク ナ ゲ (43)	キンモクセイ (3)	ウ メ (17)

低木

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	サツキツツジ (5, 449)	サツキツツジ (2, 866)	ア ジ サ イ (1, 790)	サツキツツジ (2, 501)	サツキツツジ (3, 191)
2	ヒペリカム カリシナム (4, 165)	オオムラサキ ツ ツ ジ (1, 159)	シャリンバイ (1, 742)	ドウダンツツジ (2, 059)	クルメツツジ (1, 641)
3	ア ジ サ イ (3, 890)	ヤ マ ブ キ (1, 058)	サツキツツジ (1, 645)	ハクチョウゲ (2, 040)	サ ワ ラ (1, 398)
4	ラベンダー (2, 580)	ユキヤナギ (946)	ドウダンツツジ (1, 545)	クルメツツジ (1, 917)	シャリンバイ (1, 129)
5	ユキヤナギ (2, 409)	クルメツツジ (940)	オオムラサキ ツ ツ ジ (1, 224)	ア ジ サ イ (1, 025)	ハイビャクシン (1, 070)
6	ヒペリカム ヒデコウト (2, 225)	ク チ ナ シ (896)	ア ベ リ ア (939)	レンギョウ (845)	オ タ フ ク ナ ン テ ン (965)
7	ドウダンツツジ (1, 350)	シャリンバイ (892)	レ ン ギ ヨ ウ (925)	ジンチョウゲ (703)	フィリフェラ オーレア (890)
8	ヤ マ ブ キ (1, 311)	ア ジ サ イ (779)	ハクチョウゲ (910)	ヒラドツツジ (690)	セ イ ヨ ウ イ ワ ナ ン テ ン (812)
9	クルメツツジ (1, 113)	ハイビャクシン (734)	ヒラドツツジ (745)	ア ベ リ ア (658)	ドウダンツツジ (758)
10	クリシマツツジ (1, 075)	ドドナセア (580)	キンシバイ (725)	ユキヤナギ (610)	オオムラサキ ツ ツ ジ (729)

4. 委託調査一覧（R4年度）

R4年度に実施された主な調査委託

◆調査委託（R4年度）

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
都立公園水質調査委託	R4.4.1－R5.2.28	上野恩賜公園、浜離宮庭園、石神井公園、葛西臨海公園、浮間公園、舎人公園、和田堀公園	東部公園緑地事務所	都立公園の池について、特に水質監視の必要な池を対象に水質調査を行った。15項目(葛西・石神井・和田堀は16項目) 各池4回/年(葛西のみ16回)
石神井公園三宝寺池水生植物保護委託	R4.4.1－R5.2.28	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の保護及び増殖を図るとともに、本来の景観を回復させることを目的に、水生生物の保護管理を行った。
石神井公園三宝寺池植物群落復元追跡調査委託	R4.4.1－R5.3.31	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の復元のために実施している保護管理作業の効果について追跡調査を行い、今後の維持管理方法を検討した。
石神井公園石神井池モニタリング等業務委託	R4.4.1－R5.3.30	石神井公園	東部公園緑地事務所	生物多様性保全整備工事後のモニタリング調査を行った。
上野恩賜公園不忍池水質改善対策設計	R4.4.1－R5.2.28	上野恩賜公園	東部公園緑地事務所	不忍池の水質改善のための、浚渫等に係る設計を行った。
水元公園苗圃保護管理委託	R4.4.1－R5.2.28	水元公園	東部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
砧公園生物多様性保全利用計画策定業務	R3.5.31－R4.10.19	砧公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、砧公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施
浮間公園生物多様性保全利用計画策定業務委託	R3.5.31－R4.8.30	浮間公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、浮間公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施
光が丘生物多様性保全利用計画策定業務	R4.5.27－R5.8.30	光が丘公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、光が丘公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施
舎人公園生物多様性保全利用計画策定業務	R4.5.27－R5.8.30	舎人公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、舎人公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施

◆調査委託(R4年度)

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
大戸緑地希少猛禽類調査委託(4-5)	R4.12.7～ R5.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少生物調査委託(4-5)	R4.12.6～ R5.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少生物の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(4-5)	R4.10.4～ R5.9.29	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少猛禽類調査委託(3-4)	R3.10.13～ R4.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
井の頭恩賜公園水質環境調査委託(4)	R4.4.1～ R5.3.24	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の状況を把握するため、水質調査、底質調査、プランクトン調査を実施した。
井の頭恩賜公園水草再生調査委託(4)	R4.4.1～ R5.3.24	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた資料として、水草調査等を実施した。
井の頭恩賜公園水生生物都民協働運営業務委託(4)	R4.4.1～ R5.3.24	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた水生生物のモニタリング調査、普及啓発、外来生物駆除を実施した。
武蔵野苗圃ほか1苗圃保護管理委託(単価契約)	R4.4.1～ R5.3.31	武蔵野公園、小宮公園	西部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
井の頭恩賜公園水生植物管理育成委託(4)	R4.4.1～ R5.3.24	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の土壌シードバンクから発芽した水草の育成管理を実施した。

5. 令和5年度 花の見ごろ情報 年間リスト

月	5・6月	7・8月	9・10月	11・12月	1・2月	3・4月
表紙／今月の花	ハクウンボク アメリカデイゴ	ムクゲ ヒマワリ	サザンカ ヒガンバナ	クリスマスローズ パンパスグラス	カワヅザクラ ウメ	サトザクラ (イチヨウ) ハナミズキ
紹介公園	秋留台公園 井の頭恩賜公園 上野恩賜公園 葛西臨海公園 砧公園 木場公園 小金井公園 潮風公園 石神井公園 神代植物公園 善福寺公園 浜離宮恩賜庭園 光が丘公園 日比谷公園 水元公園 武蔵野公園 夢の島公園 代々木公園 蘆花恒春園 和田堀公園	浮間公園 葛西臨海公園 小金井公園 駒沢オリンピック公園 神代植物公園 善福寺川緑地 東京臨海広域防災公園 東綾瀬公園 横網町公園 蘆花恒春園	井の頭自然文化園 大泉中央公園 亀戸中央公園 清澄庭園 狭山・境緑道 汐入公園 潮風公園 石神井公園 野川公園 東綾瀬公園 横網町公園	青山公園 秋留台公園 大泉中央公園 大島小松川公園 葛西臨海公園 旧岩崎邸庭園 駒沢オリンピック公園 狭山公園 神代植物公園 中川公園 武蔵国分寺公園 武蔵野中央公園 夢の島熱帯植物館	井の頭恩賜公園 小山内裏公園 砧公園 旧古河庭園 小石川後楽園 小金井公園 猿江恩賜公園 汐入公園 篠崎公園 芝公園 神代植物公園 光が丘公園 向島百花園 水元公園 武蔵野の森公園 代々木公園 林試の森公園	秋留台公園 上野恩賜公園 亀戸中央公園 砧公園 小金井公園 旧芝離宮恩賜庭園 清澄庭園 桜ヶ丘公園 汐入公園 神代植物公園 舎人公園 浜離宮恩賜庭園 東綾瀬公園 日比谷公園 武蔵野公園 武蔵野の森公園 代々木公園
花の香り等 (写真)	カラタネオガタマ	ラベンダー	キンモクセイ ギンモクセイ	ロウバイ	ジンチョウゲ	フジ

花の香り

今回は、5月下旬～6月上旬に見ごろを迎え、甘い香りがするカラタネオガタマを紹介します。



カラタネオガタマ モクレン科オガタマノキ属 学名: *Michelia figo*

中国南部原産の常緑小高木で、高さは4mほどに成長します。クリーム色の半開状に開く花の直径は3cm程度と小さく、葉に隠れてあまり目立つ花ではありませんが、この木の周辺を歩くだけで熟したバナナの甘い匂いが辺り一面に漂うので、カラタネオガタマが周辺あることがわかります。その花の香りから英名では、banana shrub (バナナ・シュラブ) といえます。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については [都立公園イベントカレンダー](#) 検索

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_calendar.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



この印刷物は、印刷物の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (5) 3

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2023
5・6



ハクウンボク

今月の花



アメリカデイゴ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

今月の花

ハクウンボク (オオバチシャ) エゴノキ科エゴノキ属 学名: *Styrax obassia*

原産は、日本、朝鮮半島、中国、落葉の高木で6~15m程に成長します。日本では、丘陵地から山地に多く自生しており、5月頃に、白い花が藤の花のように連なって咲きます。樹全体を真っ白な花が群がって咲く様子が白雲に見えたことに由来します。9~11月に卵形の実が稲穂のように連なって垂れ下がり、熟すと中から褐色の種子ができます。種子は油脂を多く含み、江戸時代には和蠟燭の原料として利用されていました。この実の果皮は有毒ですが、ヤマガラは実だけを好んで餌にします。

また、ヨーロッパに紹介したのはシーボルトで、学名の種小名 *obassia* は、別名オオバチシャから命名されています。エゴノキの別名のヂシャノキに対して葉が大きいことからオオバチシャといわれます。

ハクウンボクは、砧公園、蘆花恒春園、木場公園、武蔵野公園、光が丘公園、小金井公園、石神井公園、和田堀公園、秋留台公園、井の頭恩賜公園、善福寺公園、水元公園、浜離宮恩賜庭園などでご覧いただけます。

アメリカデイゴ (カイコウス) マメ科デイゴ属 学名: *Erythrina crista-galli*

原産は南アメリカ。落葉小高木で樹高は5~7mに成長します。日本では関東以南の温暖な地域で植栽されており、5月末から6月初旬にかけて、マメ科の特徴である蝶型をした深紅の花が枝先に咲きほこります。

日本では鹿児島県の県木となっているほか、アルゼンチンとウルグアイの国花となっています。

学名の種小名 *crista-galli* ラテン語で「鶏の鶏冠」を意味しており、日本に渡来したのは江戸時代末期と言われています。和名の海紅豆 (カイコウス) は、もともと別の植物であるナンバンアカアズキを指しますが、誤って本種に当てられたようです。

アメリカデイゴは、上野恩賜公園、日比谷公園、木場公園、葛西臨海公園、潮風公園、夢の島公園、砧公園、代々木公園、神代植物公園、浜離宮恩賜公園などでご覧いただけます。

お問 合 せ 先

● 秋 留 台 公 園	あきる野市二宮 673-1	☎ 042-559-6910
● 井の頭恩賜公園	武蔵野市御殿山 1-18-31	☎ 0422-47-6900
● 上野恩賜公園	台東区上野公園 5-20	☎ 03-3828-5644
● 葛西臨海公園	江戸川区臨海町 6-2-1	☎ 03-5696-1331
● 砧 公 園	世田谷区砧公園 1-1	☎ 03-3700-0414
● 木 場 公 園	江東区平野 4-6-1	☎ 03-5245-1770
● 小 金 井 公 園	小金井市関野町 1-13-1	☎ 042-385-5611
● 潮 風 公 園	品川区東八潮 1-2	☎ 03-5500-0385
● 石 神 井 公 園	練馬区石神井台 1-26-1	☎ 03-3996-3950
● 神代植物公園	調布市深大寺元町 5-31-10	☎ 042-483-2300
● 善 福 寺 公 園	杉並区善福寺 3-9-10	☎ 03-3396-0825
● 浜離宮恩賜庭園	中央区浜離宮庭園 1-1	☎ 03-3541-0200
● 光 が 丘 公 園	練馬区光が丘 4-1-1	☎ 03-3977-7638
● 日 比 谷 公 園	千代田区日比谷公園 1-6	☎ 03-3501-6428
● 水 元 公 園	葛飾区水元公園 3-2	☎ 03-3607-8321
● 武 蔵 野 公 園	府中市多磨町 2-24-1	☎ 042-361-6861
● 夢 の 島 公 園	江東区夢の島 2-1-2	☎ 03-3522-0281
● 代 々 木 公 園	渋谷区代々木神園町 2-1	☎ 03-3469-6081
● 蘆 花 恒 春 園	世田谷区粕谷 1-20-1	☎ 03-3302-5016
● 和 田 堀 公 園	杉並区大宮 1・2 丁目、成田東 1・2 丁目他	☎ 03-3313-4247

花の香り

今回は、6月下旬～7月上旬に見ごろを迎え、爽やかな香りがするラベンダーを紹介します。



ラベンダー シソ科ラベンダー属 学名: Lavandula

地中海沿岸から西アジア原産の低木で、高さは30cm～1m程度に成長します。ラベンダーの種類は20種類ほどあると言われており、通常、紫色の花を見ることが多いですが、赤味がかった紫から白色の花などがあり、写真は、ウサギの耳のような花が特徴のストエカス系の品種です。都立公園では、香りが高く高温多湿に強いラバンディン系が多く植えられおり、リラックス効果のある香りが園内で楽しめます。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2か月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372, 5365



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (5) 19

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2023
7・8



ムクゲ

今月の花



ヒマワリ

都立公園散策アプリ「Tokyo Parks Navi」



Android版



iOS版

今月の花

ムクゲ (ハチス) アオイ科フヨウ属 学名: *Hibiscus syriacus*

原産は、中国、落葉の小高木で株立ち状に3~4m程に成長します。

日本には、平安時代に渡来し、古くから庭木や生垣等で利用されてきました。夏の花の少ない7月頃から大輪の花が9月頃まで次々と早朝に開花した花は夕方には萎んで落ちてしまう一日花が次々と咲き誇ります。花は白やピンク、紫など様々な花色や、一重や八重咲など多くの品種があり、韓国ではムクゲは無窮花(ムグンファ)と呼ばれ国花として親しまれています。

ムクゲの仲間にはハイビスカスやフヨウなど夏に鮮やかな大輪の花を咲かせ、長く鑑賞できる植物が多くあります。

ムクゲは、駒沢オリンピック公園・神代植物公園・善福寺川緑地・東綾瀬公園・横網町公園などでご覧いただけます。

ヒマワリ キク科ヒマワリ属 学名: *Helianthus annuus*

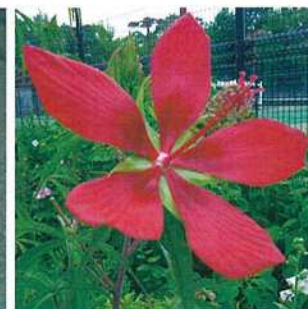
ヒマワリは北アメリカ原産で、野生のものは60種ほどが知られており、そのほとんどが一年草で花もさほど大きくありませんでした。日本には17世紀に伝来し、一般的に見られる大輪のものは品種改良によってつくられたものです。ヒマワリの属名ヘリアンサスは「太陽」と「花」という意味を持つ2つの言葉からなっています。英名はサンフラワーと呼ばれ、花の姿から太陽に由来します。ヒマワリは作物としても重要な植物で、ウクライナでは戦争前までは世界で生産されるヒマワリ油のうち約5割が生産されていました。ヒマワリの花径が30cm以上にもなり、草丈も4mになるものから、30cm程度の高さのものなど多くの品種があります。

ヒマワリは、浮間公園・葛西臨海公園・小金井公園・東京臨海広域防災公園・蘆花恒春園などでご覧いただけます。

ムクゲの仲間



ハイビスカス



モミジアオイ



フヨウ

お問合せ先

- 浮間公園：板橋区舟渡 2-15-1 ☎03-3969-9168
- 葛西臨海公園：江戸川区臨海町 6-2-1 ☎03-5696-1331
- 小金井公園：小金井市関野町 1-13-1 ☎042-385-5611
- 駒沢オリンピック公園：世田谷区駒沢公園 1-1 ☎03-3421-6431
- 神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10 ☎042-483-2300
- 善福寺川緑地：杉並区成田西 1-30-27 ☎03-3313-4247
- 東京臨海広域防災公園：江東区有明 3-8-35 ☎03-3529-2180
- 東綾瀬公園：足立区東綾瀬 3-4 ☎03-3605-0005
- 横網町公園：墨田区横網 2-3-25 ☎03-3622-1208
- 蘆花恒春園：世田谷区粕谷 1-20-1 ☎03-3302-5016

花の香り

今回は、9月下旬～10月中旬に見ごろを迎え、甘く芳醇な強い香りがするキンモクセイとほのかな甘い香りのギンモクセイを紹介します。



キンモクセイ (金木犀)
モクセイ科モクセイ属

学名: *Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*



ギンモクセイ (銀木犀)
モクセイ科モクセイ属

学名: *Osmanthus fragrans*

キンモクセイは、中国原産の常緑小高木で、9月下旬から10月中旬にかけて、黄色みがかった橙色の花を咲かせます。甘く芳醇な強い香を放ち、遠く離れた場所からでも香りがわかります。一方、ギンモクセイの花は白く、顔を近づけると感じられる程度のほのかな甘い香りです。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。
YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については
または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページ

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/hananomigoro/index.html>

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372, 5365

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (5) 34

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2023

9・10



サザンカ

今月の花



ヒガンバナ

Tokyo park
150 years



サザンカ (山茶花) ツバキ科ツバキ属 *Camellia sasanqua*

サザンカは、ツバキ科に属する常緑小高木で、南西日本の固有種です。日本国外では台湾、中国、インドネシアに分布します。野生のものは白い一重の花を咲かせますが、江戸時代から園芸植物として愛され、赤、桃色、模様入りなど30を超える品種が作られました。ツバキと形態が似ていますが、サザンカは、落葉時期の秋冬に花を咲かせるのが特徴です。見分け方としてサザンカが甘い香りのする花が10月から12月に咲き、花が終わると花弁がバラバラとなって落ちます。ツバキは12月から4月の花の少ない冬季に咲くほか、咲き終わった花は、花の形を保ったまま地面に落ちることで見分けられます。亀戸中央公園では江東区の花であるサザンカが随所に植えられており、都内屈指の名所となっています。

都立公園では、亀戸中央公園、井の頭自然文化園、狭山・境緑道、横網町公園などでご覧いただけます。

ヒガンバナ (彼岸花) ヒガンバナ科ヒガンバナ属 *Lycoris radiata*

ヒガンバナは、多年草で、その名のとおり秋の彼岸の時期になると田のあぜや土手などで一斉に花を咲かせます。葉もなくずっと伸びた茎に鮮やかな紅色の花を放射線状に5~7個つけ、花が終わると線形の葉を広げ、冬の間青々とした葉が地面を覆い尽くした葉は4月頃には枯れてしまい、彼岸の時期まで休眠します。稲作と同じ頃に中国から渡来したといわれるヒガンバナは、マンジュシャゲ(曼珠沙華)、ハミズハナミズ(葉見ず花見ず)、ユウレイバナ(幽霊花)など全国各地に1000をも超える呼び名があり、人間の生活に深いかかわりのあった花であることが伺えます。ヒガンバナは有毒植物としても知られ、特にりん茎には強い毒性があるため誤食すると中毒症状を引き起こすことがあります。都立公園では野川公園、横網町公園、大泉中央公園、石神井公園、潮風公園、汐入公園、清澄庭園、東綾瀬公園などでご覧いただけます。



亀戸中央公園のサザンカ



野川公園のヒガンバナ

お 問 合 せ 先

● 井の頭自然文化園：武蔵野市御殿山 1-17-6	☎ 0422-46-1100
● 大 泉 中 央 公 園：練馬区大泉学園町 9-4-3	☎ 03-3867-8096
● 亀 戸 中 央 公 園：江東区亀戸 9-37-28	☎ 03-3636-2558
● 清 澄 庭 園：江東区清澄 3-3-9	☎ 03-3641-5892
● 狭 山・境 緑 道：小平市花小金井南町 1・2・3 丁目、 東村山市萩山町 1・2・3 丁目他	☎ 0422-31-6457
● 汐 入 公 園：荒川区南千住 8-13-1	☎ 03-3807-5181
● 潮 風 公 園：品川区東八潮 1-2	☎ 03-5500-0385
● 石 神 井 公 園：練馬区石神井台 1-26-1	☎ 03-3996-3950
● 野 川 公 園：三鷹市大沢 6-4-1	☎ 0422-31-6457
● 東 綾 瀬 公 園：足立区東綾瀬 3-4	☎ 03-3605-0005
● 横 網 町 公 園：墨田区横網 2-3-25	☎ 03-3622-1208



花の香り

今回は、12月下旬から咲き始め、甘い香りがするロウバイを紹介いたします。



ロウバイ ロウバイ科ロウバイ属 学名:Chimonanthus praecox

中国原産の落葉中木で、高さは4mほどに成長します。花はロウ細工のような半透明の光沢のある黄色い花です。花の中心部が赤紫色をしているものがロウバイで、花全体が黄色いものはソシンロウバイという園芸品種となります。漢字では蜡梅と書きますが、梅の仲間ではありません。梅より早く、真冬の正月あたりから濃厚な甘い香りの花が咲き出すことから、英名では、winter sweet (ウィンタースウィート) と呼ばれています。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページは右のQRコード

または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。

過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



【花の見ごろ情報】

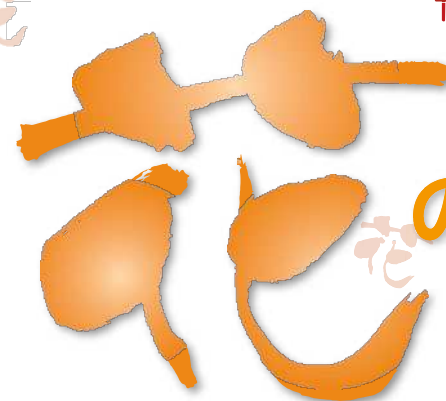
リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類

登録番号 (5) 40

The best time to see flowers.



花の見ごろ情報

2023

11・12



クリスマスローズ

今月の花



パンパスグラス

Tokyo park
150 years
東京都公園制度制定50周年
1973 Anniversary

今月の花

クリスマスローズ キンポウゲ科ヘレボルス属 学名:Helleborus × hybridus

クリスマスローズはキンポウゲ科ヘレボルス属の宿根草です。原産地は、地中海沿岸から中部ヨーロッパ、西アジアに約20種類の原種が自生しています。この原種を交配してできた花は、白や黄色、ワインレッドなど多彩で、一重咲きや八重咲など変化にとんだ花が楽しめます。この花の名前は、ヨーロッパでは一重バラ咲きの白いバラに似た花がクリスマスの頃に咲いていたことから名付けられたと言われています。クリスマスローズは実際にはバラ科の植物ではなく、学名は黒い根に由来しています。日本では、12月から4月頃まで様々な色や形の花を楽しむことができます。

クリスマスローズは、青山公園、大泉中央公園、大島小松川公園、旧岩崎邸庭園、狭山公園、神代植物公園、中川公園、武蔵国分寺公園、武蔵野中央公園などでご覧いただけます。

パンパスグラス (シロガネヨシ) イネ科シロガネヨシ属 学名:Cortaderia selloana

パンパスグラスは、南アメリカ原産の多年生草本植物で、その大きな外観からお化けススキと呼ばれています。日本には明治の中頃に入ってきたと言われています。公園などの広い場所で植えられ、花穂は切り花やドライフラワーとしても利用されます。パンパスグラスは、高さが2～3メートルにもなることがあり、ふさふさした花穂は、銀白色やピンクなどの色彩豊かな花で覆われ、羽毛のようにやわらかな花穂が風に揺れる様子が美しい植物です。パンパスグラスは乾燥にも強く、明るい場所を好みます。広大な芝生広場などでは一段とその優雅な姿が魅力的な植物です。

パンパスグラスは秋留台公園、大島小松川公園、葛西臨海公園、駒沢オリンピック公園、神代植物公園、夢の島熱帯植物館などでご覧いただけます。

この時季に見られる他の花々



サザンカ



キク

お問合せ先

● 青山公園	港区南青山 2-32-2	☎ 03-3470-3223
● 秋留台公園	あきる野市二宮 673-1	☎ 042-559-6910
● 大泉中央公園	練馬区大泉学園町 9-4-3	☎ 03-3867-8096
● 大島小松川公園	江東区大島 9-9	☎ 03-3636-9365
● 葛西臨海公園	江戸川区臨海町 6-2-1	☎ 03-5696-1331
● 旧岩崎邸庭園	台東区池之端 1-3-45	☎ 03-3823-8340
● 駒沢オリンピック公園	世田谷区駒沢公園 1-1	☎ 03-3421-6431
● 狭山公園	東村山市多摩湖町 3-17-19	☎ 042-393-0154
● 神代植物公園	調布市深大寺元町 5-31-10	☎ 042-483-2300
● 中川公園	足立区中川 5-1-1	☎ 03-3629-8164
● 武蔵国分寺公園	国分寺市泉町 2-1-1	☎ 042-323-8123
● 武蔵野中央公園	武蔵野市八幡町 2-4-22	☎ 0422-54-1884
● 夢の島熱帯植物館	江東区夢の島 2-1-2	☎ 03-3522-0281



花の香り

今回は、2月下旬から咲き始め、甘く香りのよい花を咲かせるジンチョウゲを紹介いたします。



ジンチョウゲ (沈丁花) ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属 学名:Daphne odora

原産地は中国南部の常緑低木。

枝の先に紫紅色や白色の花が10～20個手毬のように固まって咲きます。

名前の由来は、諸説ありますが、香りのよいことで有名な「沈香」と「丁子」に由来し、芳しい香りがすることからつけられたといわれています。

ジンチョウゲの香りは華やかで甘みがあり、遠くまで届く特徴があります。

夏のクチナシ、秋のキンモクセイとともに、日本の三大芳香木の一つに挙げられています。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。

YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については

または、下記のアドレスにアクセスしてください。

https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

◇花の見ごろ情報は、年6回(2ヵ月ごと)の発行を予定しています。

◇花の見ごろ情報のホームページは右のQRコード

または、花の見ごろ情報東京建設局で検索してください。

過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



【花の見ごろ情報】

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

印刷物規格表第1類
登録番号 (5) 53

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2024

1・2

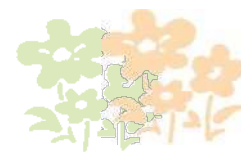


カワヅザクラ

今月の花



ウメ



カワヅザクラ (河津桜) バラ科 サクラ属 学名:Cerasus×Kanzakura 'Kawazu-zakura'

カワヅザクラは落葉高木で樹高は5m～7m くらいになります。

原木は河津川の河原で野生状態で発見され、のちに静岡県河津町に移植されました。伊豆半島南部の伊豆急行河津駅近くの河津川河口ではカワヅザクラ並木が3キロほど続きます。

カワヅザクラはカンヒザクラと他の種との交配種の早咲きのサクラの一種で、2月初旬ころから開花し始めます。

直径4センチほどの大きさの一重咲きの花で、やや下向きに咲きます。

蕾や咲き始めのときは濃いピンク色をし、満開時にはピンク色になり、徐々に色あせていき、色の変化が楽しめます。

花の少ない時期に1ヵ月ほど咲き続け、春の訪れを感じさせてくれる花です。

カワヅザクラは、小山内裏公園、篠崎公園、神代植物公園、水元公園、武蔵野の森公園、代々木公園、林試の森公園などでご覧いただけます。

ウメ (梅) バラ科 サクラ属 学名:Prunus mume var.purpurea

ウメは中国原産の落葉高木で樹高は5m～6mほどに成長します。

「万葉集」には、ウメを詠んだ歌が多く登場し、その数は118首、ハギに次ぐ人気の花でした。奈良時代には、「花見」といえば梅の花を楽しんでいたそうです。

鎌倉時代以降は武士や庶民にも広まり、江戸時代に入ると梅干しとして利用され農家にも広く栽培されるとともに園芸ブームにより数多くの品種が作出されました。

花は葉が出る前に咲きます。

白色の一重咲きが基本ですが、品種が多く、色は淡紅色、紅白の咲き分け、紅色、咲き方は八重咲、枝垂れ咲きなど様々で香りも楽しめます。

ウメは井の頭恩賜公園、砧公園、旧古河庭園、小石川後楽園、猿江恩賜公園、芝公園、神代植物公園、府中の森公園などでご覧いただけます。



カワヅザクラ



ウメ

お問 合 せ 先

● 井の頭恩賜公園：武蔵野市御殿山 1-18-31	☎ 0422-47-6900
● 小山内裏公園：町田市小山ヶ丘 4-4	☎ 042-676-8865
● 砧公園：世田谷区砧公園 1-1	☎ 03-3700-0414
● 旧古河庭園：北区西ヶ原 1-27-39	☎ 03-3910-0394
● 小石川後楽園：文京区後楽 1-6-6	☎ 03-3811-3015
● 猿江恩賜公園：江東区毛利 2-13-7	☎ 03-3631-9732
● 篠崎公園：江戸川区上篠崎 1-25-1	☎ 03-3670-4080
● 芝公園：港区芝公園 4-10-17	☎ 03-3431-4359
● 神代植物公園：調布市深大寺元町 5-31-10	☎ 042-483-2300
● 水元公園：葛飾区水元公園 3-2	☎ 03-3607-8321
● 武蔵野の森公園：府中市朝日町 3-5-12	☎ 042-365-8435
● 代々木公園：渋谷区代々木神園町 2-1	☎ 03-3469-6081
● 林試の森公園：品川区小山台 2-6-11	☎ 03-3792-3800



花の香り

今回は、4月中旬から咲き始め、甘く優しい香りのするフジを紹介いたします。



フジ(藤) マメ科フジ属 学名:Wisteria floribunda

フジは、日本の伝統的な風景や文化にも深く関わっており、古くから、枕草子や万葉集でもその優美さを読まれるなど、詩歌や絵画の題材として愛されています。東京では4月中旬に花が咲き、甘く芳しい香りが人気の穏やかな気持ちを与えてくれます。

公園の紹介

動画共有サービス YouTube にて各公園の情報を発信しています。YouTubeサイトで検索Qマークに「東京都公園協会」、「TOKYO EAST PARK」、「西武・パークレンジャー」と入力してください。

イベント情報

都立公園イベント情報については
または、下記のアドレスにアクセスしてください。
https://www.metro.tokyo.lg.jp/event/index_list.html

都立公園イベントカレンダー 検索

◇花の見ごろ情報の紙面での情報提供は今号で最後となります。

◇引き続き都立公園の花などの情報については東京都建設局公園のHPで閲覧することができます。右のQRコードからアクセスしてください。

◇花の見ごろ情報のホームページは右のQRコード または、花の見ごろ情報東京都建設局で検索してください。過去の情報もご覧いただけます。

東京都建設局公園緑地部 03-5320-5372,5365



【東京都建設局公園HP】



【花の見ごろ情報】

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

印刷物規格表第1類
登録番号 (5) 69

The best time to see flowers.

花の見ごろ情報

2024
3・4



サトザクラ
(イチヨウ)

今月の花



ハナミズキ

サトザクラ(里桜) バラ科 サクラ属 学名:Cerasus Sato-zakura Group

一般的に、サトザクラはオオシマザクラを基にして、ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、マメザクラ、チョウジザクラなどといった野生種から自然交雑や人為的な交配によって生まれた品種の総称とされています。これらの品種は、山で野生に生育するサクラに対して、里で栽培される品種を指す言葉として使われています。サトザクラには、花びらの数が多い品種や、花芽や花の色が多様な特徴的な品種が数多く存在します。また、多くの品種はソメイヨシノに比べて開花が遅いため、様々なサクラによって春の華やかさをより長く楽しむことができます。

サトザクラは、上野恩賜公園、亀戸中央公園、砧公園、小金井公園、旧芝離宮恩賜庭園、清澄庭園、桜ヶ丘公園、汐入公園、神代植物公園、舎人公園、浜離宮恩賜庭園、東綾瀬公園、武蔵野公園などでご覧いただけます。

ハナミズキ(花水木) ミズキ科 ミズキ属 学名:Benthamidia florida

1912年に東京市長がワシントンにサクラを贈ったお礼として、1915年東京にハナミズキが贈られ、現在でも都立園芸高等学校に白花の原木を見ることができます。ハナミズキは、アメリカ東部に自生している「フロリダ種」と西部の西海岸に自生する「ナタリー種」の2種があります。主に日本では、気候に適したフロリダ種を親とした数多くの品種が公園や街路樹などに植えられています。

4枚の花びらに見える部分は、総苞(そうほう)と言い、花を支えるガクの部分にあたり、その中に可憐な花が無数に咲いています。白花のほか赤色や淡紅色の花や、八重咲き、斑入り葉など多様な品種を見ることができます。東京では、サトザクラが終わりを迎える4月中旬頃から花を楽しむことができます。11月になると美しい深紅色に葉が色づきます。都立公園では、秋留台公園、砧公園、日比谷公園、武蔵野の森公園、代々木公園などでご覧いただけます。また、都内の道路にも約6万本が植えられています。



サトザクラ(フゲンゾウ)



ハナミズキ

お問 合 せ 先

● 秋 留 台 公 園	あきる野市二宮 673-1	☎ 042-559-6910
● 上 野 恩 賜 公 園	台東区上野公園 5-20	☎ 03-3828-5644
● 亀 戸 中 央 公 園	江東区亀戸 9-37-28	☎ 03-3636-2558
● 砧 公 園	世田谷区砧公園 1-1	☎ 03-3700-0414
● 小 金 井 公 園	小金井市関野町 1-13-1	☎ 042-385-5611
● 旧芝離宮恩賜庭園	港区海岸 1-4-1	☎ 03-3434-4029
● 清 澄 庭 園	江東区清澄 3-3-9	☎ 03-3641-5892
● 桜 ヶ 丘 公 園	多摩市連光寺 5-15	☎ 042-375-1240
● 汐 入 公 園	荒川区南千住 8-13-1	☎ 03-3807-5181
● 神 代 植 物 公 園	調布市深大寺元町 5-31-10	☎ 042-483-2300
● 舎 人 公 園	足立区舎人公園 1-1	☎ 03-3857-2308
● 浜 離 宮 恩 賜 庭 園	中央区浜離宮庭園 1-1	☎ 03-3541-0200
● 東 綾 瀬 公 園	足立区東綾瀬 3-4	☎ 03-3605-0005
● 日 比 谷 公 園	千代田区日比谷公園 1-6	☎ 03-3501-6428
● 武 蔵 野 公 園	府中市多磨町 2-24-1	☎ 042-361-6861
● 武蔵野の森公園	府中市朝日町 3-5-12	☎ 042-365-8435
● 代 々 木 公 園	渋谷区代々木神園町 2-1	☎ 03-3469-6081

6. 令和5年度 都立公園における都民協働団体一覧表

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	青山公園	青山サクラの会	花壇づくり、清掃	2
2	2	赤塚公園	赤塚公園ニリンソウを守る会	大門地区自生地等のニリンソウを中心とした野草の保護・管理活動、秋から冬にかけて月2回程度の林の手入れ活動、ニリンソウ開花時期における利用者へのガイド活動、植物観察活動	28
	3	赤塚公園	みどりの手	雑木林の復活プロジェクト ニリンソウ観察デイ クリーンアップデイ	17
	4	赤塚公園	いたばし水とみどりの会	バッタ広場の手入れ 自然観察会	27
	5	赤塚公園	NPO法人 いた・エコ・ネット	どんぐりまつり 花壇づくり	19
	6	赤塚公園	徳丸北野神社田遊び保存会	ニフトコ成育観察・保存活動	22
	7	赤塚公園	いたばし野鳥クラブ	野鳥観察・保護活動	15
3	8	秋留台公園	野草愛好会	野草園の維持管理	13
4	9	井の頭恩賜公園	井の頭かんさつ会	自然観察会の開催・外来生物駆除・モニタリング	28
	10	井の頭恩賜公園	あか井の	ガイド、イベントへ参画、整備作業、講師派遣	18
5	11	上野恩賜公園	上野桜守の会	桜の調査、後継樹育成、マップ・HP作成、募金活動など	50
6	12	宇喜田公園	宇喜田ハーブボランティア	花壇維持管理	22
7	13	浮間公園	フィレールラビッツ浮間	園内美化活動、ガーデン活動	7
	14	浮間公園	月まち倶楽部	自然普及活動（天体観望）	10
8	15	大泉中央公園	いずみの会	花壇管理	5
9	16	大神山公園	NPO法人 小笠原野生生物研究会	公園内自然環境保護活動(移入種除去・植栽)、花壇づくり	11
10	17	大島小松川公園	たんぼぼ	花壇維持管理	3
	18	大島小松川公園	わんず・どリー夢	園内清掃・ペット飼育に関する情報の発信	100
	19	大島小松川公園	ガーデンボランティア	花壇維持管理	14
	20	大島小松川公園	都立大島小松川公園スケートボード愛好会SSP	初心者向けスケートボード体験会の開催と利用マナー・ルールの周知活動	12
11	21	大戸緑地	大戸源流森の会	公園内自然環境保護活動、体験学習等イベント活動	20
12	22	尾久の原公園	尾久の原愛好会	園内自然環境管理観察	25
	23	尾久の原公園	花の会	花壇作り	10
	24	尾久の原公園	カバグループ	花壇作り	2
	25	尾久の原公園	わんにゃんパトロール	ペットマナーアップ啓発活動	3
13	26	小山内裏公園	小山内裏公園谷戸山の会	樹林保護・雑木林管理、自然教室・イベント支援他	17
	27	小山内裏公園	小山内裏公園 畑ボランティアグループ	農作物耕作管理、農業体験学習実施、イベント支援他	19
	28	小山内裏公園	小山内裏公園花壇グループ	花壇手入れ、イベント支援他	11
	29	小山内裏公園	子どもの居場所・どんぐり分校	子ども・地域住民の居場所づくり、イベント支援他	20
	30	小山内裏公園	小山内裏わんわんサポーターズ	ドッグラン運営・整備、園内清掃、イベント支援他	183
	31	小山内裏公園	巡回グループ(パークモニター)	園内防犯・防災パトロール、ゴミ拾い、イベント支援他	16
	32	小山内裏公園	ラ・ヴェルデ	音楽活動他	11
	33	小山内裏公園	小山内裏公園 ボランティア連絡会	公園とボランティアの連絡調整、イベント支援他	279
14	34	小山田緑地	小山田緑地田んぼ友の会	稲作・畑作活動	51
	35	小山田緑地	NPO法人鶴見川源流ネットワーク	公園自然環境保護活動(草刈り、生き物調査等)	6
	36	小山田緑地	鶴見川源流自然の会	みはらし広場のエコパッチ管理	15
	37	小山田緑地	梅木窪の会	梅木窪分園での野外談話室の開催やアサザ池管理	4
	38	小山田緑地	フローラクイーン	大久保分園での花壇づくり	6
	39	小山田緑地	小山田緑地里山倶楽部	園内の環境保全活動等	10
15	40	葛西臨海公園	葛西臨海公園 グリーンボランティア	花壇づくり	30
	41	葛西臨海公園	葛西臨海公園 ひがた・たんぼ倶楽部	鳥類園での環境学習・維持管理活動	23
	42	葛西臨海公園	葛西東渚・鳥類園友の会	鳥類園自然保護活動	15
16	43	亀戸中央公園	三地区亀戸学童少年野球連盟	自転車整理・清掃・散水等	150
	44	亀戸中央公園	かめいど花の会	花壇づくり、花壇の維持管理	5
17	45	砧公園	砧公園友の会砧パークアカデミー(KPA)	花壇づくり、花木の剪定など	118
	46	砧公園	Kinuta Park Tokyo e-Dog club	犬連れ飼い主のマナーアップ活動	5
18	47	木場公園	木場公園友の会	都市緑化植園の維持管理、噴水前花壇等花壇の維持管理、SC主催イベントへの協力など	48
	48	木場公園	江東植物愛好会	帰化植物見本園の維持管理(友の会と連携)、イベント開催など	6
	49	木場公園	木場プレーパークぼうけん隊	子供たちの公園での遊びを通じて公園の魅力を発信	13
	50	木場公園	木場公園ドッグランサポーターズ	ドッグランの清掃・管理、しつけ教室開催によるマナーアップ活動	18
	51	木場公園	中地区愛好会(千石一丁目長寿会・江東ワイズメンズクラブ)	中地区大花壇維持管理(木場公園友の会と協働)	24
	52	木場公園	ふとんリサイクル推進協議会	江東区の環境問題ボランティア	4
	53	木場公園	緑の会	園内の植物を写生、作品をミドリアムに展示、スケッチ教室の開催	4
	54	木場公園	木場公園見守り隊	花壇の維持管理、ガーデニングイベントの実施	10
19	55	小金井公園	小金井公園 樹木の会	樹木及び梅林マップ作成、ガイド、園内イベント協力	27
	56	小金井公園	小金井公園 桜守の会	桜の育成管理(清掃、除草、苗木育成)、ガイド、園内イベント協力	22
	57	小金井公園	小金井公園 花の会	花壇管理、清掃、植栽、除草、園内イベント協力	24
	58	小金井公園	小金井公園 ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの清掃、飼い主への啓発活動、園内イベント協力	28

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
	59	小金井公園	小金井公園 野鳥の会	バードウォッチング、探鳥会、除草、清掃、園内イベント協力	1
20	60	駒沢オリンピック公園	駒沢公園 ドッグランサポートクラブ	ドッグランの運営管理	80
	61	駒沢オリンピック公園	NPO法人 グリーンバード 駒沢チーム	清掃	30
	62	駒沢オリンピック公園	nohara GREEN MATE	花壇づくり・管理	15
21	63	小宮・滝山公園	どんぐり会	花壇のお手入れ、野草や野鳥の観察会の開催、野鳥や植物の調査、草地や希少種等の保全活動、外来種駆除作業、イベント支援、機関紙「どんぐり通信」の発行、展示作成ほか	41
22	64	桜ヶ丘公園	雑木林ボランティア	雑木林管理、谷戸田管理、農業文化継承活動、イベント開催、野草等保全調査活動 ほか	70
	65	桜ヶ丘公園・長沼公園・平山城址公園	丘陵地ボランティア	丘陵地レンジャーの活動支援、園内巡回清掃活動、雑木林管理、野草等保全調査活動、イベント開催 ほか	26
	66	桜ヶ丘公園	都立桜ヶ丘公園ドッグランサポーターズの会	ドッグランの管理運営 公園花壇整備	10
23	67	狭山公園	狭山公園友の会	花壇づくり、イベント協力、雑木林の手入れ	40
24	68	狭山・境緑道	西東京・狭山境緑道花の会	花壇づくり、手入れ、清掃	9
	69	狭山・境緑道	こだいら観光まちづくり協会	花壇づくり、手入れ	17
	70	狭山・境緑道	東村山市小彼岸桜の会	苗木管理や剪定など、コヒガンザクラの手入れ	17
25	71	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(花の会)	花壇づくり、清掃	4
	72	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(和ぎの会)	公園利用促進ボランティア	5
26	73	汐入公園	汐入公園ハーブボランティア	花壇作り	15
27	74	篠崎公園	篠崎公園 花笑会	花壇管理	5
	75	篠崎公園	篠崎公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン広場の管理・運営	7
28	76	芝公園	NPO法人 Green Works生物多様性グループ	花壇づくり、清掃、自然観察	10
	77	芝公園	中日本ハイウェイ・メンテナンス東京	花壇づくり、清掃、自然観察	50
	78	芝公園	品川エトワール女子高校	花壇づくり、清掃、自然観察	54
	79	芝公園	クリーンナップフロンティア	花壇づくり、清掃、自然観察	10
29	80	石神井公園	石神井公園野鳥と自然の会	水辺観察園の維持管理(週1回)、自然観察会(月1回)、・「石神井公園 自然の見どころ」ポスター作成・掲示(月1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、池水質調査、他	120
	81	石神井公園	練馬に自然を育む会	野草観察園の維持管理(月3回)	12
	82	石神井公園	石神井・冒険遊びの会	プレイパーク、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、管理所主催の防災訓練などに協力(年1～2回)	40
	83	石神井公園	NPO法人PLAYTANK(プレイタンク)	おひさまびよびよ(幼児向けプレイパーク)	40
30	84	城北中央公園	清掃ボランティア	園内美化活動	20
	85	城北中央公園	城北 DOG WAN	ドッグラン活動	190
	86	城北中央公園	すみれ会	植物管理活動	22
	87	城北中央公園	城北公園・四季の会	自然普及活動・自然環境管理・イベント活動	15
31	88	浅間山公園	浅間山自然保護会	自然環境保全作業、植生調査、植物観察会などイベント運営	45
	89	浅間山公園・武蔵野公園	府中野鳥クラブ	自然環境保全作業、野鳥調査、野鳥観察会などイベント運営	67
	90	浅間山公園・府中の森公園	浅間山ウォーキングクラブ	園内整備、イベント運営	25
32	91	善福寺川緑地	善福寺川さくらの会	花壇づくり、株物・低木剪定、イベントの企画・実施	12
	92	善福寺川緑地	すぎなみ園芸療法クラブ	花壇づくり、花壇の手入れ、定植、植え替え、腐葉土作り	8
33	93	善福寺公園	善福寺白寿会	花壇づくり、清掃、自然観察	15
	94	善福寺公園	善福寺公園友の会・クリーン部会	ゴミ拾い	2
	95	善福寺公園	善福寺公園 友の会 剪定班	園内全域中低木の剪定と刈込み	15
	96	善福寺公園	自然愛護会杉並	杉並区内絶滅危惧種の保全と林緑環境の復元、観察会協力	20
	97	善福寺公園	トロールの森実行委員会	野外アート展、水辺の利用を考える。	10
	98	善福寺公園	善福寺プレーパークの会	遊び場づくり	20
	99	善福寺公園	井荻万寿美会	花壇づくり、清掃	18
	100	善福寺公園	善福寺公園 植物勉強会	復元地で対象植物の選択的除草、移植、植生調査活動	7
	101	善福寺公園	善福寺公園 植生保護班	園内全域中低木の剪定と刈込み	5
	102	善福寺公園	善福寺どんぐり・ピクニッククラブ	公園を楽しみ場づくり	11
34	103	祖師谷公園	ハーブ木曜友の会	花壇の管理	20
	104	祖師谷公園	友の会ポピークラブ	花壇の管理	32
35	105	滝山公園	NPO法人 滝山城址群・自然と歴史を守る会	下草刈・枯枝処理等の遺構景観回復のための維持管理作業、歴史ガイドや講演会の実施など	65
36	106	東京臨海広域防災公園	植物ボランティアガーデンクラブ	花壇作り、中低木の簡単な剪定等	28
37	107	舎人公園	ボランティア 花壇の会	ボランティア花壇、野草園及び周辺整備	23
	108	舎人公園	舎人公園ボランティア 鳥の会	定期野鳥調査、巣箱取付の実施、観察会等イベント協力	11
	109	舎人公園	舎人DOGRUNサポートクラブ	ドッグラン内の管理運営(清掃や簡単な補修、マナーアップ啓発)	23
38	110	戸山公園	新宿・戸山プレイパークの会	幼児親子など遊び場を提供	26
	111	戸山公園	戸山公園に心やすらぐ花壇をつくる会	花壇維持管理、パラの育成	11
	112	戸山公園	松村 竹之介 個人ボランティア	花壇維持管理、側溝清掃	1
	113	戸山公園	陽だまりぽかぽか	花壇維持管理、園内清掃	11

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
	114	戸山公園	戸山公園フラワークラブ	花壇維持管理、園内清掃	19
	115	戸山公園	戸山楽しい花壇部	花壇維持管理	11
	116	戸山公園	内藤とうがらしプロジェクト	花壇維持管理、、イベント共催	5
39	117	中川公園	大谷田花の会	花壇づくり、清掃、自然観察	3
40	118	練馬城址公園	にじいろ咲かせ隊	花壇づくり、クラフトワークショップ	10
41	119	野川公園	野川公園緑の愛護ボランティアの会	自然環境保全活動、イベント運営	111
42	120	野山北・六道山公園	野山北・六道山公園ボランティア	里山の自然と文化を守る。雑木林、田畑、自然観察、伝統食など	291
	121	野山北・六道山公園	岸田んぼ会	田んぼづくりの指導	4
	122	野山北・六道山公園	日本野鳥の会奥多摩支部	雑木林の保全活動、自然観察会、野鳥写真展の開催	576
	123	野山北・六道山公園	武蔵村山自然に学ぶ会	雑木林の保全活動、自然観察会	32
43	124	東綾瀬公園	ハーブボランティア	ハーブを中心とする花壇づくり	16
	125	東綾瀬公園	MKN会	花壇づくり、自然観察	9
	126	東綾瀬公園	NPO法人 わんわんサポーター綾瀬	愛犬との共生、公園散歩のマナー向上	15
44	127	東村山中央公園	東村山市小彼岸桜の会	小彼岸桜生育管理、イベント協力	17
	128	東村山中央公園	東村山中央公園小菊の会	小菊盆栽の仕立て、花壇手入れ、イベント協力	16
45	129	東大和南公園	花葉心雑草の会	ボランティア花壇の維持管理(花苗植付け・除草等)と公園イベントへの協力	13
46	130	光が丘公園	屋敷森の会	剪定、刈込、生き物・植生調査、ガイド	8
	131	光が丘公園	NPO法人みどり環境ネットワーク！	自然環境教育事業、自然観察会・イベント企画	32
	132	光が丘公園	認定NPO法人 生態工房	植生の維持管理、環境学習、外来動植物の駆除	120
	133	光が丘公園	光が丘カントウタンポポのなかま	カントウタンポポ自生地維持管理、自然観察会、植生調査	6
	134	光が丘公園	特定非営利活動法人PLAYTANK	プレーパーク活動	20
	135	光が丘公園	光が丘公園花壇ボランティアの会	花壇育成、維持管理、腐葉土づくり	20
	136	光が丘公園	ツリーマスター クライミング アカデミー・南関東ブロック	木登り体験イベント	15
	137	光が丘公園	一般社団法人水と緑と命のネットワーク	赤塚口花壇維持管理活動	6
47	138	日比谷公園	NPO法人日本トピアリー協会	花壇づくり	4
	139	日比谷公園	日比谷花の会	花壇づくり	11
	140	日比谷公園	(公社)園芸文化協会・日比谷ローズ	バラ花壇の整備と普及啓発	20
	141	日比谷公園	デロイトトーマツ グループ	花壇づくり	40
	142	日比谷公園	日比谷公園 チームクリスマスローズ	コンテナ花壇づくり	9
	143	日比谷公園	清和総合建物株式会社	花壇づくり	100
	144	日比谷公園	太陽石油株式会社	花壇づくり	4
	145	日比谷公園	株式会社 SABON Japan	花壇づくり	51
48	146	水元公園	みずもと自然観察クラブ	自然観察、環境保全	18
	147	水元公園	イネ科花粉症を学習するグループ	水辺環境の再生・創出・保全	7
	148	水元公園	NPO法人水元ネイチャープロジェクト	自然環境の保全・保護	16
	149	水元公園	水元グリーンブラザ友の会	花壇整備ほか	31
	150	水元公園	水元公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン施設の運営	10
	151	水元公園	NPO法人 葛飾動物愛護の会	猫愛護活動	13
	152	水元公園	水元かわせみ倶楽部	自然環境保全、清掃・美化	39
	153	水元公園	大自然塾クラブ	自然環境の保全・保護・整備	15
	154	水元公園	エコシステムアカデミー水元	自然普及活動やイベント開催	24
	155	水元公園	田んぼの会	田んぼの管理作業	5
49	156	武蔵国分寺公園	ドッグラン武蔵国分寺	犬を通じた地域交流(園内清掃、イベント運営等)	61
50	157	武蔵野公園	野川ほたる村	自然環境保全活動、イベント運営、ホテルの生息調査	30
51	158	武蔵野中央公園	武蔵野中央公園ガーデンサポーター	花壇整備	11
	159	武蔵野中央公園	グリーンパークフライヤーズ	イベント協力	70
	160	武蔵野中央公園	倶楽部原っぱ	園内整備、イベント協力	70
	161	武蔵野中央公園	紙飛行機教室の会	教室協力	25
52	162	武蔵野の森公園	ひまわりの会	花壇づくり、イベント参加	14
	163	武蔵野の森公園	府中野鳥クラブ	野鳥観察、野鳥観察会	65
	164	武蔵野の森公園	おはなしキャンプ	絵本の読み聞かせ、工作	6
	165	武蔵野の森公園	おはなし夢くらぶ	絵本の読み聞かせ、工作	12
	166	武蔵野の森公園	おはなしのたね	絵本の読み聞かせ	21
	167	武蔵野の森公園	調布飛行場の掩体壕を保存する会	掩体壕ガイドツアーなど	5
53	168	夢の島公園、夢の島熱帯植物館	夢の島公園、夢の島熱帯植物館ボランティア会	公園花壇管理、植物館ガイド等	20
54	169	代々木公園	武蔵野バラ会	フラワーランドバラ花壇の管理	168
	170	代々木公園	代々木公園ボランティア	フラワーランドバラ花壇の管理、樹木観察会など	73
	171	代々木公園	NPO法人 日本コミュニティガーデニング協会	花壇管理およびハーブ講座	40
	172	代々木公園	代々木公園ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの管理運営等	7

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
	173	代々木公園	代々木公園ガーデニングクラブ	花壇管理	11
	174	代々木公園	特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所	花壇管理、清掃活動	10
55	175	陵南公園	IVUSA	イベントサポート、花壇づくり、園内清掃など	60
	176	陵南公園	ガーデンサポーター	花壇づくり	9
56	177	林試の森公園	森のアトリエ	枯枝・落葉を利用した工作	5
	178	林試の森公園	ホリデークラフト	腐葉土作成、花壇づくり、イベントの企画立案サポート	4
	179	林試の森公園	ワンTEAM	犬のマナーアップ、清掃活動	25
	180	林試の森公園	ユーカリガーデン	花壇づくり、清掃	7
	181	林試の森公園	森ねこいる会	東京都のルールに則った保護猫活動	31
57	182	蘆花恒春園	NPO法人蘆花会	イベント実施、蘆花記念館展示・資料調査協力等	18
	183	蘆花恒春園	NPO法人芦花公園花の丘友の会	花壇管理、イベント実施、とんぼ池及び自然観察資料館管理	47
	184	蘆花恒春園	蘆花恒春園ワンクラブ	ドッグラン管理運営、公園内イベント・パトロール協力	32
	185	蘆花恒春園	芦花公園しあわせの野音の会	音楽会（パークライブ）実施、かやぶきコンサート協力	16
	186	蘆花恒春園	木と根	雑木林内で生物多様性保全に努めながら作業や調査などの活動	5
58	187	六仙公園	六仙公園花ボランティア	花壇づくり、手入れ、清掃	7
59	188	和田堀公園	FIT杉並会	済美山自然林、観察の森の整備及び植生調査	25
	189	和田堀公園	杉並ねっこワーク	子供達の遊び場をベースとした地域交流	10
	190	和田堀公園	済美山グリーンキープ	園内の清掃	15
	191	和田堀公園	ゆうゆう大宮堀ノ内館	花壇作り	4
59公園	191団体	開園公園			6,042人
					0
公園	団体	未開園公園			人

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	旧岩崎邸庭園	茅町コンドル会	ガイド	73
	2	旧岩崎邸庭園	金唐紙友の会	金唐草紙の普及啓発	17
	3	旧岩崎邸庭園	花ふじフラワースクール	館内の花による装飾	35
2	4	旧芝離宮恩賜庭園	旧芝離宮恩賜庭園ガイドボランティアの会	庭園ガイド	15
3	5	旧古河庭園	旧古河庭園ボランティアガイドの会	庭園ガイド	31
	6	旧古河庭園	西ヶ原フラワーロード会	本郷通りの清掃、花苗植付・管理	13
4	7	清澄庭園	清澄庭園ガイド倶楽部	庭園ガイド	35
5	8	小石川後楽園	文京区立 柳町小学校	田植え、案山子づくり、稲刈り	80
	9	小石川後楽園	NPO法人 小石川後楽園庭園保存会	イベント協力、調査活動	100
	10	小石川後楽園	小石川後楽園ガイドクラブ	庭園ガイド	44
6	11	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園ガイドボランティア	庭園ガイドとガイドに関する調査	19
	12	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園花の会	展示室ほかの生け花展示	3
7	13	浜離宮恩賜庭園	浜離宮庭園ガイドクラブ	園内ガイド	43
	14	浜離宮恩賜庭園	NPO法人水辺と生物環境保全推進機構	園内大泉水環境調査・保護活動、環境学習	25
8	15	向島百花園	墨田朝顔愛好会	大輪朝顔展の開催	45
	16	向島百花園	百花園ガイドの会	庭園ガイド	34
	17	向島百花園	墨田区ラジオ体操連盟向島地区	清掃活動	38
9	18	六義園	六義園ガイド倶楽部	庭園ガイド	35
9庭園	18団体	庭園			685人

1	1	井の頭自然文化園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 79
2	2	恩賜上野動物園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 117
	3	恩賜上野動物園	恩賜上野動物園樹木美化ボランティア	園内の樹木や花壇などの緑地管理の手伝い	17
	4	恩賜上野動物園	日本赤十字社東京都支部	ゴールデンウィークなどの繁忙時における、迷子相談所の運営、迷子保護及び捜索活動など	70
3	5	葛西臨海水族園	東京シーライフボランティアーズ	園内の生物ガイド、イベント共催	105
4	6	神代植物公園	神代植物公園ドッグラン・サポーターズクラブ	清掃、しつけ教室、チラシ発行など	46
	7	神代植物公園	22世紀の森づくり・神代	森林整備、イベントの開催	52
	8	神代植物公園	神代植物公園ガイドボランティアクラブ	公園のガイド活動	51
5	9	多摩動物公園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 79
	10	多摩動物公園	TAMAZO(たまぞう) 特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	雑木林の保全管理による里山の再生、来園者に親しまれる森づくりなど	70
4動物園	7団体	動物園		*DGは3動物園の総数	873人
1植物園	3団体	植物公園			149人

1	1	雑司ヶ谷霊園	緑のこみちの会	園内、外周部の花壇づくり、外周部の清掃	21
2	2	染井霊園	染井花の会	花壇管理	5
3	3	八柱霊園	一般社団法人 恩送り	特設墓地の清掃活動	25
3霊園	3団体	霊園			51人

全箇所	全団体	全人数	
59公園	191団体	6,042人	計画・開園公園
公園	団体	人	未開園公園
9庭園	18団体	685人	庭 園
4動物園	7団体	873人	動物園
1公園	3団体	149人	植物公園
3霊園	3団体	51人	霊 園
76園	222団体	7,800人	

7. 東京都都市公園制度制定150周年記念事業によるヤマボウシ植樹先一覧表

実施公園	本数（本）
善福寺公園	2
舎人公園	8
葛西臨海公園	15
木場公園	16
光が丘公園	3
砧公園	1
駒沢オリンピック公園	5
合計	50

8. バックナンバー目次（その1～その50）
その1＜昭和47年度＞

1. 公園地樹木の生育状態	1
(1) 生育被害調査	1
(2) 生育状態調査一覧表	7
(3) これらに関係ある委託報告などの要約	15
2. 公園緑地の土壌関係	20
(1) 土壌状態調査	20
(2) これが対策などについての委託・文献の要約	26
3. 公園緑地植栽・樹木利用度調査	32
(1) 公園造成にともなう植栽・樹木・株物の 利用状況について	32
(2) 公園造成における苗木の需要数量調査	34
(3) 公園街路等の植栽・樹木・株物の需要状況 (区役所関係)	38
(4) 既設公園などに植栽されている樹種順位	40
4. 公園緑地植栽・樹木の活着状況調査	42
(1) 土壌条件別、樹種別	42
(2) 活着状況調査	44
5. 公共用樹木の需供関係について	50
(1) 公共緑化用樹木の需要と生産などについて	50
(2) 苗木育成の課題	61
6. 都立公園等植栽設計上配慮すべき問題点	65

その2＜昭和48年度＞

1. 都立主要公園内外に於けるSO ₂ ・NO ₂ ・NO調査についての報告	1
2. 東京都内都市公園などの樹木生育障害状況について	2
3. 緑化樹木の耐都市環境性について	15
4. 公園緑地樹木の生育実態調査	23
5. 昭和47年度都立公園樹木活着率調査	33
6. 都立公園植栽樹種利用度などの調査	40
7. 昭和47年度委託調査の要約	47
(1) 東京湾埋立地緑化対策報告	47
(2) 公害対策試験並に緑化資料の蒐集と解析	50
(3) 植物材料(造園樹木)市場に関する調査	53
(4) 公園緑地の生態調査(樹木と土壌)	60
(5) 街路樹生態調査(その1)	62
(6) 街路樹に関する道路構造調査	63
8. その他資料	66
(1) マツノザイセンチュウ調査	66
(2) 主な都市緑化樹などの特性一覧表	67

その3＜昭和49年度＞

1. 昭和48・49年度委託調査の要約	1
(1) 都市緑化樹木の選出と植栽管理技術調査	1
(2) 東京港湾埋立地緑化対策	25
(3) 街路樹生態調査(その2)	45
(4) 街路樹の水分代謝に関する調査	53
(5) 街路樹の光合成能力に関する調査	62
2. 都立公園けやきの生育障害状況について	71
3. 都立公園の植栽地面積率について	85
4. 都立公園の植栽状況について	90
△ 植栽密度	
△ 形状別樹木構成	
△ 公園別主要景観構成木	
△ 昭和48年度都立公園植栽実績	
5. 都立公園の土壌調査について	101

その4＜昭和50年度＞

1.	植栽に対する基本的な考え方	1
2.	東京23区の緑地・樹木の実態調査集計報告(中間報告)	82
3.	東京都農業試験場における緑化に関する研究について	91
4.	都立公園土壌調査結果要約	95
5.	都立公園分類別植栽地率調査(昭和50年6月現在)	97
6.	昭和49年度都立公園・動物園・霊園植栽本数一覧表	98
7.	昭和49年度植栽主要樹種名一覧表	98
8.	昭和49年度都営苗圃・委託育成払出調査	100
9.	昭和49年度植栽樹木一覧表	101
10.	都立公園・霊園・動物園植栽調査	104
11.	緑化に関する収集文献資料リスト	110

その5＜昭和51年度＞

1.	土壌改良の手引き	1
2.	幹線道路における植樹帯の遮音効果	56
3.	歩道植樹帯における浮遊ふんじんの軽減効果	69
4.	東京都内の公園におけるカイガラムシの寄生調査	71
5.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	73
6.	都市緑化対策推進要綱	80
7.	保存樹及び保存樹林の指定状況	83
8.	都立公園分類別植栽地率調書(昭和51年6月現在)	87
9.	昭和50年度都立公園・霊園・動物園・植栽本数一覧表	88
10.	昭和50年度都営苗圃・委託育成払出調書	88
11.	昭和50年度植栽樹木一覧表	90
12.	都立公園・霊園・物園樹木現況調書(昭和51年4月現在)	92
13.	昭和45～50年度都立公園・霊園・動物園における 植栽樹種順位	98
14.	東京都内街路樹管理者別数量調書	101

その6＜昭和52年度＞

1.	保全緑地公園における植生の保護及び 保全管理技術に関する調査	1
2.	防災公園の緑のあり方について	33
3.	樹木の生長曲線に関する調査	51
4.	樹木の根系の発達と土壌の関係について	60
5.	有機質土壌改良剤の緑化木への適用試験	64
6.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	70
7.	八柱霊園のマツノザイセンチュウ病防除について	90
8.	昭和51年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	93~94
9.	昭和51年度都営苗圃、委託育成苗木払出調書	93~94
10.	昭和51年度植栽樹木一覧表	95
11.	東京都内街路樹管理者別数量調書	98

その7＜昭和53年度＞

1.	樹木の生長曲線に関する調査	1
2.	街路樹生長量追跡調査	11
3.	公園緑地樹木の生育実態調査	25
4.	海上公園の植栽について	34
5.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	84
6.	区、市町別緑地現況調査	116
7.	都立公園分類別植栽地率調書	120
8.	昭和52年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	121
9.	昭和52年度都営苗圃、委託育成苗木払出調書	121
10.	昭和52年度植栽樹木樹種別一覧表	123
11.	東京都内街路樹管理者別数量調書	127

その8＜昭和54年度＞

1.	台風20号による樹木被害状況調査	1
2.	保存樹及び保存樹林の指定状況	16
3.	東京都農業試験場における緑化に関する研究	39
	(1) 観賞用針葉樹の特性および利用	40
	(2) 街路樹等緑化樹に発生する害虫とその被害実態	56
4.	樹木苗木生長量調査	78
5.	街路樹生長量追跡調査	81
6.	区・市町別緑地現況調査	92
7.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	98
8.	北部公園緑地事務所管内樹種調書	106
9.	駒沢公園樹種調査	107
10.	東京の都市公園における植栽樹種調書	108
11.	昭和53年度都知事管理道路植栽樹種別一覧表	111
12.	昭和53年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	113
13.	昭和53年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	113
14.	昭和53年度植栽樹木一覧表	115
15.	東京都内街路樹管理者別数量調書	117
16.	都立公園分類別植栽地率調書	119
17.	東京都街路樹年表	120
18.	東京都内樹木天然記念物一覧表	123
19.	東京気象表(抜粋)	125

その9＜昭和55年度＞

1.	日比谷公園生態調査	1
2.	造園植物特性	37
3.	都立公園・霊園・動物園サクラ現況調査	66
4.	樹木苗木生長量調書	76
5.	樹木発芽および生長量調査	79
6.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	83
	(1) 東京都におけるマツノザイセンチュウの分布と その被害状況(森林環境保全試験)	84
	(2) 有機物施用効果試験	92
7.	東京都の道路緑化状況調査	99
	(1) 道路緑化の現況	99
	(2) 道路緑化の推移	100
	(3) 東京都内街路樹管理者別調書	102
	(4) 昭和54年度都知事管理道路における植栽	103
	(5) 街路樹カラーイメージアンケート	106
	(6) 東京都の道路緑化管理管轄表	119
8.	都立公園分類別植栽地率調書	121
9.	昭和54年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	123
10.	昭和54年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	123
11.	東京気象表(抜粋)	125

その10＜昭和56年度＞

1.	植栽樹木実績調査	1
2.	造園植物特性	51
3.	樹木苗木生長量調査	72
4.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	89
	(1) 東京都におけるトウカエデのうどん粉病	90
	(2) コナラ萌芽の初期成長に関する研究	93
5.	東京都の道路緑化状況調査	104
	(1) 道路緑化の現況	104
	(2) 道路緑化の推移	105
	(3) 東京都内街路樹管理者別調査	107
	(4) 昭和55年度都知事及び都管理道路における植栽	108
	(5) 街路樹生長量追跡調査	111
6.	都市計画区域外緑地現況調査	115

7.	都立公園分類別植栽地率調書	117
8.	昭和55年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	119
9.	昭和55年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	119
10.	東京気象表(抜粋)	121
11.	緑化に関する調査報告(その1～その10)索引	123
12.	保存資料及び図書目録	
	(公園緑地部計画課計画第二係保管)	134

その11＜昭和57年度＞

1.	公園緑地生態調査	1
	(1) 上野恩賜公園生態調査	5
	(2) 恩賜上野動物園生態調査	21
	(3) 武蔵野公園生態調査	50
2.	表土保全調査	85
3.	神代植物公園緑の相談所 緑化相談実績調査	138
4.	台風10号による街路樹(都道)被害実態調査	154
5.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	163
	(1) 植木の連作障害と対策	164
6.	東京都の道路緑化状況調査	170
	(1) 道路緑化の現況	170
	(2) 道路緑化の推移	171
	(3) 東京都内街路樹管理者別調書	172
	(4) 昭和56年度都知事及び都管理道路における 植栽樹種別一覧表	173
7.	都立公園分類別植栽地率調書	175
8.	昭和56年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	177
9.	昭和56年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	177
10.	東京気象表(抜粋)	179

その12＜昭和58年度＞

1.	浜離宮恩賜庭園生態調査	1
2.	公園土壌改善のための基礎事項と実践例	57
3.	世論調査、アンケート等による緑化意識の動向	99
4.	樹木苗木生長量調査	120
5.	都農業試験場における緑化に関する調査	141
	(1) トウカエデ首垂細菌病の発生状況	141
	(2) 植木に発生するコガネムシ類の生態と防除	149
6.	東京都の道路緑化状況	153
	(1) 道路緑化の現状	154
	(2) 道路緑化の推移	161
	(3) 街路樹生長量追跡調査	175
7.	公園緑地行政をとりまく情勢の推移 一年表形式で―	179
8.	外国都市との交換種苗	191

□ 資 料

1.	都内の花の見所	217
2.	花言葉一覧	219
3.	園芸愛好普及団体一覧	223
4.	造園関係団体・組織・出版物一覧	226
	(1) 団体・組織	226
	(2) 出版物	230
5.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	232
6.	都立公園分類別植栽地率調書	237
7.	昭和57年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	239
8.	昭和57年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	239
9.	東京気象表(抜粋)	241

その13＜昭和59年度＞

1.	松くい虫の生態とその防除	1
----	--------------	---

2.	水元公園はなしょうぶ調査報告	14
3.	街路樹定点観測報告	35
4.	植栽樹木枯損状況調査	50
5.	六義園生態調査	75
6.	井の頭恩賜公園生態調査	136
7.	都政モニターアンケート	215
	「身近な緑」より	
8.	東京都の花「そめいよしの」に正式決定	228
9.	東京・北京友好都市提携5周年記念植樹	232
10.	緑の倍增計画と公園整備事業	239
	□ 資 料	
1.	緑の相談所利用状況	245
2.	東京都の道路緑化状況	249
3.	都立公園分類別植栽地率調書	255
4.	昭和58年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	257
5.	昭和58年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	259
6.	東京気象表(抜粋)	260

その14＜昭和60年度＞

1.	バードサンクチュアリの造成にあたって	
	―光が丘公園での経験より―	1
2.	雑草管理と除草剤の概要	36
3.	街路樹関係苦情陳情調査	50
4.	ピクエアレーションにより土壌改良について	60
5.	ユウカリ栽培の経緯(その1)	72
6.	東綾瀬公園生態調査	82
7.	陵南公園生態調査	106
8.	殿ヶ谷戸公園生態調査	125
9.	浅間山公園自然環境調査	144
10.	緑化の普及・啓発事業	175
	(1) 全国都市緑化フェア	175
	(2) 都民グリーンフェスティバル ’85	177
	(3) ガーデンシティ多摩 ’85	177
	(4) 第5回ふるさと東京まつり	178
	(5) 都市緑化月間の緑化普及行事	178
	(6) 都立公園ガイドの作成	181
11.	国際交流事業	184
	(1) 北京市人民代表大会友好代表团による	
	記念植樹(第3回)	184
	(2) カウラ日本庭園造成	186

	□ 資 料	
1.	緑の相談所利用状況	193
2.	東京都の道路緑化状況	195
3.	都立公園分類別植栽地率調書	201
4.	昭和59年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	203
5.	昭和59年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	205
6.	東京気象表(抜粋)	207
7.	公園別・樹種別樹木現況	208
8.	過去10年間・植栽樹木上位4種一覧表	211

その15＜昭和61年度＞

1.	公園システム管理・維持管理資料整備編	
	―多摩ニュータウンの事例より―	1
2.	伊豆大島におけるオオシマツツジの保全	31
3.	緑の相談所の新しい動き	39
	(1) 映像による植物図鑑の導入	39
	(2) 戸山公園緑の相談室開室 ―展示について―	42
4.	農薬の概要と病虫害防除	48

5.	緑化道路整備事業 植栽樹種調査	58
6.	街路樹剪定手法の一提案(リフト車使用)	64
7.	ユーカリ栽培の経緯(その2) 鉢植栽培	68
8.	コンポストの施用効果と安全性調査	75
9.	芦花公園自然環境調査	90
10.	代々木公園生態調査	120
11.	緑化及び公園事業の普及啓発	164
	(1) グリーンマップ発行	164
	(2) 街路樹マップ発行	166
	(3) 緑の公園フェスティバル'86実施	167
	(4) 海のふるさと村開村記念式	168
	(5) 自然公園の普及事業	170
	(6) 各種グリーンフェア参加	174
	(7) アンケート「好きな公園・樹・草花」の 実施結果について	180
12.	国際交流事業	183
	(1) ニューヨークへハス寄贈	183
	(2) パリへ石燈籠を寄贈	184
	(3) カウラ日本庭園完成	192
□ 資 料		
1.	緑の相談所利用状況	197
2.	東京都の道路緑化状況	199
3.	都立公園分類別植栽地率調書	205
4.	昭和60年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	207
5.	昭和60年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	209
6.	昭和61年東京気象表(抜粋)	210

その16＜昭和62年度＞

1.	東京都におけるケヤキの活力度調査について	1
2.	海のふるさと村(大島公園)植物園整備について	7
3.	公園のリーフレットの作り方	17
4.	街路樹 緑視率調査報告	29
5.	野川公園自然観察会の記録	38
6.	水元公園緑の相談所開設	51
7.	緑の図書室解説	58
8.	絶滅に瀕する小笠原固有種の育成・ 増殖・植生復元について	66
9.	花壇施工の実例について	70
10.	ユーカリ栽培の経緯(その3)	78
11.	浜離宮庭園自然環境調査	96
12.	向島百花園自然環境調査	121
13.	猿江公園生態調査	153
14.	清澄庭園生態調査	165
15.	芦花垣春園生態調査	179
16.	洗足公園生態調査	193
17.	野川公園生態調査	205
18.	善福寺公園生態調査	222
19.	'87緑の倍增計画と公園整備事業	241
20.	緑化及び公園事業の普及啓発	249
	(1) グリーンマップの作成発行	249
	(2) 小笠原ビジターセンター開設	251
	(3) 各種グリーンフェアへの参加	252
□ 資 料		
1.	緑の相談所利用状況	259
2.	東京都の道路緑化状況	265
3.	東京都内街路樹等管理者別数量調査	274
4.	都立公園・都道内の花木植栽状況一覧表	275
5.	昭和61年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	276

6. 昭和61年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表 278

その 1 7 <昭和 6 3 年度>

第 1 部 技術調査編

1. 目黒公園自然環境調査 1

2. 赤塚公園自然環境調査 32

3. 目黒公園生態調査 48

4. 芝公園生態調査 74

5. 台場公園生態調査 94

6. 井の頭自然文化園生態調査 109

7. 丘陵地公園の植生管理について 122

8. 樹木生長量調査 131

9. ユーカリ栽培の経緯(その4) 150

1 0. ユーカリの病虫害防除試験について 160

1 1. 親緑施設のデザインについて 169

1 2. 文化財庭園の保存・復原・並びに
管理等に関する調査..... 178

1 3. 光が丘のイチヨウについて 194

1 4. 街路樹(エンジュ)病害調査報告 206

1 5. まちかど庭園の整備 216

第 2 部 管理運営報告編

1. 夢の島熱帯植物館の開館 220

2. 東京都緑の図書室活動報告 238

3. 海のふるさと村(大島公園)椿資料館の開館..... 245

4. 高尾ビジターセンターの自然教室 253

5. 東アフリカ、タンザニア国造園技術
研究員を受け入れて..... 263

6. ミラ・トリエンナーレ(ミラ/国際博覧会)への出展について 271

第 3 部 資料編

1. 緑の相談所の利用状況 283

2. 東京都の道路緑化状況 283

3. 昭和62年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 .. 285

4. 昭和63年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 .. 287

5. 昭和63年度都立公園の設計使用樹種上位10種 289

その 1 8 <平成 2 年度>

第 1 部 技術調査編

1. 絶滅に瀕する小笠原固有植物の育成・
増殖研究について 5

2. 東大和公園自然環境調査 39

3. 砧公園自然環境調査 81

4. 砧公園生態調査 110

5. 篠崎公園生態調査 120

6. 向島百花園の植栽について 140

7. 樹木生長量調査 145

8. 「道路のみどり」からとらえた東京の地域特性 173

9. 都立公園の維持管理計画について 182

第 2 部 運営報告編

1. 奥多摩自然公園管理センター
(奥多摩ビジターセンター)の運営について 197

2. 水元公園緑の相談所の運営について 213

3. 国際花と緑の博覧会東京都出展について 224

第 3 部 資料編

1. 平成元年度 東京都・緑の相談所 相談実績..... 237

2. 東京都の道路緑化状況 238

3. 平成元年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 .. 251

4. 苗圃配置図と栽培実績 253

その 19 <平成 3 年度>

□ 技術調査編

公園管理と農薬

東京都の公園のあり方に関するアンケート調査について

樹木(街路樹)の土木からの検証例の紹介

平成2年度生態調査の概要

—東白鬚公園、日比谷公園、城北中央公園—

□ 管理運営報告編

日比谷グリーンサロン(日比谷公園緑の相談所)の運営から

街路樹維持管理のOA化について

公園管理受託5年を経過して

—施設維持管理について—

□ 資料編

1. 緑の相談所活動実績(平成2年度)

2. 東京都の道路緑化状況(平成2年度)

3. 平成2年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表

4. 平成2年度都立公園の設計使用樹種上位10種

5. 過去5年間の委託調査一覧

6. 東京都の緑化行政組織一覧

7. 都市緑化施設年表

8. 都市公園利用実態調査実績一覧

9. 都市公園の巨木一覧

10. 造園緑化団体一覧

11. 都市公園別植栽地率

12. バックナンバーの目次

その 20 <平成 4 年度>

1 技術調査編

・公園緑地の都市の熱汚染抑制効果について

・水元公園水辺ゾーンにおける水質改善事例

・「姉妹・友好都市との街路樹交換に関する調査」について

・平成3年度生態調査の概要

—石神井公園・狭山公園・蘆花垣春園・亀井戸中央公園—

・平成3年度自然環境調査の概要 —光が丘公園—

2 管理運営報告編

・夢の島熱帯植物館 —大温室の植物管理—

・八丈ビジターセンターの開設について

・東京都緑の公園フェスティバル'92

3 資料編(グリーンファイル)

1. 緑の相談所活動実績(平成3年度)

2. 東京都の道路緑化状況(平成3年度)

3. 平成3年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表

4. 過去4年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10種

おおよび過去5年間に於ける都立公園植栽樹木の傾向

5. 過去6年間の委託調査一覧

6. 都市緑化施設年表

7. 都市公園利用実態調査実績一覧

8. 都市公園の巨木一覧

9. 東京都の天然記念物

10. 緑化地区位置図

11. 造園緑化関連団体一覧

12. 東京の樹木医リスト

13. 植物開花時期調査(神代植物公園記録)

14. バックナンバーの目次

その 2 1 <平成 5 年度>

I. 技術調査編

- 竹芝ふ頭公園の人工地盤上の植栽について 3
- 浮間公園のカムフラージュ作成(ふれあい拠点整備)..... 19
- 平成4年度 生態調査の概要
一和田堀公園、清澄庭園、旧芝離宮庭園、
水元公園、浮間公園一 38
- 平成4年度 自然環境調査の概要

一桜ヶ丘公園、井の頭恩賜公園、林試の森公園一 81

II. 管理運営編

- 浅間山のマシノキスガの保護 125
- 丘陵地公園の市民参加型植生管理
一都立桜ヶ丘公園雑木林ボランティア活動一 133
- 緑のフェスティバル'93 146
＜国際交流事業＞
- 「東京カレド友提携記念」日本庭園(東京庭園)の
造成と寄贈..... 155

III. 資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 緑の相談所 活動実績(平成4年度)
 - (1) 相談件数等 171
 - (2) 講習会 172
- 2. 東京都の道路緑化状況(平成4年度) 174
- 3. 平成4年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表 184
- 4. 過去5年間における都立公園の設計使用樹種上位10位
(低・中・高木別) 185
- 5. 都市公園利用実態調査実績一覧 187
- 6. 都立公園緑化施策年表
 - (1) 国 188
 - (2) 東京都 189
- 7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別) 190
- 8. 緑化に関する調査報告(その1～その20)に掲載された
報告等一覧(項目別)..... 196
- 9. 東京都の天然記念物 205
- 10. 都市公園の巨木一覧 208
- 11. 緑化地区位置図 209
- 12. 造園関連団体一覧 210
- 13. バックナンバーの目次 212

その 2 2 <平成 6 年度>

I. 技術調査編

- 都市における緑の効用機能の解明 1
- 都市公園における「水辺の再生」について 11
- 親緑施設のデザインについて 32
- 平成4年度 生態調査の概要
一戸山公園箱根山地区、戸山公園大久保地区、
上野恩賜公園一..... 42

II. 管理運営報告編

- 一公園施設の夜間利用について一
 - ① 葛西臨海水族園「微塵子博覧会」の開催 77
 - ② 「夜咲く花の鑑賞会」の実施について 82
- 公園で活動するボランティアについて 88
- 山のふるさと村クラフトセンター建設について 97
- 東京都緑の公園フェスティバル'94 106
- 「日比谷公園とわたし展」の企画と実施について 116
＜都区交流事業＞
- 平成6年度都市緑化連絡会活動について 127

III. 資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績(平成5年度)	137
2. 東京都の道路緑化状況(平成5年度)	138
3. 平成5年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	145
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (低・中・高木別)	146
5. 花の見ごろ情報リスト	147
6. 都立公園緑化施策年表	
(1) 国	149
(2) 東京都	150
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別)	151
9. 東京都の天然記念物	157
10. 都市公園の巨木一覧	160
11. 緑化地区位置図	161
12. 造園関連団体一覧	162
13. バックナンバーの目次	164

その23＜平成7年度＞

I. 技術調査編	
1. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落の復元	1
2. 阪神・淡路大震災に於ける公園・緑化の状況について	13
3. 長沼公園雑木林調査	24
4. 浜離宮庭園に於けるカワウの生息状況	33
5. 平成6年度 生態調査の概要 ―浜離宮庭園、向島百花園―	48
6. 平成6年度 自然環境調査の概要 ―第六台場―	94
II. 管理運営報告編	
1. 石神井公園に於けるヤマザクラの立曳きについて	113
2. 苗圃の変遷	122
3. 外国都市との交換種苗	129
4. 東京都緑の公園フェスティバル '95	138
III. 資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成6年度)	149
2. 東京都の道路緑化状況(平成6年度)	152
3. 平成6年度都立公園等植栽本数一覧表	160
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (高・中・低木別)	162
5. 花の見ごろ情報リスト	163
6. 緑化施策年表	164
7. 東京都の天然記念物	166
8. 都市公園の巨木一覧	169
9. 緑化地区位置図	171
10. ボランティア一覧	172
11. 造園関連団体一覧	173
12. バックナンバーの目次	175

その24＜平成8年度＞

I. 技術調査編	
特集:東京の里山	
1. 東京の里山	1
2. 桜ヶ丘公園萌芽更新区域植物調査の概要	8
3. 平成7年度 小宮公園雑木林調査委託の概要	18
4. 保全地域に於ける雑木林萌芽更新調査	28
5. 新たな谷戸管理手法の確立	50
6. 本紙掲載の里山関連文献	63
調査報告文	
1. 都市公園の水辺環境調査について	64
2. 平成7年度 街路樹樹勢調査の概要	89
3. 街路樹(ケヤキ)の育成管理調査について	104

4. 平成7年度 自然環境調査の概要 ―長沼公園― …… 114

II. 管理運営報告編

1. 街の植樹祭の歩み …… 141

2. 東京都緑の公園フェスティバル ’96 …… 149

3. 平成7年度 都市緑化連絡会活動について …… 160

III. 資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績(平成7年度) …… 177

2. 緑の相談所 相談内容の調査について …… 181

3. 東京都の道路緑化状況(平成7年度) …… 190

4. 平成7年度都立公園等植栽本数一覧表 …… 198

5. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10位
(高・中・低木別) …… 200

6. 平成8年度花の見ごろ情報年間リスト …… 201

7. 緑化施策年表 …… 202

8. 東京都の天然記念物 …… 204

9. 都市公園の巨木一覧 …… 207

10. 緑化地区位置図 …… 209

11. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧 …… 210

12. 造園関連団体一覧 …… 211

13. バックナンバーの目次 …… 213

その25＜平成9年度＞

I. 25周年記念特集

1. 都市緑化の変遷25年 …… 1

2. 発刊から25周年を迎えて …… 7

II. 技術調査編

1. 平成8年度 緑の基礎調査の概要
―芝公園、水元公園― …… 27

2. 環境緑地帯調査 …… 86

3. 新しい都市型緑化植物の選定と低コスト生産技術の開発 …… 138

III. 管理運営報告編

1. 「花の名所づくり」事業について …… 169

2. 東京都緑の公園フェスティバル ’97 …… 180

3. 平成8年度都市緑化連絡会活動について …… 194

4. 都営苗圃の再編計画について …… 208

5. 「緑の相談所ネットワーク」の改正について …… 216

6. 5年目を迎えた花の見ごろ情報について …… 220

資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績(平成8年度) …… 225

2. 東京都の道路緑化状況(平成7年度) …… 229

3. 平成8年度都立公園等植栽本数一覧表 …… 237

4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位
(高・中・低木別) …… 239

5. 平成9年度花の見ごろ情報年間リスト …… 240

6. 緑化施策年表 …… 241

7. 東京都の天然記念物 …… 243

8. 都立公園の巨木一覧 …… 246

9. 緑化地区位置図 …… 248

10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧 …… 249

11. 造園関連団体一覧 …… 250

12. バックナンバーの目次 …… 252

その26＜平成10年度＞

I. 緑化行政の変遷25年をふまえての実例

1. 地域の声を活かした多自然型川づくり …… 1

2. 「花の名所づくり」
―亀戸中央公園・代々木公園― …… 9

II. 技術調査編

1. 平成9年度 緑の基礎調査の概要 —善福寺川緑地、東大和公園、 浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮恩賜庭園・清澄庭園—	23
2. 街路樹診断マニュアル	81
3. 神代植物公園水生植物園の管理と生物	123
4. 公園管理と『環境ホルモン』問題	147
5. 浄水場発生土加工土が緑化植物の生育に及ぼす影響	169
6. 土木技術研究所ニュース	175
Ⅲ. 管理運営報告編	
1. 東京都緑の情報センターの開設について	177
2. 東京都緑の公園フェスティバル'98	188
3. 平成9年度都市緑化連絡会活動について	199
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成9年度)	215
2. 東京都の道路緑化状況(平成9年度)	219
3. 平成9年度都立公園等植栽本数一覧表	227
4. 過去5年間ににおける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	230
5. 平成10年度花の見ごろ情報年間リスト	231
6. 緑化施策年表	232
7. 東京都の天然記念物	234
8. 都立公園の巨木一覧	237
9. 緑化地区位置図	239
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	240
11. 造園関連団体一覧	241
12. バックナンバーの目次	243

その27＜平成11年度＞

Ⅰ. 技術調査編	
1. 平成10年度 緑の基礎調査の概要 —葛西臨海公園、夢の島公園、浅間山公園、 井の頭恩賜公園—	1
2. 屋上等人口地盤緑化について	69
3. 都立公園の外国産樹木(交換樹木等)について	82
4. 土木技術研究所ニュース(その2)	112
5. 植栽実績調査の長期間集計の結果から	126
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況(平成10年度)	131
2. 平成10年度都立公園等植栽本数一覧表	138
3. 過去5年間ににおける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	141
4. 平成11年度花の見ごろ情報年間リスト	142
5. 東京都の天然記念物	143
6. 都立公園の巨木一覧	146
7. 緑化地区位置図	148
8. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	149
9. 造園関連団体一覧	150
10. バックナンバーの目次	152

その28＜平成12年度＞

Ⅰ. 特集『都民参加の緑づくりの実践』	
1. 「22世紀の都市の森づくり」について	1
2. ボランティア団体「22世紀の森づくり・神代」報告	19
3. 都民による公園づくり —芦花公園花の丘友の会と木場公園友の 会の活動について—	23
4. 「東京構想2000」と「緑の東京計画」について —都民、NPO等との協働に注目して—	44

II. 技術調査編

1. 平成11年度 緑の基礎調査の概要

―六義園、小石川後楽園、旧古河庭園―

57

2. 平成11年度 緑の基礎調査の概要

―秋留台公園―

80

3. 平成11年度 緑の保全回復調査の概要

―殿ヶ谷戸庭園―

94

4. 都立自然公園に生息するオオタカの保護の取り組み

～羽村草花自然公園大澄山園地に生息する

オオタカの保護計画～

108

5. 水元公園権八池水生植物回復調査委託

123

6. 農場試験場報告

142

7. 土木技術研究所ニュース

148

III. 管理運営報告編

1. 緑の情報センター及び緑の相談所の事業終了について

153

2. 「緑と水」の市民カレッジ開校

158

3. 平成10年度・11年度都市緑化連絡会について

161

資料編(グリーン・ファイル)

1. 緑の相談所 活動実績

165

2. 東京の道路緑化状況

172

3. 平成11年度 都立公園等植栽本数一覧表

179

4. 過去5年間ににおける都立公園等の設計使用樹上位10種

182

5. 平成12年度 花の見ごろ情報年間リスト

183

その29＜平成13年度＞

I. 技術調査編

1. 平成12年度 緑の基礎調査の概要

―日比谷公園―

1

2. 平成12年度 緑の基礎調査の概要

―井の頭恩賜公園―

15

3. 平成12年度 緑の保全回復調査の概要

―東大和公園―

26

4. 三宅島における緑の回復に関わる基礎調査

38

5. 野山北・六道山公園における樹林地更新について

55

6. 屋上緑化植栽と維持管理技術について

67

7. 土木技術研究所ニュース

79

8. 三宅島2000年噴火火山灰の植生回復への影響

91

II. 管理運営報告編

1. 平成12年度 都市緑化連絡会活動について

99

資料編(グリーン・ファイル)

1. 平成12年度 委託調査一覧表

103

2. 東京都の道路緑化状況

105

3. 平成12年度 都立公園等植栽本数一覧表

111

4. 過去5年間ににおける都立公園等の設計使用樹上位10種

114

5. 平成13年度 花の見ごろ情報年間リスト

115

6. 公園別樹木本数

116

7. 公園別主要樹木一覧

118

その30＜平成14年度＞

I. 技術調査編

1. 平成13年度 緑の基礎調査の概要

―代々木公園、旧岩崎邸庭園―

1

2. 平成13年度 緑の保全回復調査の概要

―六義園ほか2庭園緑の回復工事―

20

3. 自然環境調査の概要

―平成12年度・平成13年度 代々木公園―

32

4. 水元公園権八池水生植物調査

46

5. 壁面緑化について

61

6. 土木技術研究所ニュース	
―ヒートアイランド対策と三宅島緑化―	72
Ⅱ. 管理運営報告編	
1. 平成13年度 緑の情報連絡会	
(旧都市緑化連絡会) 活動について	89
2. 東京都民緑地について	
―祖師谷公園成城九丁目市民緑地、	
小山田緑地梅木窪市民緑地―	92
3. 「小金井公園桜守ボランティア」について	100
4. 公園ボランティア登録「小金井公園桜守の会」報告	105
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 平成13年度 委託調査一覧	109
2. 東京の道路緑化状況	111
3. 平成13年度 都立公園等植栽本数一覧表	117
4. 過去5年間における都立公園の設計使用樹上位10種	120
5. 平成14年度 花の見ごろ情報年間リスト	121
6. 公園別樹木本数一覧	122
7. 公園別主要樹木一覧	124

その3 1 <平成15年度>

I. 特集「みどりの活性化」	
1. 都立庭園でのライトアップの実施	1
2. 水元公園「大自然塾」の取り組み	6
Ⅱ. 技術調査編	
1. 平成14年度 緑の基礎調査の概要	
―光が丘公園―	17
2. 石神井公園 三宝寺池植物群落復元追跡調査	
―水辺の再生事業―	32
3. 上野恩賜公園 不忍池における水浄化実験	43
4. 野山北・六道山公園 自然環境調査報告	55
5. 道路緑化「新樹種プロジェクト」の取り組みについて	65
6. 壁面緑化の普及に向けて	74
7. 土木技術研究所ニュース	
―三宅島の緑化に関する調査及び報告―	85
Ⅲ. 管理運営報告編	
1. 平成14年度 緑の情報連絡会活動について	97
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京の道路緑化状況	101
2. 平成14年度 都立公園等植栽本数一覧表	107
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	110
4. 公園別樹木本数一覧	111
5. 公園別主要樹木一覧	113
6. 平成15年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
7. 緑の基礎調査関連 実績表	116

その3 2 <平成16年度>

I. 技術調査編	
1. 平成15年度 緑の基礎調査の概要	
―谷中霊園ほか2霊園樹木等調査の概要―	1
2. 街路樹の樹種選定について	
―樹種選定樹木リスト【主要45種】の策定―	20
3. 街路樹樹種選定樹木リスト【主要45種】の各樹種について	37
4. 行幸通りイチョウ並木の樹勢回復	48
5. 小山内裏公園動植物調査	64
6. 街路樹の緑陰効果の検証(中間報告)	78
7. 無灌水を指向した屋上緑化システムの熱特性と降雨貯留特性	90
8. マット植物の開発について	104
Ⅱ. 管理運営報告編	

1. 平成15年度 緑の情報連絡会活動について	111
2. コアラ飼育20年、ユーカリ栽培21年	116
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京の道路緑化状況	121
2. 平成15年度 都立公園等植栽本数一覧表	127
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	130
4. 委託調査一覧(平成14・15年度)	131
5. 平成16年度 花の見ごろ情報年間リスト	135

その33＜平成17年度＞

I. 技術調査編	
1. 平成16年度 井の頭恩賜公園湧水調査報告(概要)	1
2. 街路樹の路線別目標樹形「街路樹よくなるシート」の活用について	17
3. 壁面緑化の効果測定	25
4. 地表の温度変化を通してみた街路樹の緑陰効果	41
5. 護岸緑化による護岸温度変化	56
II. 管理運営報告編	
1. 夢の島熱帯植物館のこれまでを振り返って	69
2. 野山北・六道山公園に於ける都民協働	84
3. 平成16年度 緑の情報連絡会活動について	100
4. 平成16年度 都市公園利用実態調査の報告	106
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	119
2. 平成16年度 都立公園等植栽本数一覧表	125
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	128
4. 委託調査一覧(平成16年度)	129
5. 平成17年度 花の見ごろ情報年間リスト	131

その34＜平成18年度＞

I. 技術調査編	
1. 元気な樹木づくりの手引き(樹木診断編)の作成について	1
2. 宿根草品目・品種の耐光性と耐暑性に関する評価	6
3. 外気温の変化を通してみた街路樹の緑陰効果	15
4. 夏期暑熱期における河川周辺の外気と河川沿いの緑地帯の温度変化	30
II. 管理運営報告編	
1. 平成17年度 都市公園利用者満足度調査報告(概要)	47
2. 平成17年度 緑の情報連絡会 活動報告	75
3. 平成17年度 都市公園利用実態調査の報告	78
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	97
2. 平成17年度 都立公園等植栽本数一覧表	103
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	106
4. 委託調査一覧(平成17年度)	107
5. 平成18年度 花の見ごろ情報年間リスト	109

その35＜平成19年度＞

I. 技術調査編	
1. よりよい屋上緑化のための土選び	1
II. 管理運営報告編	
1. 水元大自然クラブの活動について ～大自然塾5年間の実績と修了生の活動について	11
2. 都立公園における借地公園事業について	17
3. 西部公園管内における民有地の借地公園事業について	27
4. 野山北・六道山公園保全・活用計画について	32
5. 平成18年度 緑の情報連絡会 活動報告	69
6. 平成18年度 都市公園利用実態調査の報告	71

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	93
2. 平成18年度 都立公園等植栽本数一覧表	99
3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	102
4. 委託調査一覧(平成18年度)	103
5. 平成19年度 花の見ごろ情報年間リスト	105
6. バックナンバー目次(その1～その34)	106
7. 平成18年度 都立公園における都民協働団体一覧表	107

その36<平成20年度>

I. 技術調査編	
1. 新しい街路樹～ファスティギアータイプ樹木について	1
2. 元気な樹木づくりの手引き(樹林地管理編)の作成について	10
3. 都立公園の池の水質について	17
II. 管理運営報告編	
1. プレ・パーク事業「観音寺の森」活動について	37
2. (財)東京都公園協会「みどりのiプラザ」の設置と運営	50
3. 舎人公園もりもりフェスティバルについて	54
4. 平成19年度 緑の情報連絡会 活動報告	66
5. 平成19年度 都市公園利用実態調査の報告	68

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成19年度 都立公園等植栽本数一覧表	91
3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	94
4. 委託調査一覧(平成19年度)	95
5. 平成20年度 花の見ごろ情報年間リスト	97
6. バックナンバー目次(その1～その35)	98
7. 平成19年度 都立公園における都民協働団体一覧表	106

その37<平成21年度>

I. 技術調査編	
1. 上野恩賜公園の森づくりと桜守について	1
II. 管理運営報告編	
1. 世界バラ会連合優秀庭園賞受賞について	13
2. エジプト・アラブ共和国ヘルワン県 「東京庭園」修復工事について	24
3. グリーンロード・ネットワークの形成・充実に向けた 「街路樹の充実」事業とそれに伴う「マイ・ツリー ーわたしの木ー」事業の実施について	30
4. 市民緑地事業について	40
5. 平成20年度 緑の情報連絡会活動について	42
6. 平成20年度 都市公園利用実態調査の報告	44
7. プレパーク事業「大戸源流森の会」について	61
8. ブルガリアローズの寄贈について	69

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	75
2. 平成20年度 都立公園等植栽本数一覧表	81
3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	84
4. 委託調査一覧(平成20年度)	85
5. 平成21年度 花の見ごろ情報年間リスト	87
6. バックナンバー目次(その1～その36)	88
7. 平成20年度 都立公園における都民協働団体一覧表	96

その38<平成22年度>

I. 技術調査編	
1. 浜離宮恩賜庭園「松の御茶屋」の復元整備について	1
II. 管理運営報告編	

1. 東京臨海広域防災公園について 13

2. 「ユビキタス・コミュニケーター（携帯情報端末：U C）」
によるガイドについて 22

3. 日露知事会におけるチシマザクラの
モスクワ市寄贈について 30

4. 平成21年度 緑の情報連絡会活動について 45

5. 駒沢オリンピック公園の記念樹～バットと宇宙ケヤキ～ .. 47

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況 53

2. 平成21年度 都立公園等植栽本数一覧表 60

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種 63

4. 委託調査一覧(平成21年度) 64

5. 平成22年度 花の見ごろ情報年間リスト 66

6. バックナンバー目次（その1～その37） 67

7. 平成21年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表 75

その39＜平成23年度＞

I. 技術調査編

1. 東村山中央公園・狭山公園の樹木調査の報告 1

2. 井の頭恩賜公園の森づくりについて..... 16

3. 公園等のマツ枯れ防除に向けた取組..... 24

4. 街路樹用樹木の根圏と管理特性に及ぼす根域制限の影響..... 32

II. 管理運営報告編

1. 野山北・六道山公園に於ける都民協働について
(大自然塾総括) 51

2. 平成21、22年度 都市公園利用実態調査の報告..... 60

3. 樹木点検員養成研修の実施と樹木点検員認定について..... 75

4. 平成22年度 緑の情報連絡会活動について 83

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況 85

2. 平成22年度 都立公園等植栽本数一覧表 92

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種 95

4. 委託調査一覧(平成22年度) 96

5. 平成23年度 花の見ごろ情報年間リスト 98

6. バックナンバー目次（その1～その38） 99

7. 平成22年度 都立公園に於ける都民協働団体一覧表 107

その40＜平成24年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 神代植物公園植物多様性センターの開設について..... 1

2. 神代植物公園植物多様性センターの整備について..... 16

3. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保護復元事業
～順応的管理による水辺の再生事業～..... 27

II. 管理運営報告編

1. 都立公園等に於ける生物多様性保全への取り組み..... 37

2. 都立公園がつなぐ「生物多様性」 45

3. 夢の島公園の樹林地管理について..... 58

4. 水元公園・原風景づくりを牽引する直営作業..... 65

5. 神代植物公園開園50周年記念事業について..... 71

6. ショクダイオオコンニャクの開花について..... 82

7. 平成23年度 都市公園利用実態調査の報告..... 96

8. 平成23年度 緑の情報連絡会活動について..... 103

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況..... 107

2. 平成23年度 都立公園等植栽本数一覧表..... 114

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種..... 117

4. 委託調査一覧(平成23年度)..... 118

5. 平成24年度 花の見ごろ情報年間リスト..... 120

6. バックナンバー目次（その1～その39） 121

3. 東京都保全地域における「保全活動ガイドライン」の
策定・・・ 16

4. 街路樹根系強度調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

5. 神代植物公園所蔵「韻勝園梅譜」（模写帖）について・・・・ 34

6. 可搬式緑化コンテナによる夏季の暑熱対策・・・・・・・・ 40

II. 管理運営編

1. ショクダイオオコンニャクの開花について・・・・・・・・ 45

2. 身近な自然体験の場・「いきもの広場」・・・・・・ 49

3. かいぼりイベントにおけるボランティアの参加状況・・・・ 59

4. 平成26年度 神代植物公園植物多様性センターの取組・・・・ 67

5. 平成26年度 緑の情報連絡会 活動報告について・・・・ 73

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）・・・・・・ 75

2. 平成26年度 都立公園等植栽本数一覧表・・・・・・・・ 82

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種・・・・ 85

4. 委託調査一覧（平成26年度）・・・・・・・・・・・・ 86

5. 平成27年度 花の見ごろ情報年間リスト・・・・・・・・ 88

6. バックナンバー目次（その1～その42）・・・・・・ 89

その44＜平成28年度＞

I. 技術調査・計画編

1. よみがえる!!イノカシラフラスコモ！
『水草再生ものがたり』・・・・・・ 1

2. 危険な外来生物に関する東京都の取組について・・・・ 11

3. 今春、初開花した2種の野生ランの無菌培養・・・・ 17

4. 河川・海岸敷等の緑化に向けた樹種の選定・・・・ 26

II. 管理運営編

1. 都立公園ガイドサービスシステム構築の報告・・・・ 31

2. 多摩地域の自然公園における植生の保護・・・・ 38

3. 国際優秀つばき園登録へ向けた取り組みについて・・・・ 46

4. ニューヨーク市への桜の寄贈について・・・・ 51

5. 夏のおもてなしガーデントライアル2016について・・・・ 61

6. 平成27年度 神代植物公園植物多様性センターの取組・・・・ 69

7. 平成27年度 緑の情報連絡会 活動報告について 75

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）・・・・・・ 77

2. 平成27年度 都立公園等植栽本数一覧表・・・・・・・・ 83

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種・・・・ 86

4. 委託調査一覧（平成27年度）・・・・・・・・・・・・ 87

5. 平成28年度 花の見ごろ情報年間リスト・・・・・・・・ 89

6. バックナンバー目次（その1～その43）・・・・・・ 90

その45＜平成29年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 東京2020大会に向けた街路樹の樹冠拡大の取組・・・・ 1

2. 旧浜離宮庭園「延遠館」の復元整備事業について・・・・ 9

3. 「東京の自然公園ビジョン」の策定と展開・・・・ 24

4. 日比谷公園つつじ山再生に向けた調査と展開について・・・・ 33

5. 都立庭園を演出する冬の添景物「雪吊り」の庭園技能
伝承・・・ 42

6. 夏季高温期に適応する苗もの花き品目の選定および
利用技術の開発・・・・・・・・ 49

II. 管理運営編

1. ニューヨーク市街路樹調査と街路樹マップ・・・・ 59

2. 日本・チリ修好120周年チリマツ記念植樹式の実施・・・・ 72

3. 人にも生きものにも優しい緑「江戸のみどり
登録緑地」募集中！・・・・ 77

4. かいぼりで守り、取り戻す！溜め池の生物多様性・・・・ 80

5. ヒナワチガイソウ保全活動に向けた生活史調査・・・・・・・ 88

6. 平成28年度 神代植物公園植物多様性センター年報・・・・・・・ 96

7. 平成28年度 緑の情報連絡会活動報告・・・・・・・ 104

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）・・・・・・・ 107

2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表・・・・・・・ 113

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種・・・・・・・ 116

4. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト・・・・・・・ 117

5. 都立公園における都民協働団体一覧・・・・・・・ 118

6. バックナンバー目次（その1～その44）・・・・・・・ 122

その46＜平成30年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 伝統園芸植物の栽培・普及の取組・・・・・・・ 1

2. 街路樹向き緑化植物における防火機能の評価・・・・・・・ 23

3. ラン科植物の無菌培養技術向上と展示・・・・・・・ 31

4. 明治の森高雄国定公園指定50周年記念事業・・・・・・・ 37

II. 管理運営編

1. 都立・区立の公園・庭園におけるハナショウブ栽培管理の
現状・・・・ 41

2. 光が丘公園バードサンクチュアリ池で行われた16年ぶりの
かいぼり・・・・ 52

3. 平成29年度夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告・・・・・・・ 71

4. 「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」の策定と成果・・・・ 81

5. 御陵の入口にふさわしい風格のある公園づくりを目指して・・ 92

6. 地域の核となる公園へ！狭山公園80周年記念事業・・・・・・・ 101

7. 平成29年度 神代植物公園多様性センター年報・・・・・・・ 111

8. 平成29・30年度 緑の情報連絡会活動報告・・・・・・・ 122

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）・・・・・・・ 125

2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表・・・・・・・ 131

3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種・・・・・・・ 134

4. 委託調査一覧（平成28・29年度）・・・・・・・ 135

5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト・・・・・・・ 145

6. 都立公園における都民協働団体一覧・・・・・・・ 146

7. バックナンバー目次（その1～その45）・・・・・・・ 150

その47＜令和元年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 三宅島雄山の東京都版エコツアーリズム導入

2. 多様な生物が生息する都立公園づくり事業について

3. ナラ枯れ被害対策の取組について

4. ハナショウブの観賞のポイントを紹介するリーフレットの作成

5. 向島百花園の胡枝花洞（ハギのトンネル）の修復について

6. 種子採取による生息域外保全の取組

II. 管理運営編

1. 令和元年台風第15号「令和元年房総半島台風」
・第19号「令和元年東日本台風」による被害について

2. 丘陵地公園の生き物保全から普及啓発まで

3. 平成30年度 神代植物公園植物多様性センター年報

4. 平成30年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
ヘルシーパークプロジェクト

5. ～身近な公園を活用した健康づくり～

6. 公園を地域の環境教育拠点として最大限に活用
～都立小宮公園における取組み～

7. 里山公園における生物多様性向上の取り組み

8. 平成31年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
- 2. 平成30年度都立公園等植栽本数一覧表
- 3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
- 4. 委託調査一覧（平成30年度）
- 5. 平成31年度 花の見ごろ情報年間リスト
- 6. 都立公園における都民協働団体一覧
- 7. バックナンバー目次（その1～その46）

その48＜令和2年度＞

- I. 技術調査・計画編
 - 1. 「街路樹診断等マニュアル」の改定について
Revision of Manual for Street Trees’ Diagnosis
 - 2. 民間企業との連携による緑化に関する取組について
 - 3. 都立公園池水質改善事業における事業報告について
 - 4. 高荳草地エリアの管理について
～『武蔵野のくさはら』の再現～
 - 5. 狭山丘陵におけるナラ枯れ被害調査と対策について
 - 6. 豊洲市場における屋上の試験植栽について
- II. 管理運営編
 - 1. 令和元年度 神代植物公園植物多様性センター年報
 - 2. コロナ禍における公園利用実態の変化と公園管理者の取組み
 - 3. 平成31年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
 - 4. コロナ禍の都立大島小松川公園の管理運営と利用の実態
 - 5. 令和2年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
- 2. 令和元年度都立公園等植栽本数一覧表
- 3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
- 4. 委託調査一覧（令和元年度）
- 5. 令和2年度 花の見ごろ情報年間リスト
- 6. 都立公園における都民協働団体一覧
- 7. バックナンバー目次（その1～その47）

その49＜令和3年度＞

- I. 技術調査・計画編
 - 1. 小笠原諸島聳島列島におけるネズミ駆除の効果
 - 2. 都内におけるクビアカツヤカミキリの生態と対策の現状
 - 3. チリ国立ビーニャ・デル・マル植物園へのサクラ種子の寄贈について
 - 4. 公園・緑地管理におけるGISの活用
 - 5. 都立公園の小面積皆伐によるナラ枯れ被害の回避
- II. 管理運営編
 - 1. 令和2年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
 - 2. 日常にスポーツを～むさしのヘルシーパークプロジェクト～
 - 3. 令和2年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
 - 4. 2021（令和3）年度都市部の公園・東部グループの管理運営と利用の実態
 - 5. 令和3年度 緑の情報連絡会活動について

資料編(グリーン・ファイル)

- 1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
- 2. 令和2年度都立公園等植栽本数一覧表
- 3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
- 4. 委託調査一覧（令和2年度）
- 5. 令和3年度 花の見ごろ情報年間リスト
- 6. 都立公園における都民協働団体一覧
- 7. バックナンバー目次（その1～その48）

その50＜令和4年度＞

- I. 技術調査・計画編

1. 井の頭恩賜公園浅場報告について
2. 猿江恩賜公園の生物多様性事業について
3. 生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引

Ⅱ. 管理運営編

1. 令和3年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
2. 令和3年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
地域とともに創る花と笑顔あふれる公園へ
3. ～浮間公園に1万本のチューリップを！～
4. 光が丘公園バードサンクチュアリにおける生物多様性保全の取組みについて
5. 小金井公園の裏方を楽しむ
6. 皆伐更新による雑木林管理
7. コミュニティガーデンのすすめ
8. 令和4年度 都立東綾瀬公園における花壇づくり等の取組

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)
2. 令和3年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧(令和3年度)
5. 令和4年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次(その1～その50)